

YAMAHA ELECTONE[®]

ME-400 ME-600

取扱説明書

このたびはヤマハエレクトーンをお買いあげいただきましてありがとうございます。

エレクトーンME-400・ME-600は、楽器づくりの経験ゆたかなヤマハが、時代の最先端をいく電子テクノロジーを結集して完成させた画期的なエレクトーンです。独自のデジタル技術を大幅に導入し、プログラム機能、メモリー機能など数々の新機能を搭載。楽器は初めてという方からキーボードの経験がある方まで、手軽に音楽創造の喜びを味わっていただくことができます。

演奏にあたりましては、その多彩な機能を存分にお楽しみいただくため、あらかじめこの説明書をよくお読みください。また、お読みになったあとは大切に保管し、わからないことが生じたときにもう一度ご覧になってください。きっとお役に立ちます。

(ME-400・ME-600の主な特長)

●幅広く楽しめる2つのプログラム機能。

演奏する曲のコードやベース、サウンドのセッティングなどをあらかじめプログラムしておけるコードシーケンスプログラマー(C.S.P.)と、演奏を各パートごとに録音/再生することができるミュージックプログラマー(M.P.)を搭載。初心者から上級者まで幅広い楽しみ方ができます。

●やさしさと楽しさも抜群。

ボタンひとつでサウンドがセットできるレジストレーションメニューをはじめ、ライブ感覚あふれるアルペジオコード、オートリズム、オートベースコードなど、やさしく楽しい機能を数多く採用。完成度の高い演奏を手軽にお楽しみいただけます。

●充実した表現力と優れた演奏性。

豊富な音色群に加え、自由に音色の移動ができるボイスメニューによって、表現力はいちだんと充実。さらに、音色やリズムのセッティングを記憶させておけるレジストレーションメモリーによって、優れた演奏性を実現しています。

●先進の音源技術による生き生きとした音質。

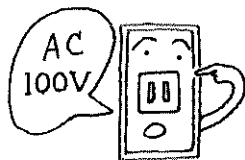
ナチュラルな楽器音を実現するヤマハならではのFM音源方式をすべての音色に採用。また、実際の打楽器音をデジタル録音したFWM音源方式によって、リズム音はとてリアルです。

●広がる楽しさ、MIDI対応。

エレクトーンでは初めてのMIDI端子を装備。さらに楽しさを広げることができます。

ご使用上の注意

必ず、AC100Vのコンセントから電源を。



大型クーラーやセントラルヒーティングの電圧は、AC(交流)200Vのものがあります。誤って接続すると大変危険ですので、充分ご注意ください。また、船舶などでは、DC(直流)電源を使用している場合がありますので、よくお確かめください。

電源プラグの扱いに注意。



ぬれた手で電源プラグにふれると、感電するおそれがありますので、充分ご注意ください。また、コードの断線やショートを防ぐため、電源コードをコンセントから抜くときは、電源プラグ自体を持って抜いてください。

エレクトーンの内部には、絶対ふれないで。



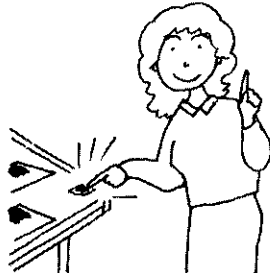
エレクトーンの改造や部品の取りはずしは、大変危険ですので、絶対におやめください。故障だと思われる場合は、お求めの販売店もしくは電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。

内部に水が入った場合は。



誤って水などをかけ、エレクトーンの内部に入ってしまった場合は、ただちに電源スイッチを切り、電源プラグを抜いた上で、お求めの販売店もしくは電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。

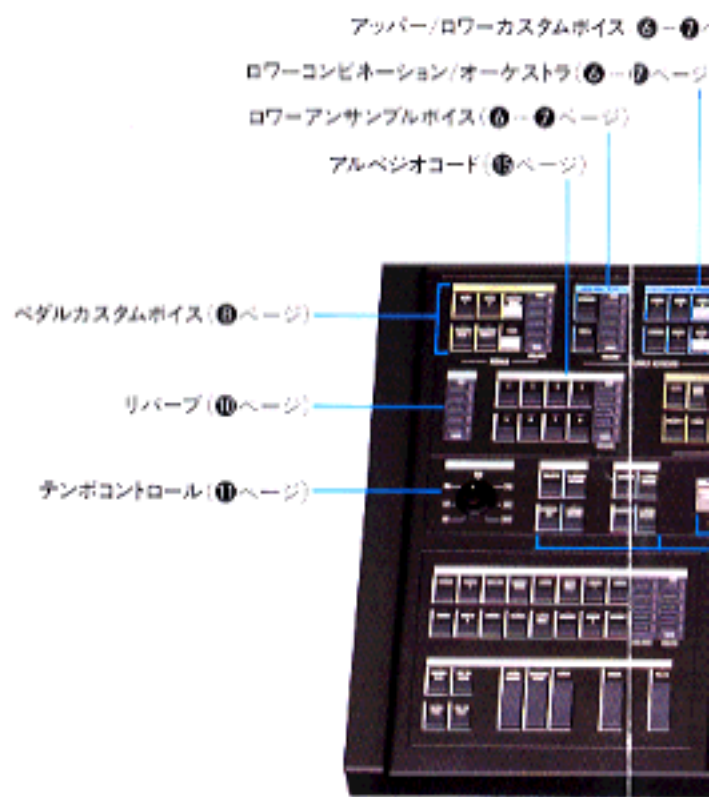
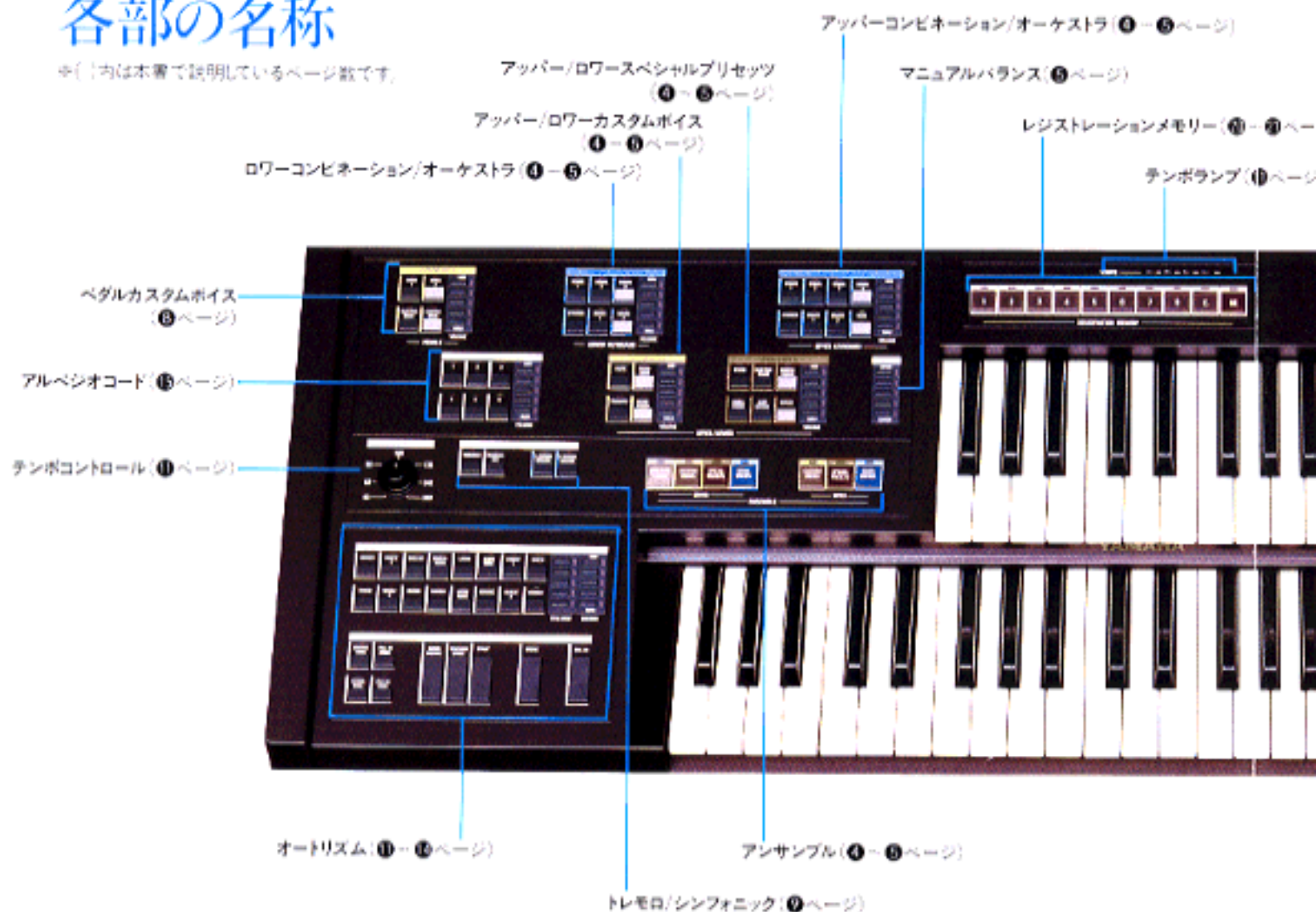
電源スイッチを切り忘れないように。



電源が入ったまま長時間放置すると、思わぬ事故の原因になることがありますので、使用後は、必ず電源スイッチを切ってください。

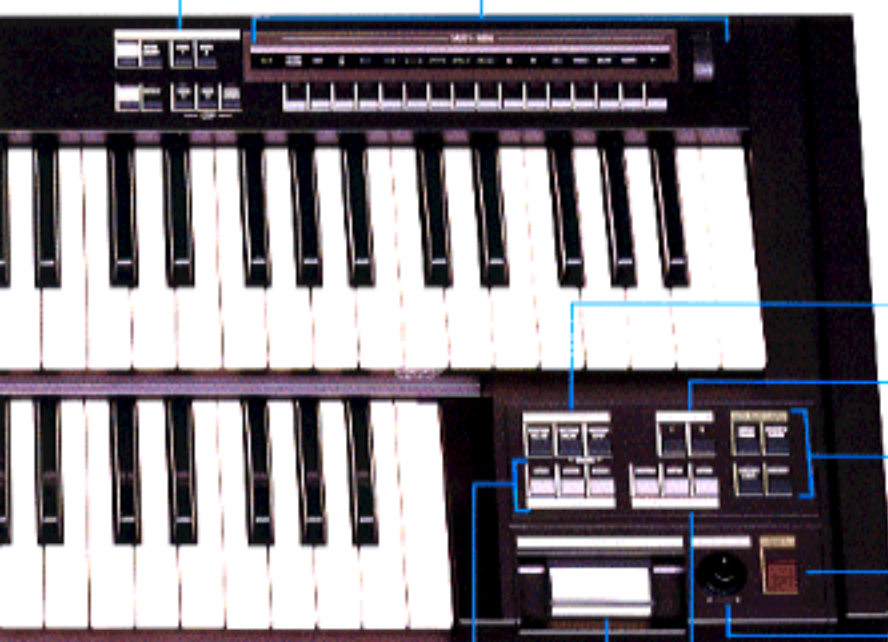
各部の名称

※()内は本書で説明しているページ数です。



①ページ) コードシーケンスプログラマー & ミュージックプログラマー(④～⑤ページ)

ページ) マルチメニュー(⑥～⑦ページ)



ME-400

フットスイッチセクター(⑩ページ)

メロディーオンコード(⑩ページ)

オートベースコード(⑩～⑪ページ)

電源スイッチ(⑤ページ)

マスターボリューム(⑤ページ)

プレイヤービブラート(⑩ページ)

サステイン(⑩ページ)

レジストレーションバック(⑩ページ)

①～⑦ページ) アッパーアンサンブルボイス(⑥～⑦ページ)

ページ) アッパー/ロウズスペシャルプリセット(⑥～⑦ページ)

アッパーコンビネーション/オーケストラ(⑥～⑦ページ)

マニュアルバランス(⑦ページ)



アンサンブル(⑥～⑦ページ)

トレモロ・シンフォニック(⑩ページ)

(左上のコントロールパネル以外の配置は、VE-400と異なります。)

もくじ

I.演奏を はじめる前に

主な機能のやくわり	2
まず音をだしてみよう	3

II.基本的な機能

上鍵盤と下鍵盤の音色 [ME-400]	4
上鍵盤と下鍵盤の音色 [ME-600]	6
ペダル鍵盤の音色	8
効果 [ME-400]	9
効果 [ME-600]	10
オートリズム	11
アルペジオコード	15
オートベースコード	16
メロディーオンコード	19
レジストレーションメモリー	20

III.マルチメニューの 楽しみ方

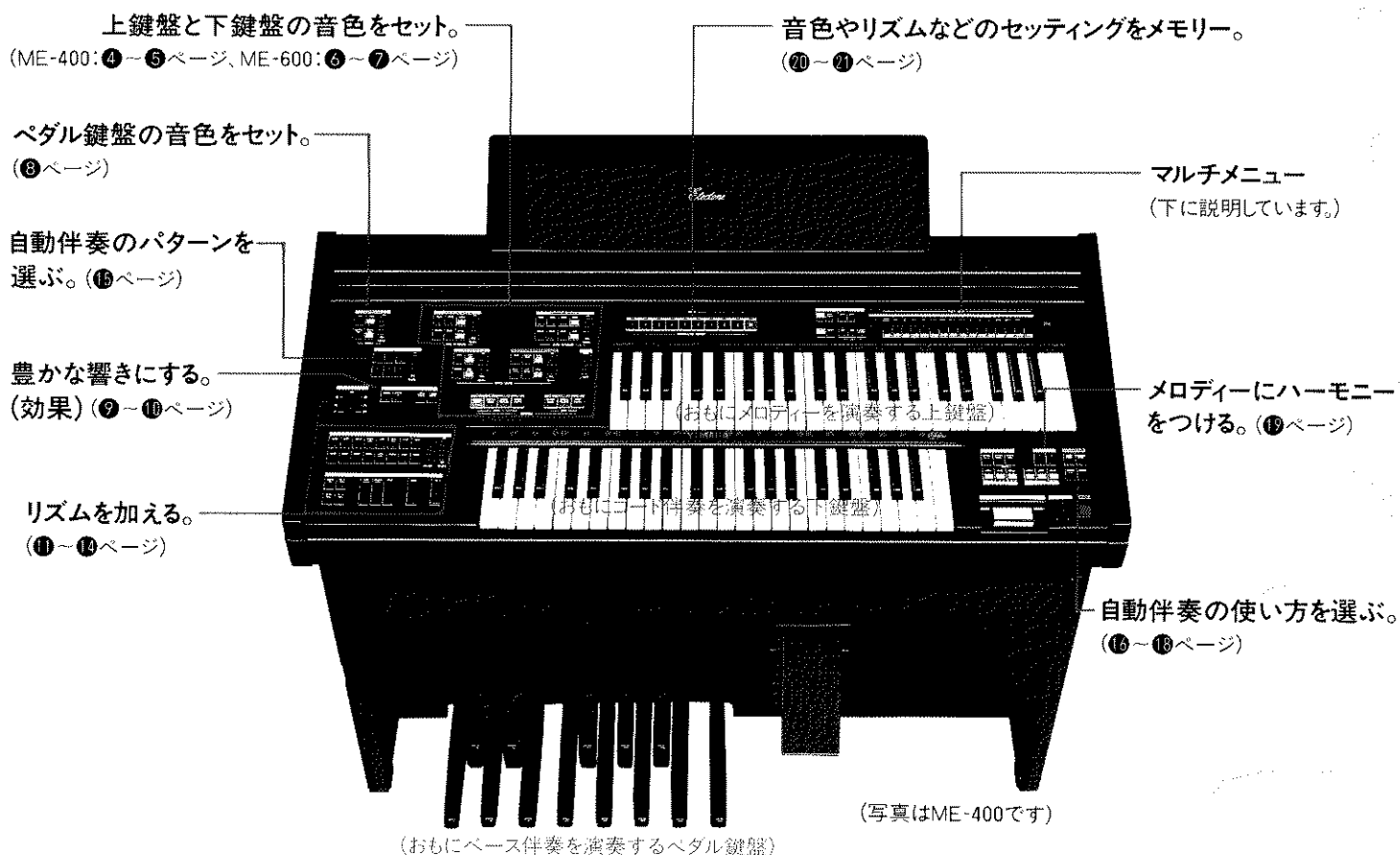
レジストレーションメニュー	22
コードシーケンスプログラマー (C.S.P.)	23
ミュージックプログラマー (M.P.)	28
ボイスメニュー	33
プレイヤービブラート	35
サステイン	36
トランスポジション & ピッチ	37
カセット & パック	38

● 付属端子とオプション	40
● 末永く安全にお使いいただくために	41
● ハーモニーパーク・エレクトーン教室のご案内	42
● 仕様と音域表	43
● 故障とお考えになる前に	44
● アフターサービスと保証	46
● エレクトーン豆知識	48

I.演奏をはじめる前に

主な機能のやくわり

※()内は本書で説明しているページ数です。



ボタンひとつで代表的なサウンドがセットできます。(⑫ページ)



演奏する曲の伴奏をあらかじめブログしておくことができます。(⑬～⑭ページ)



演奏を各パートごとに録音することができます。(⑮～⑯ページ)



コントロールパネルのグレーのボタンに音色を移すことができます。(⑮～⑯ページ)



ビブラート効果のかかり方を記憶させておくことができます。(⑮ページ)



サステイン効果のかかり方を記憶させておくことができます。(⑮ページ)



全体の音程を半音の単位でかえたり、微妙に調節することができます。(⑮ページ)

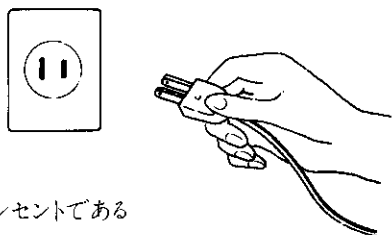


記憶させた情報をレジストレーションパックやカセットテープに移すことができます。(⑮～⑯ページ)

まず音をだしてみましょう

演奏をはじめる前に

1 電源プラグをコンセントにさしこむ。



AC100Vのコンセントである
ことを確認してください。

2 電源スイッチを入れる。



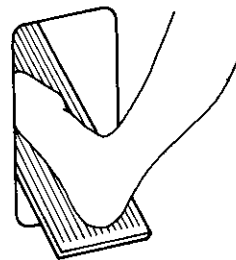
3 マスターボリューム(総合音量)を中央ぐらいにセット。

このつまみでエレクトーン全体の音量が
調節できます。

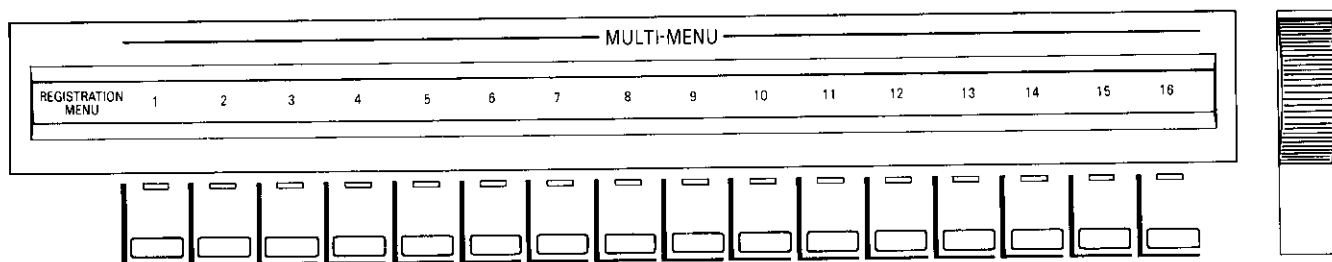


4 エクスプレッションペダルを右足で踏みこむ。

このペダルもエレクトーン全体の音量を
コントロールするもので、演奏しながら音
に強弱をつけることができます。



5 レジストレーション(音色などのセッティング)を選ぶ。



ここでは、音色などのセッティングがボタンひとつでできるレジストレーシ
ョンメニューを使ってみましょう。マルチメニューをまわして上の図のパネル
をだし、ボタンをひとつおしてください。(くわしくは●ページを参照)

6 鍵盤を弾いてみましょう。

右手で上鍵盤、左手で下鍵盤を弾いてみましょう。音がでてきたことと思います。ペダ
ル鍵盤から音をだすには、オートベースコードのシングルフィンガー(右下のコントロー
ルパネルにあります)をOFFにしてから、左足でペダルをおさえてください。

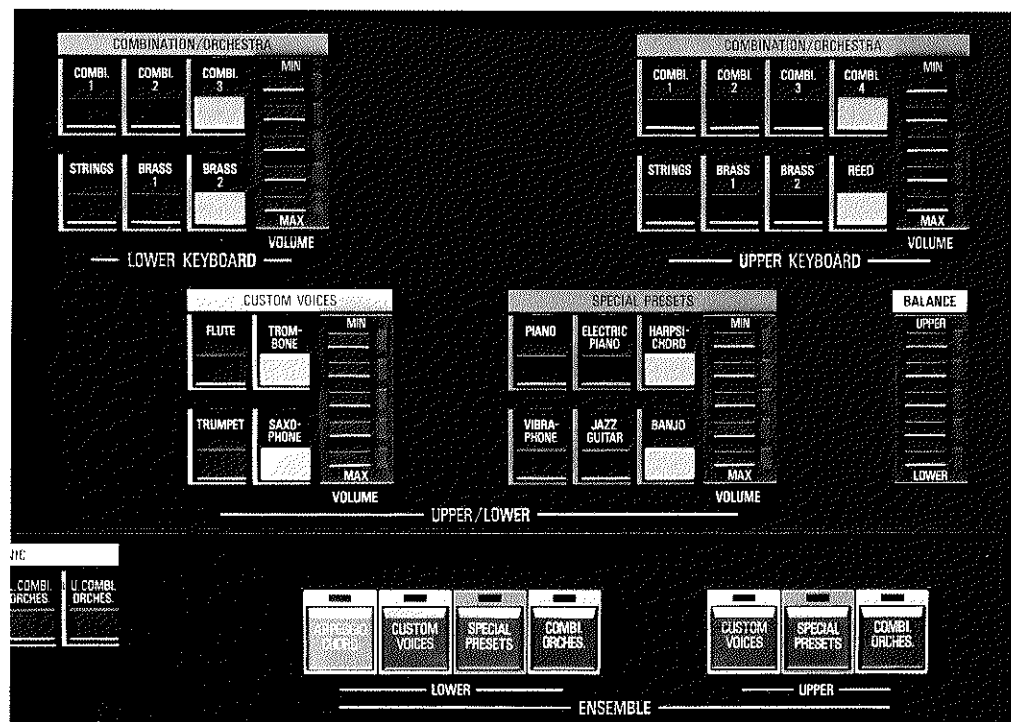


(写真はME-400です)

II. 基本的な機能

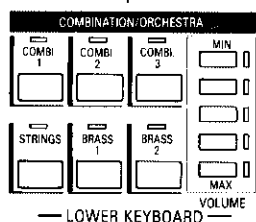
上鍵盤と下鍵盤の音色(ME-400)

ME-400の上鍵盤と下鍵盤には、性格の異なる3つの音色グループがあり、それぞれの鍵盤で自由に組みあわせることができます。

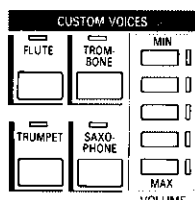
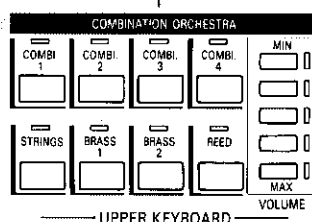


1 各音色グループで、それぞれ音色をひとつ選ぶ。

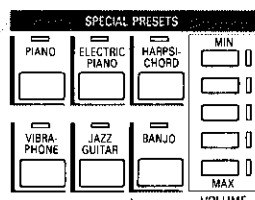
コンビネーション/オーケストラ(下鍵盤用)



コンビネーション/オーケストラ(上鍵盤用)



カスタムボイス
(上鍵盤または下鍵盤用)



スペシャルプリセット
(上鍵盤または下鍵盤用)

コンビネーション/オーケストラ: 2つのグループがあり、そのうちコンビネーション(COMBI.)では、いろいろなオルガンサウンドが選べ、オーケストラではストリングス(弦楽器)やブラス(金管楽器)などの音が選べます。

スペシャルプリセット: ピアノやビブラフォン、ジャズギターなど歯切れのよい音が選べます。

カスタムボイス: フルートやトロンボーン、トランペットなどの音が選べます。このグループの音色はすべて単音(モノフォニック)です。

より深い理解のために

[コンビネーションの音色]

上鍵盤用

COMBI.1	フルート系
COMBI.2	フルオルガン
COMBI.3	ジャズオルガン 1
COMBI.4	ジャズオルガン 2

下鍵盤用

COMBI.1	オルガン系
COMBI.2	フルート系
COMBI.3	フルオルガン

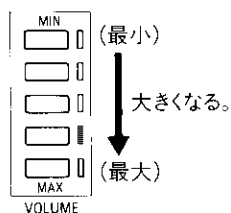
[持続音と減衰音]

持続音: 鍵盤をおさえつづけている間、音が持続してでています。[コンビネーション/オーケストラ、カスタムボイス]

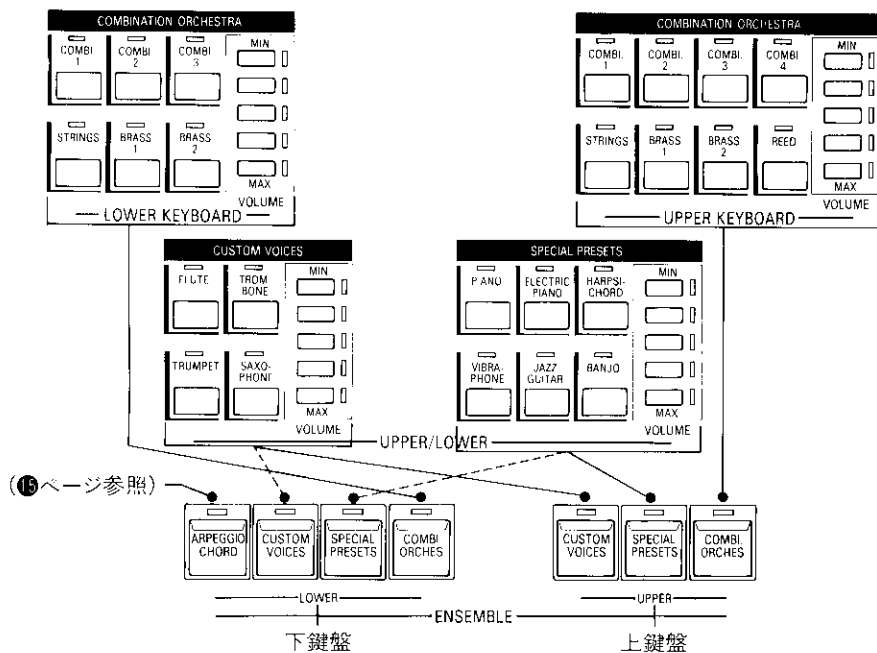
減衰音: 鍵盤をおさえつづけても、音が徐々に消えていきます。[スペシャルプリセット]

2 ボリュームをセット。

それぞれの音色グループでボリュームをセットしてください。5段階のボリュームを選ぶことができ、一番上が最小で、一番下が最大の音量です。



3 アンサンブルのボタンを入れて、音色を組みあわせる。



アンサンブルは、上鍵盤と下鍵盤の音色のスイッチで、各音色グループのON/OFFを一カ所で集中的にコントロールすることができます。上の図を参考にして、アンサンブルのボタンを入れ、いろいろな音色の組み合わせをためてみましょう。

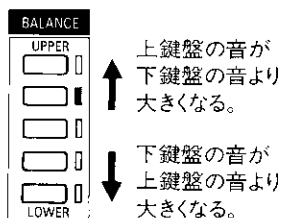
4 上鍵盤と下鍵盤を弾いてみましょう。

セットした音色が、それぞれでできます。ほかの音色を選んで聴きくらべてみましょう。

マニュアルバランス

バランスをセット。

上鍵盤の音量と下鍵盤の音量のバランスをコントロールしてください。



より深い理解のために

〔各音色グループの同時発音数〕

コンビネーション/オーケストラ、スペシャルプリセット：上鍵盤と下鍵盤のそれぞれで、最高7音まで同時に発音します。(7音ポリフォニック)

カスタムボイス：複数の音を同時におさえた場合、単音で発音します。(モノフォニック)

〔カスタムボイスの発音について〕

他の音色グループと組みあわせて使った場合：複数の音を同時におさえると、一番高い1音が発音します。(高音優先)

カスタムボイスを単独で使った場合：複数の音を同時におさえると、あとでおさえた1音が発音します。(後着優先)

〔覚えておきましょう〕

●ME-400では、上鍵盤と下鍵盤のそれぞれで最高3つの音色グループを組みあわせることができますが、スペシャルプリセットとカスタムボイスは、上鍵盤で使うか下鍵盤で使うかを選んでください。同時に両方の鍵盤で使うことはできません。

●各音色グループの右側にあるグレーのボタンには、ボイスメニューの音色(マルチメニューのなかにあります)を移すことができます。(55～64ページ参照)

●アンサンブルのローワーには、アルペジオコードのボタンもあり、アルペジオコードのON/OFFは、このボタンでコントロールします。(55ページ参照)

上鍵盤と下鍵盤の音色(ME-600)

ME-600の上鍵盤と下鍵盤には、性格の異なる4つの音色グループがあり、それぞれの鍵盤で自由に組みあわせることができます。



1 各音色グループで、それぞれ音色をひとつ選ぶ。

(下鍵盤用)

アンサンブルボイス コンビネーション/オーケストラ

LOWER KEYBOARD

(上鍵盤用)

アンサンブルボイス コンビネーション/オーケストラ

UPPER KEYBOARD

カスタムボイス

UPPER/LOWER

スペシャルプリセット

UPPER/LOWER

(上鍵盤または下鍵盤用)

コンビネーション/オーケストラ: 2つのグループがあり、そのうちコンビネーション (COMBI.) では、いろいろなオルガンサウンドが選べ、オーケストラではストリングス (弦楽器) やブラス (金管楽器) などの音が選べます。

アンサンブルボイス: バイオリン合奏の音 (ストリングス) や、人間のコーラスを思わせる音 (ボーカル) が選べます。

スペシャルプリセット: ピアノやビブラフォン、ジャズギターなど歯切れのよい音が選べます。

カスタムボイス: フルートやトロンボーン、トランペットなどの音が選べます。このグループの音色はすべて単音 (モノフォニック) です。

より深い理解のために

(コンビネーションの音色)

上 鍵 盤 用	
COMBI. 1	オルガン系
COMBI. 2	フルート系
COMBI. 3	フルオルガン
COMBI. 4	ジャズオルガン 1
COMBI. 5	ジャズオルガン 2
下 鍵 盤 用	
COMBI. 1	オルガン系
COMBI. 2	フルート系
COMBI. 3	フルオルガン

(フェイザー)

スペシャルプリセット専用の効果です。ONにすると、音にゆるやかな回転感が生まれ、ひろがりのある響きになります。



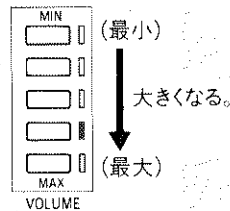
(持続音と減衰音)

持続音: 鍵盤をおさえつづけている間、音が持続してでけます。(コンビネーション/オーケストラ、アンサンブルボイス、カスタムボイス、スペシャルプリセットのブラス)

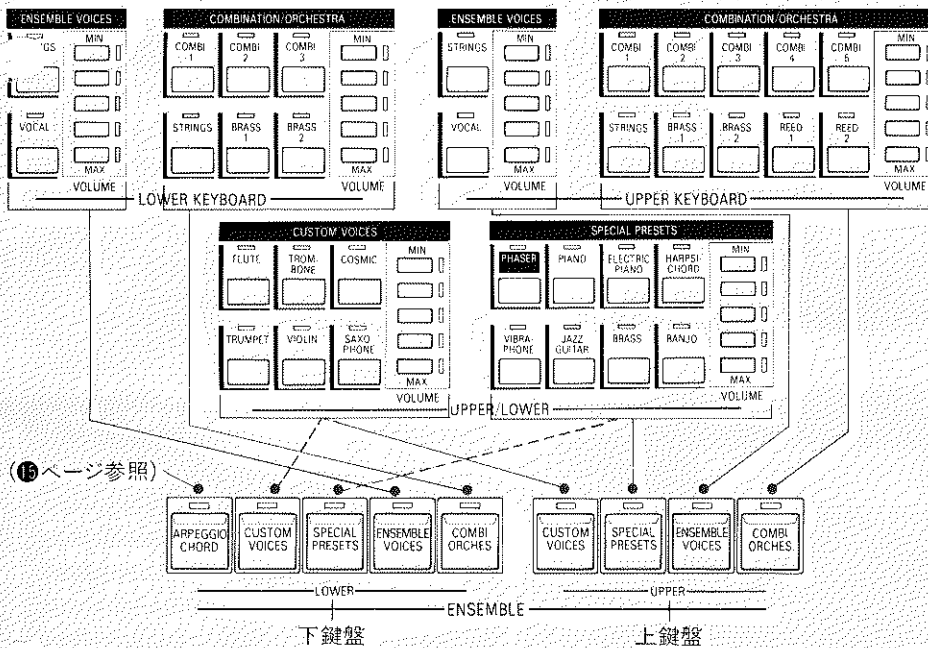
減衰音: 鍵盤をおさえつづけても、音が徐々に消えていきます。(ブラス以外のスペシャルプリセット)

2 ボリュームをセット。

それぞれの音色グループでボリュームをセットしてください。5段階のボリュームを選ぶことができ、一番上が最小で、一番下が最大の音量です。



3 アンサンブルのボタンを入れて、音色を組みあわせる。



アンサンブルは、上鍵盤と下鍵盤の音色のスイッチで、各音色グループのON/OFFを一か所で集中的にコントロールすることができます。上の図を参考にして、アンサンブルのボタンを入れ、いろいろな音色の組み合わせを試してみましょう。

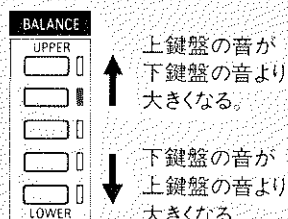
4 上鍵盤と下鍵盤を弾いてみましょう。

セットした音色が、それぞれでできます。ほかの音色を選んで聴きくらべてみましょう。

マニュアルバランス

バランスをセット。

上鍵盤の音量と下鍵盤の音量のバランスをコントロールすることができます。



より深い理解のために

〔各音色グループの同時発音数〕

コンビネーション/オーケストラ、アンサンブルボイス、スペシャルプリセット：上鍵盤と下鍵盤のそれぞれで、最高7音まで同時に発音します。(7音ポリフォニック)

カスタムボイス：複数の音を同時におさえた場合、単音で発音します。(モノフォニック)

〔カスタムボイスの発音について〕

他の音色グループと組みあわせて使った場合：複数の音を同時におさえると、一番高い1音が発音します。(高音優先)

カスタムボイスを単独で使った場合：複数の音を同時におさえると、あとでおさえた1音が発音します。(後着優先)

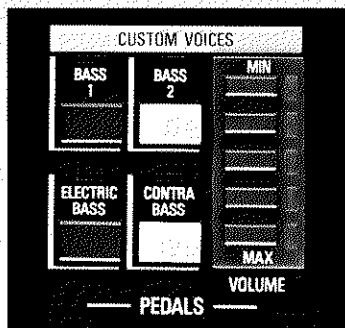
〔覚えておきましょう〕

●ME-600では、上鍵盤と下鍵盤のそれぞれで最高4つの音色グループを組みあわせることができますが、スペシャルプリセットとカスタムボイスは、上鍵盤で使うか下鍵盤で使うかを選んでください。同時に両方の鍵盤で使うことはできません。

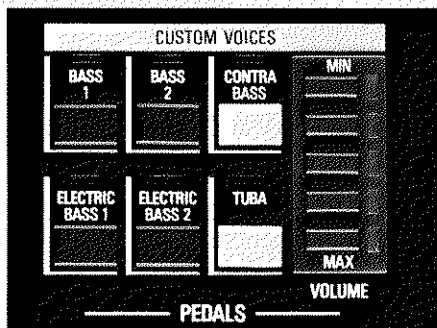
●各音色グループ(アンサンブルボイスを除く)の右側にあるグレーのボタンには、ボイスメニューの音色(マルチメニューのなかにあります)を移すことができます。(15～16ページ参照)

●アンサンブルのローワーには、アルペジオコードのボタンもあり、アルペジオコードのON/OFFは、このボタンでコントロールします。(15ページ参照)

ペダル鍵盤の音色



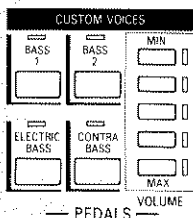
(ME-400)



(ME-600)

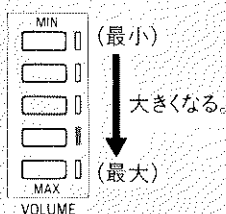
1 音色をひとつ選ぶ。

ペダルカスタムボイス

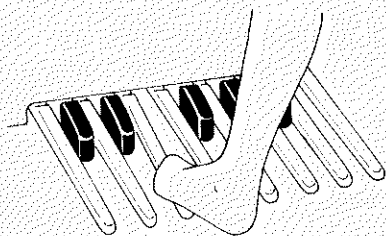


(図はME-400)

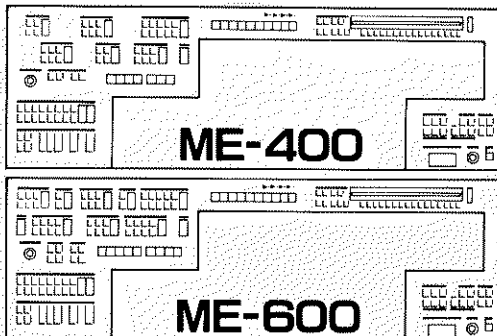
2 ボリュームをセット。



3 ペダル鍵盤を弾いてみましょう。



ほかの音色を選んで聴きくらべてみましょう。



より深い理解のために

〔ペダルカスタムボイスの発音について〕

複数の音を同時におさえると一番高い音だけが発音します。(高音優先のモノフォニック)

〔持続音と減衰音〕

持続音：バス、チューバ

減衰音：コントラバス、エレクトリックベース

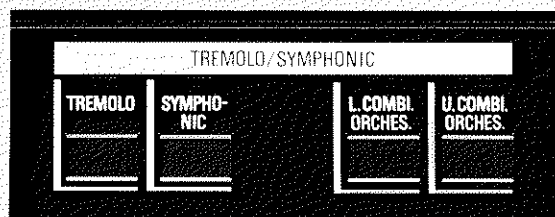
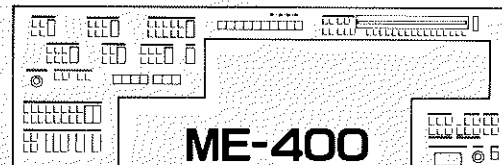
〔覚えておきましょう〕

●グレーのボタンには、ボイスメニューの音色(マルチメニューのなかにあります)を移すことができます。(5～6ページ参照)

●オートベースコードのシングルフィンガーまたはフィンガードコードを使えば、ペダル鍵盤を弾かなくても自動的にベース伴奏ができます。なお、ペダル鍵盤を弾いてベース音をだしたいときは、シングルフィンガー、フィンガードコードをOFFにしてください。(14～16ページ参照)

効果(ME-400)

ME-400にはいくつかの効果がありますが、ここではコンビネーション/オーケストラの音色にひろがりをもたせるトレモロ/シンフォニックを使ってみましょう。

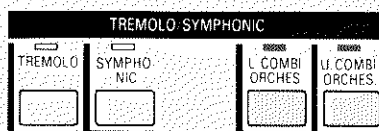


トレモロ/シンフォニック

1 上鍵盤と下鍵盤のコンビネーション/オーケストラ音色をセット。

音色を選び、ボリュームをセットしてください。(4～5ページ参照)

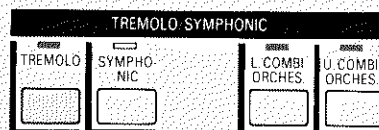
2 右側のボタンを入れる。



下鍵盤のコンビネーション/オーケストラに効果をかけるスイッチ。

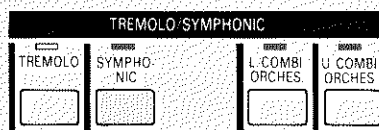
上鍵盤のコンビネーション/オーケストラに効果をかけるスイッチ。

3 トレモロを入れ、鍵盤をおさえる。



音がうわり、ひろがりのある響きになります。

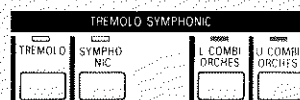
4 シンフォニックを入れ、鍵盤をおさえる。



多くの楽器で合奏しているような豊かな響きになります。

より深い理解のために

〔コーラス効果〕

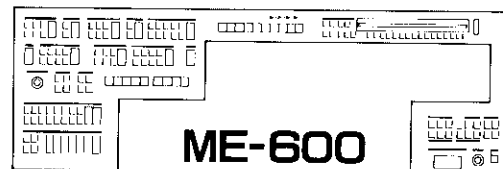


トレモロとシンフォニックのボタンを両方ともOFF(右側のボタンだけON)にすると、トレモロ効果よりも音がゆるやかにうねるコーラス効果が得られます。なお、トレモロとシンフォニックを同時にONにすることはできません。

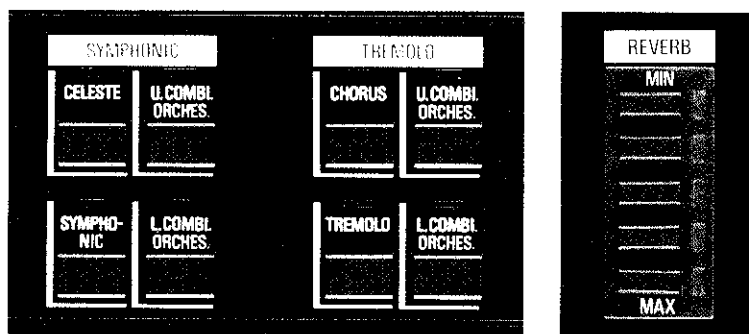
〔その他の効果〕

ビブラート：音をふるわせるビブラート効果は、あらかじめ各音色にふさわしいように組みこまれています。また、マルチメニューのなかにあるプレイヤービブラートを使って、ビブラートのかかり方を自分でセットすることができます。(55ページ参照)

サステイン：鍵盤から手や足をはなしたあと、音に余韻をつけるサステイン効果は、マルチメニューのなかにあるサステインでセットします。(56ページ参照)



ME-600にはいくつかの効果がありますが、ここではコンビネーション/オーケストラの音色にひろがりをもたらせるトレモロとシンフォニック音に残響をつけるリバーブを使ってみましょう。

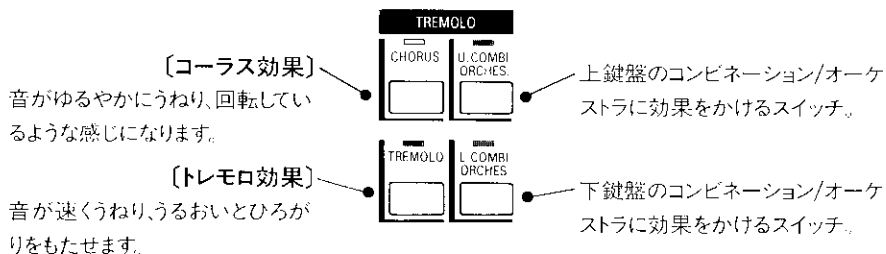


トレモロ・シンフォニック

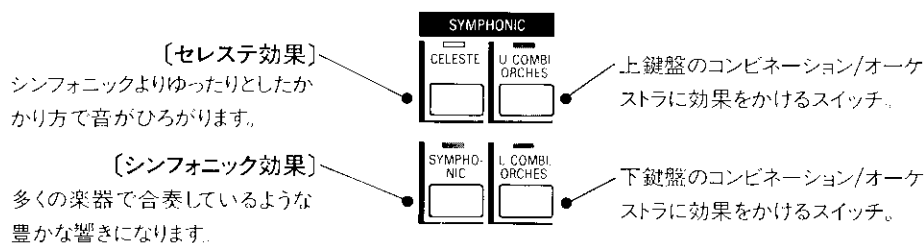
1 上鍵盤と下鍵盤のコンビネーション/オーケストラ音色をセット。

音色を選び、ボリュームをセットしてください。(6～7ページ参照)

2 右側のボタンを入れ、トレモロとコーラスのどちらかを選ぶ。



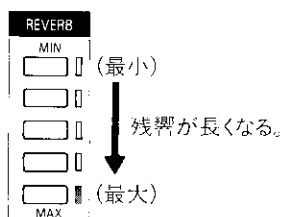
3 右側のボタンを入れ、シンフォニックとセレステのどちらかを選ぶ。



リバーブ

残響の長さをセット。

音に残響がつき、大きなホールで演奏しているような響きになります。



より深い理解のために

【回転感のないトレモロ効果】



トレモロとコーラスのボタンを両方ともOFF (右側のボタンだけON) にすると、回転しているような感じがなくなり、ひろがり感だけがある効果になります。

【その他の効果】

ビブラート：音をふるわせるビブラート効果は、あらかじめ各音色にふさわしいように組みこまれています。また、マルチメニューのなかにあるプレイヤービブラートを使って、ビブラートのかかり方を自分でセットすることができます。(65ページ参照)

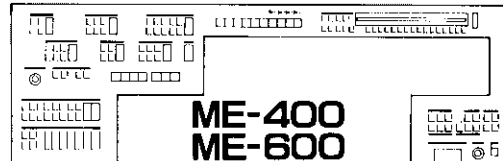
サステイン：鍵盤から手や足をはずしたあと、音に余韻をつけるサステイン効果は、マルチメニューのなかにあるサステインでセットします。(66ページ参照)

【覚えておきましょう】

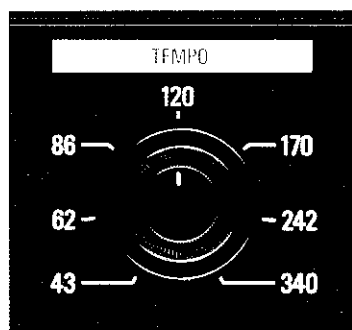
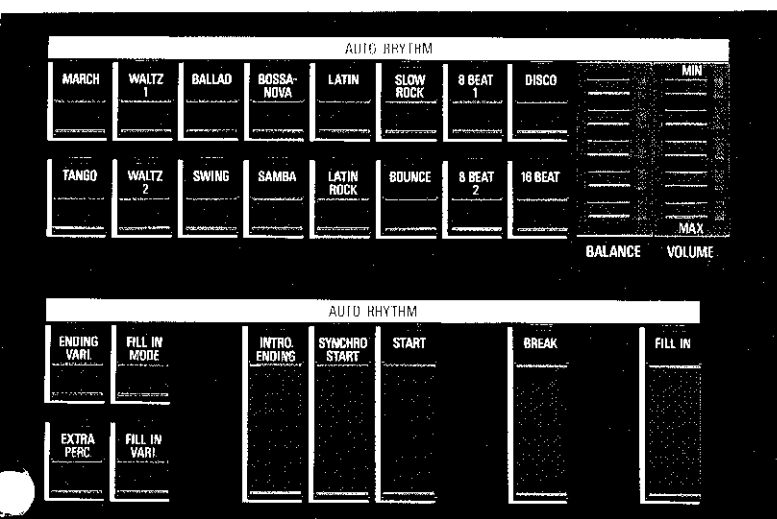
●トレモロとシンフォニックの両方にあるアップパーコンビネーション/オーケストラ(U.COMBI.ORCHES.)のボタンを2つとも同時にONすることはできません。ローパーコンビネーション/オーケストラ(L.COMBI.ORCHES.)の場合も同様です。

●シンフォニックとセレステのボタンは、必ずどちらかがONになっています。

●リバーブ効果がかかるのは、上鍵盤と下鍵盤の音です。ヘダル鍵盤とリズムの音にはかかりません。

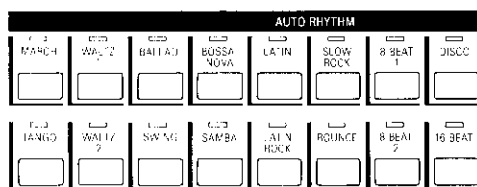


いろいろな打楽器の音で自動的にリズムができます。まず、リズムをスタートさせてみましょう。

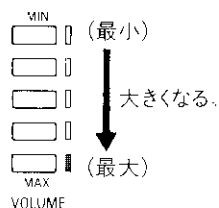


1. 基本的な機能
オートリズム

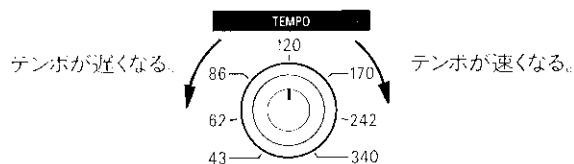
1. リズムパターンをひとつ選ぶ。



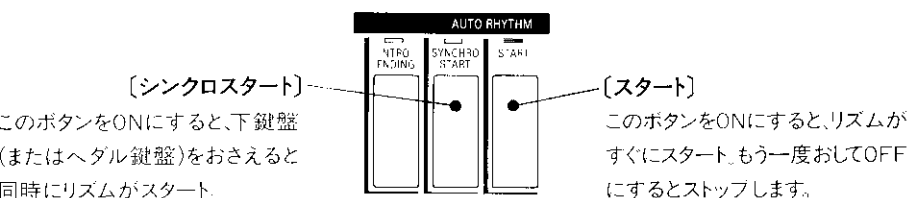
2. ボリュームをセット。



3. テンポをセット。



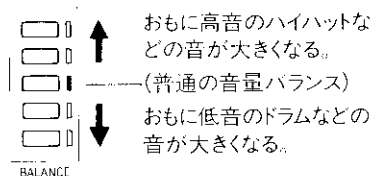
4. スタートのボタン(右側)を入れる。



より深い理解のために

【バランスコントロール】

リズム音を構成している打楽器音の音量バランスをコントロールすることができます。



【テンポコントロールの数字について】

テンポコントロールのまわりの数字は、1分間に打つ4分音符の数(メトロノームの数字に相当します)を示したものです。リズムの速さをセットするときの目安にしてください。

【テンポランプ】

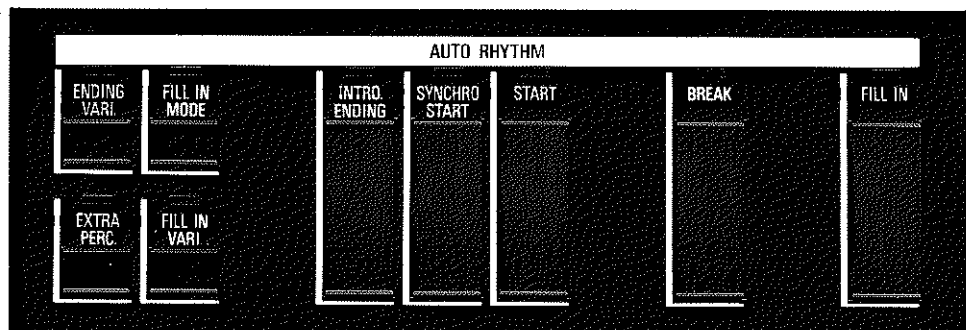


リズムがスタートしているとき、4分音符の単位で、ランプの点滅が左から右に走行して、セットしたテンポを示します。一番左の赤いランプが点滅したときが、リズムの小節の1拍目です。また、2小節ごとの1拍目には、4つのランプが同時に点滅します。

シンクロスタートをONし、リズムをまだスタートさせていないとき、一番左の赤いランプが4分音符の単位で点滅し、セットしたテンポを示します。

オートリズム

オートリズムには、特別なパターンに一時的にきりかえるフィルインをはじめ、ブレイクやイントロ、エンディングなどリズムに変化をつける機能があります。



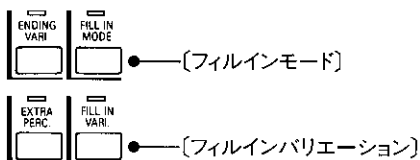
フィルイン

1 オートリズムをセットし、スタートさせる。

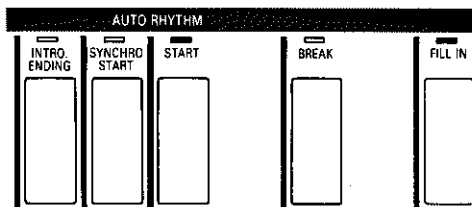
リズムパターンを選び、ボリューム、テンポなどをセットしたうえで、リズムをスタートさせてください。

2 フィルインのパターンを選ぶ。

右の覧に示した(4つのフィルインパターン)を参考にして、フィルインのパターンを選んでください。



3 リズムを変化させたいところで、フィルインのスイッチをおす。

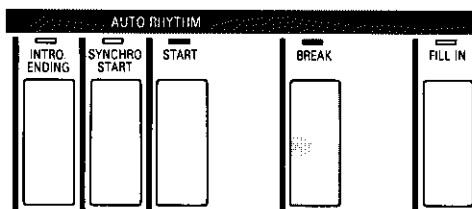


スイッチをおすと、フィルインのパターンにきりかわり、その小節の終わりまでつづきます。次の小節はもとのリズムパターンにもどります。

ブレイク

1 オートリズムをセットし、スタートさせる。

2 リズムを一時的にストップさせたいところで、ブレイクのスイッチをおす。



スイッチをおすと、その小節の終わりまで、リズムが一時的にストップします。

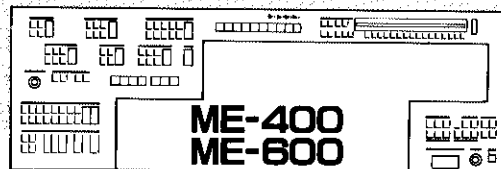
より深い理解のために

〔4つのフィルインパターン〕

	各打楽器音のパターンがすべて変化します。
	上のパターンのバリエーション。
	基本的なパターンは変化せず、いくつかの打楽器音のパターンが変化します。
	上のパターンのバリエーション。

〔覚えておきましょう〕

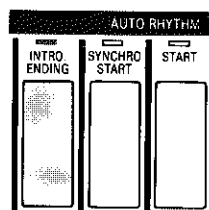
- フィルイン、ブレイクを2小節以上にわたってONさせたいときは、それぞれのスイッチをおしつづけてください。
- リズムをスタートさせる前に、フィルインのスイッチをONにしておけば、フィルインのパターンをイントロとしてだすことができます。また、リズムをスタートさせる前に、ブレイクのスイッチをONにしておけば、最初に1小節のブレイク(ノーリズム)を入れることができます。
- フィルインのパターンは、選んだリズムパターンによって異なったパターンが得られます。
- フィルインやブレイクがONになっている間は、アルペジオコードのパターンとオートベースコードのベースのパターンも変化します。(フィルインモードのボタンをONにした場合は、変化しません。)
- ブレイクをONにしたあと、その小節が終わる前にもう一度スイッチをおせばブレイクをOFFにすることができ、1小節より短いブレイクが得られます。



イントロ・エンディング

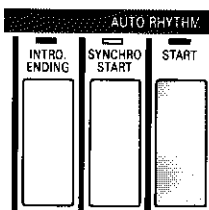
1 リズムをスタートさせる前に、イントロ・エンディングのスイッチを入れる。

リズムパターンを選び、ボリュームやテンポなどをセットしたうえで、イントロ・エンディングのスイッチをONにしてください。



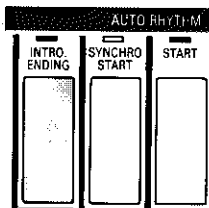
2 スタートスイッチを入れる。

1 節のイントロパターンが入ったあと、選んだリズムパターンがスタートします。



3 リズムがスタートしたあと、イントロ・エンディングのスイッチを入れる。

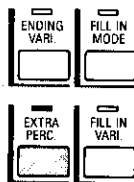
曲の終わりなどで、イントロ・エンディングのスイッチをONにしてください。2小節のエンディングパターンが入ったあと、リズムは自動的にストップします。



エキストラパーカッション

1 エキストラパーカッションのボタンを入れる。

リズムパターンを選び、ボリュームやテンポをセットしたうえで、エキストラパーカッションのボタンをONにしてください。



2 リズムをスタートさせる。

選んだリズムパターンに、打楽器の音(ラテンパーカッションやハンドクラップなど)が加わったリズムがスタートします。

より深い理解のために

〔エンディングバリエーション〕



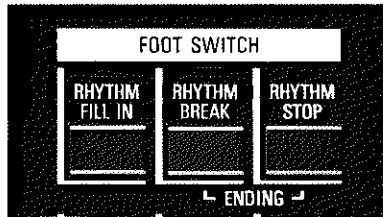
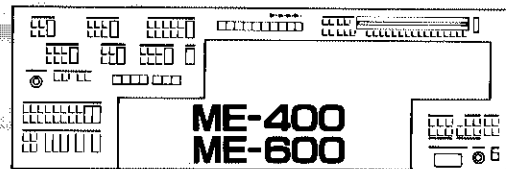
このボタンを入れると、エンディングのパターンをかえることができます。つまり、16のリズムパターンに対して、2種類のエンディングパターンが得られることになります。

〔覚えておきましょう〕

- イントロは、シンクロスタートを使ってリズムをスタートさせる場合でも、使うことができます。
- エンディングをONにすると、アルペジオコードのパターンとオートベースコードのベースのパターンも変化します。
- イントロ・エンディングのパターンは、選んだリズムパターンによって異なったパターンが得られます。
- エキストラパーカッションによって加わる打楽器音は、選んだリズムパターンによって異なります。

オートリズム

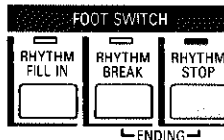
リズムのストップ/スタートやフィルイン、ブレイクなどをフットスイッチでコントロールすることができます。



フットスイッチセクター

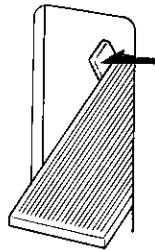
1 リズムストップのボタンを入れる。

リズムパターンを選び、ボリューム、テンポなどをセットしたうえで、リズムをスタートさせてください。



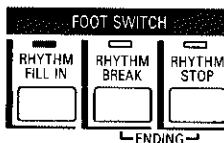
2 リズムをストップさせたいところで、フットスイッチを左におす。

フットスイッチを左におすと、リズムがストップします。もう一度おすと、リズムが再びスタートします。



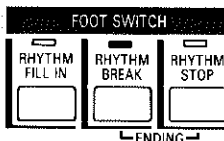
リズムフィルインのボタンを入れ、フットスイッチを左におす。

リズムをスタートさせ、フィルインのパターンにきりかえたいところで、フットスイッチを左におしてください。その小節の終わりまでフィルインのパターンがつづき、次の小節はもとのリズムパターンにもどります。



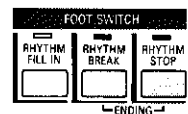
リズムブレイクのボタンを入れ、フットスイッチを左におす。

リズムをスタートさせ、リズムを一時的にストップさせたいところで、フットスイッチを左におしてください。その小節の終わりまでリズムがストップします。



より深い理解のために

〔エンディングのコントロール〕



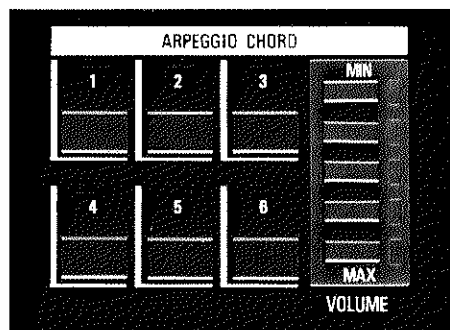
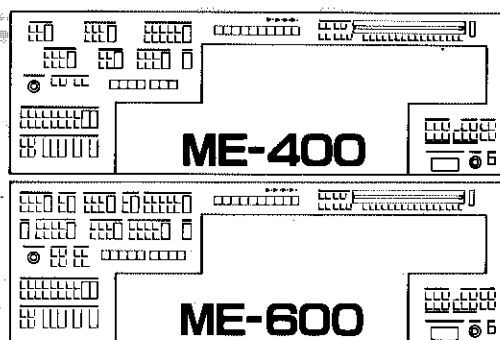
リズムストップとリズムブレイクのボタンを両方もONにすれば、フットスイッチでエンディングを入れることができます。リズムをスタートさせたあと、曲の終わりなどでフットスイッチを左におしてください。2小節のエンディングパターンが入ったあと、リズムは自動的にストップします。

〔覚えておきましょう〕

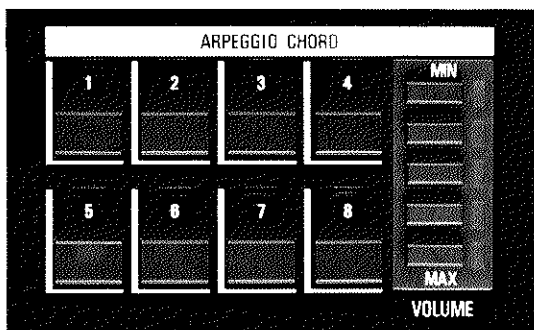
- リズムストップをONにして、フットスイッチでリズムをとめると、点灯していたリズムストップボタンが点滅しはじめます。もう一度フットスイッチをおしてリズムを再スタートさせると、点灯にもどります。
- フットスイッチを使ってフィルイン、またはブレイクを2小節以上にわたってONさせたいときはフットスイッチをおしつづけてください。
- リズムストップをONにして、フットスイッチでリズムをとめているとき、イントロ・エンディングのボタンをONにしてフットスイッチを再びおせば、1小節のイントロパターンが得られます。

アルペジオコード

下鍵盤で弾いた音にもとづいて、リズムに連動したコード伴奏(リズムックコード)や分散和音の伴奏(アルペジオ)が自動的にできます。

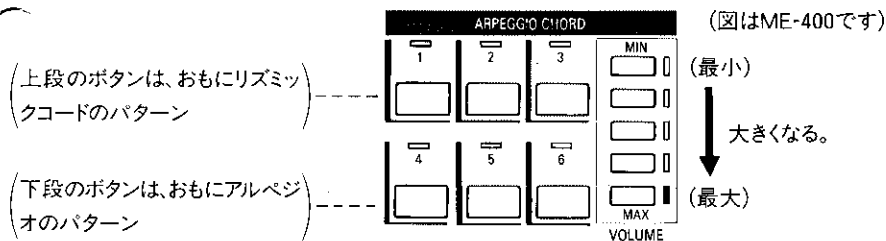


(ME-400)

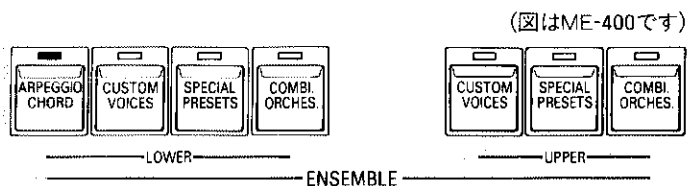


(ME-600)

1 パターンをひとつ選び、ボリュームをセットする。



2 アンサンブルのアルペジオコードのボタンを入れる。



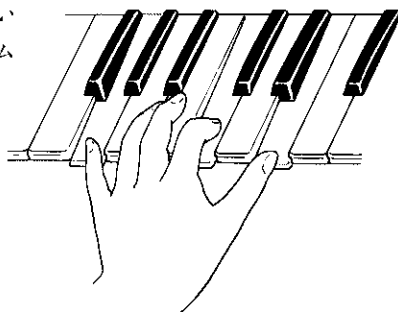
アルペジオコードのON/OFFは、上鍵盤と下鍵盤の音色グループと同様に、アンサンブルのボタンでコントロールすることができます。

3 オートリズムをセットし、スタートさせる。

アルペジオコードはリズムに連動して働きますから、必ずオートリズムと一緒に使ってください。リズムパターンを選び、ボリューム、テンポなどをセットしたうえで、リズムをスタートさせます。(11ページ参照)

4 下鍵盤をおさえてみましょう。

下鍵盤をおさえつつけるだけで、リズムに連動した楽しい伴奏がでえます。アルペジオコードのパターンやリズムパターンをかえて、聴きくらべてみましょう。



より深い理解のために

〔アルペジオコードとリズムパターン〕

アルペジオコードはリズムに連動して働き、16のリズムパターンのそれぞれに対して異なったアルペジオコードが用意されています。したがって、リズムパターンをかえると、アルペジオコードの音色やパターンもかわります。

〔オートベースコードと一緒に使えます〕

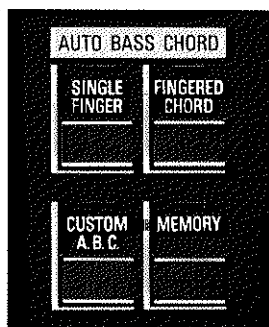
アルペジオコードとオートベースコードと一緒に使えば、より簡単に楽しい伴奏をだすことができます。その場合、アルペジオコードのパターンをかえると、オートベースコードによるベース伴奏のパターンも変化します。また、オートベースコードのメモリーボタンをONにすれば、下鍵盤から指をはなしたあともアルペジオコードの伴奏が鳴りつづけます。(10～11ページ参照)

〔覚えておきましょう〕

●基本的には、上段のボタンがリズムックコードのパターン、下段のボタンがアルペジオのパターンになっていますが、マーチのリズムを選んでいるときは例外で、上段のいくつかのボタンでもアルペジオのパターンが得られます。

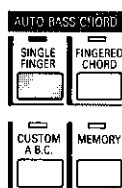
オートベースコード

下鍵盤とペダル鍵盤の伴奏が自動的にできる機能です。まず、指1本で自動伴奏ができるシングルフィンガーを使ってみましょう。



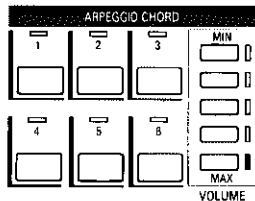
シングルフィンガー

1 シングルフィンガーのボタンを入れる。



2 和音伴奏の音として、アルペジオコードをセット。

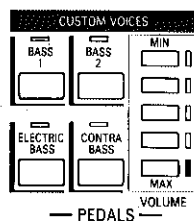
パターンをひとつ選び、ボリュームをセットします。アンサンブルのアルペジオコードのボタンも忘れずにONにしてください。(15 ページ参照) また、下鍵盤のコンビネーション/オーケストラなどの音色もセットしてみましょう。



(図はME-400)

3 ベース伴奏の音として、ペダルカスタムボイスをセット。

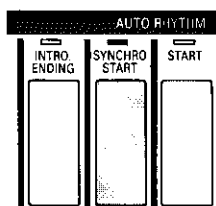
音色をひとつ選び、ボリュームをセットしてください。(8 ページ参照)



(図はME-400)

4 オートリズムをセット。

リズムパターンを選び、ボリュームテンポなどをセットしたうえで、シンクロススタートをONにしておきましょう。リズムと伴奏を同時にスタートさせることができ、とても便利です。(11 ページ参照)



より深い理解のために

(和音伴奏される下鍵盤の音色)

アルペジオコード：自動的に検出されるコードにしたがって、リズムに連動した伴奏パターンが得られます。

コンビネーション/オーケストラとアンサンブルボイス (ME-600)：コードが自動的に検出され、持続音の和音伴奏としてでできます。

スペシャルプリセット：下鍵盤の音色としてセットすれば、減衰音の和音伴奏としてでできます。

カスタムボイス：シングルフィンガーを使っているときは、下鍵盤で使うことはできません。フィンガードコード、カスタムA.B.C.を使っているときに下鍵盤で使うと、おさえた音の最高音が単音で得られます。

(オートリズムを使わない場合は)

下鍵盤の音：自動的に和音伴奏が得られますが、アルペジオコードは働きません。

ペダル鍵盤の音：下鍵盤でおさえた音をもとに、1音が自動的に選ばれます。

(ベース伴奏のパターンについて)

ベース伴奏のパターンは、リズムパターンおよびアルペジオコードのパターンをかえることによって、さまざまなパターンが得られます。

5 下鍵盤をひとつおさえてみましょう。

和音伴奏(メジャーコード)とベース伴奏が、リズムに連動して自動的にでてきます。

〔下鍵盤とでてくる和音の関係〕

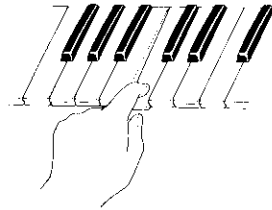


下鍵盤でおさえる位置

コードネーム

ド レ ミ ファ ソ ラ シ
ミ ファ ソ ラ シ ド レ
ソ ラ シ ド レ ミ ファ

でてくる和音
(メジャーコード)



6 いろいろな和音(コード)をだしてみましょう。

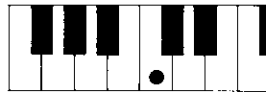
メジャーコード：下鍵盤をひとつおさえる。(上図参照)

マイナーコード：メジャーコードでおさえる音(根音)と、それより左側の黒鍵を一緒におさえる。

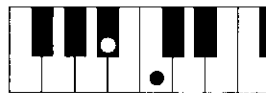
セブンスコード：メジャーコードでおさえる音(根音)と、それより左側の白鍵を一緒におさえる。

マイナーセブンスコード：メジャーコードでおさえる音(根音)と、それより左側の黒鍵と白鍵を一緒におさえる。

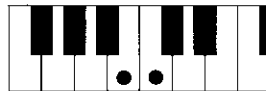
(例：C)



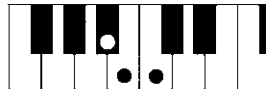
(例：Gm)



(例：C7)



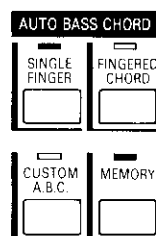
(例：Cm7)



メモリー

メモリーのボタンを入れ、下鍵盤をおさえ、すぐに指をはなす。

下鍵盤から指をはなしたあとも、和音伴奏とベース伴奏がリズムと一緒に鳴りつづけます。



より深い理解のために

〔メモリーについて〕

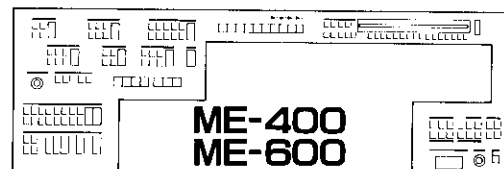
メモリーは、シングルフィンガーばかりでなく、フィンガードコード、カスタムA.B.C.を選んでいるときも使えます。また、メモリーはオートリズムに連動して働きますから、オートベースコードを使わない場合でも、リズムがスタートしていれば、下鍵盤から指をはなしたあとも音が鳴りつづけます。

〔覚えておきましょう〕

- マルチメニューのレジストレーションメニューのボタンをおすと、シングルフィンガーが自動的にONになります。(27ページ参照)
- シングルフィンガーでは、下鍵盤のどの音域をおさえても、でてくる自動伴奏の音域はかわりません。
- 下鍵盤を2つ以上おさえてマイナーコードやセブンスコードなどをだしているとき、レガートに弾いてコードをかえると、コードが正しくかわらない場合があります。コードをかえるときは、鍵盤からいったん指をはなすようにしてください。
- マルチメニューのミュージックプログラマーにコードを録音するときは、オートベースコードがフィンガードコードまたはシングルフィンガーに固定されます。(28ページ参照)

オートベースコード

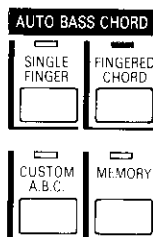
下鍵盤で和音をおさえるだけで自動伴奏ができるフィンガードコードや、下鍵盤とペダル鍵盤で別々に自動伴奏をだすことができるカスタムA.B.C.を使ってみましょう。



フィンガードコード

1 フィンガードコードのボタンを入れる。

必要に応じてメモリーもONしましょう。



2 アルペジオコードとペダルカスタムボイスをセット。

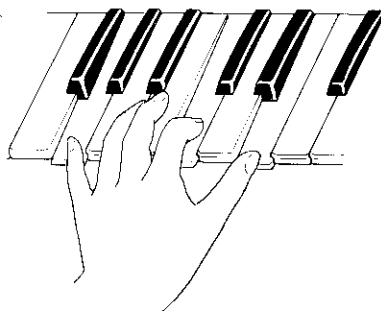
和音伴奏の音として、アルペジオコードや下鍵盤のコンビネーション/オーケストラなどをセットし、ベース伴奏の音として、ペダルカスタムボイスをセットしてください。(15～16ページ参照)

3 オートリズムをセット。

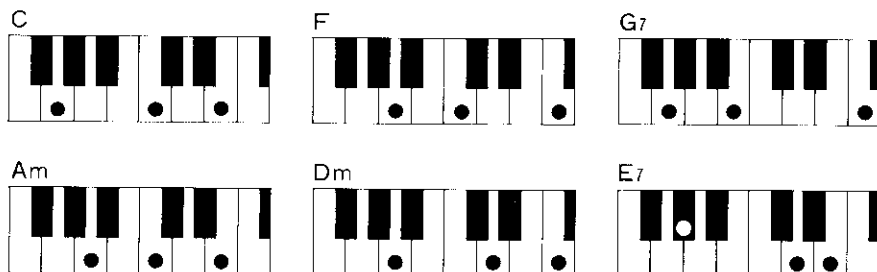
リズムパターンを選び、ボリューム、テンポなどをセットしてください。シンクロススタートをONにしておくと、自動伴奏とリズムを同時にスタートさせることができます。(11ページ参照)

4 下鍵盤でいろいろなコードをおさえてみましょう。

和音伴奏とベース伴奏が、リズムに連動して自動的にでます。下鍵盤でおさえた音をもとに自動伴奏されますから、さまざまな種類のコードで演奏できます。



[コードのおさえ方の例]

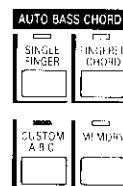


より深い理解のために

〔フィンガードコードで検出されるコード〕

フィンガードコードでは、次の15種類のコードが自動的に検出され、そのコードに従ったベース伴奏が得られます。(すべてCを根音とするコードネームで表記)：C、Cm、C7、Cm7、Cmaj7、Cdim、Caug、Caug7、Csus4、C7sus4、C6、Cm7⁵、C⁵、C7⁵、Cm6

〔カスタムA.B.C.〕



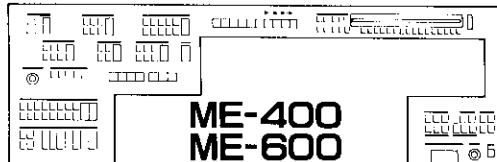
- ①カスタムA.B.C.のボタンをON。
- ②アルペジオコードや下鍵盤の音色とペダルカスタムボイスをセット。
- ③オートリズムをセット。
- ④下鍵盤でコードをおさえ、ペダル鍵盤を1音おさえる。

和音伴奏：下鍵盤でおさえたコードをもとに自動伴奏されます。

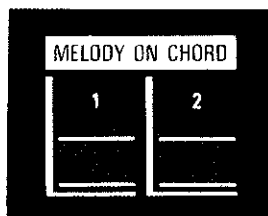
ベース伴奏：ペダル鍵盤でおさえた音と下鍵盤でおさえたコードの種類にもとづいて自動伴奏されます。

〔覚えておきましょう〕

- カスタムA.B.C.を使っているとき、メモリーをONにすると、ベース伴奏だけがメモリーされます。
- カスタムA.B.C.を使っているとき、コードの構成音以外の音をペダル鍵盤でおさえる場合は、アルペジオコードのパターンは上段のリズミックコードのパターンを選んでください。

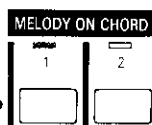


上鍵盤のメロディーにハーモニーが自動的に重なり、厚みのあるサウンドが楽しめます。



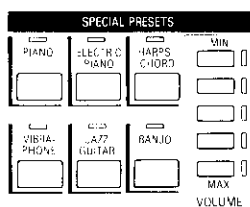
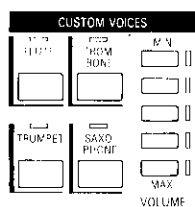
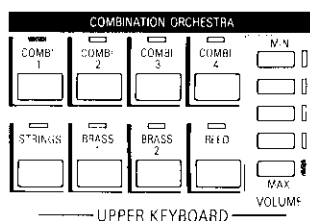
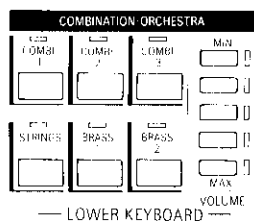
1 メロディーオンコードのボタンのどちらかを入れる。

最大2音までのハーモニーがつけられます。



最大3音までのハーモニーがつけられます。

2 上鍵盤のコンビネーション/オーケストラをセット。

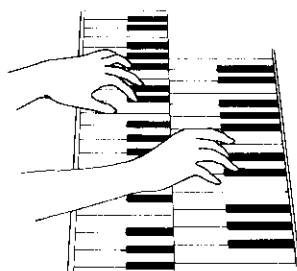


(図はME-400)

ハーモニーの音色として、上鍵盤のコンビネーション/オーケストラ(ME-600ではアンサンブルボイス)をセットし、アンサンブルのボタンをONにしてください。そのほかの上鍵盤の音色と、下鍵盤の音色もセットしましょう。

3 下鍵盤でコードをおさえ、上鍵盤でメロディーを弾いてみましょう。

メロディーの下にハーモニーが自動的に重なってでてきます。



より深い理解のために

〔1と2を両方とも入れた場合〕



1と2のボタンを両方ともONにすると、最大3音までのハーモニーが、メロディーよりややはなれた音域で得られます。

〔オートベースコードと一緒に使えます〕

オートベースコードのシングルフィンガー、フィンガードコード、カスタムA.B.C.のいずれかをONにすれば、下鍵盤からでる和音の音がハーモニーの音として得られます。また、メモリーとオートリズムをONにすれば、下鍵盤から指をはなしたあとも、ハーモニーの音がでています。

〔覚えておきましょう〕

●ハーモニーの音色としてセットできるのは、上鍵盤のコンビネーション/オーケストラとME-600のアンサンブルボイスです。スペシャルプリセットとカスタムボイスは、メロディーラインを弾く音色としてセットしてください。

●自動的に加わるハーモニーは、下鍵盤で弾くコードによって決められます。したがって、上鍵盤だけを弾いているときはハーモニーが付きません。

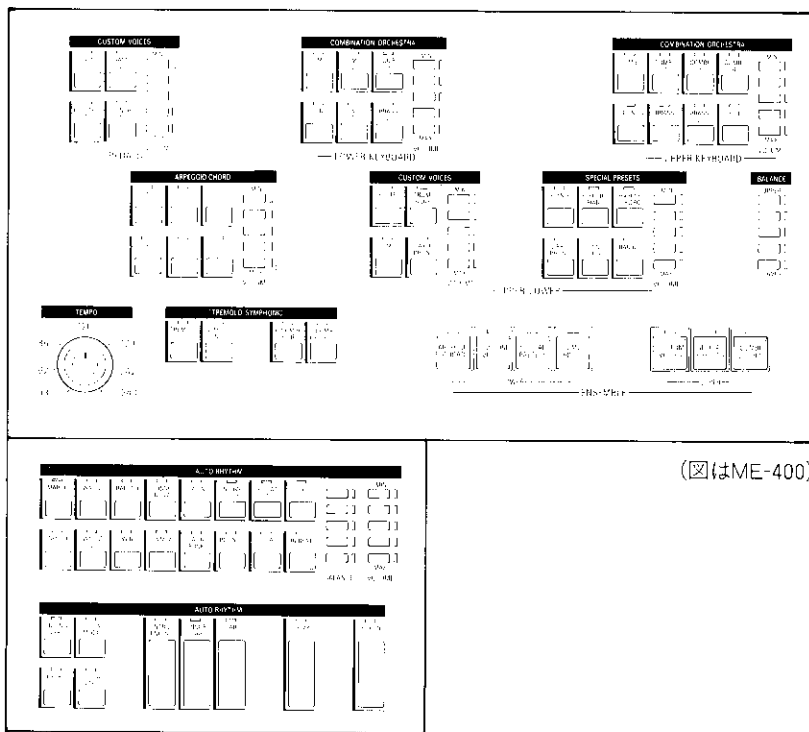
●上鍵盤の低音域でメロディーを弾くと、ハーモニーの音がでないことがあります。

音色やリズムなどのセッティング(レジストレーション)を記憶させておける機能です。記憶させたレジストレーションは、ボタンひとつで再現させることができます。



レジストレーションをメモリーさせる操作

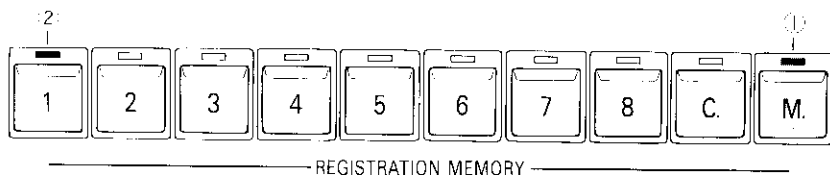
1 記憶させたいレジストレーションをコントロールパネルでセット。



(図はME-400)

音色とそのボリューム、トレモロ/シンフォニックなどの効果、リズムパターン、テンポ、アルペジオコードのパターンなど、コントロールパネルのほとんどのセッティングを記憶させることができます。

2 メモリー[M.]ボタン①をおしながら、数字(1、2、3...)のボタン②をひとつおす。



おした数字のボタンのランプが点滅し、セットしたレジストレーションが記憶されたことを示します。演奏する曲にあわせて、ほかの数字のボタンにもそれぞれレジストレーションをメモリーしてみましょう。

より深い理解のために

〔メモリーできるレジストレーション〕

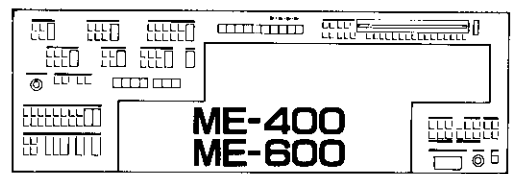
レジストレーションメモリーに記憶することができる機能は以下のとおりです。

- 各鍵盤の音色とボリューム、アンサンブル、マニュアルバランス
- トレモロ・シンフォニック、リバーブ(ME-600)
- リズムのハーターとボリューム、バランス
- テンポコントロール
- フィルインモード、フィルインバリエーション、エンディングバリエーション、エキストラパーカッション
- フットスイッチセクター
- アルペジオコードのパターンとボリューム
- オートベースコード
- メロディーオンコード
- レジストレーションメニューの内容(47ページ参照)
- ボイスメニュー(65～66ページ参照)
- プレイヤービブラート(65ページ参照)
- サステイン(66ページ参照)

〔記憶させた情報の保護について〕

バックアップメモリー：エレクトーン本体に記憶させたレジストレーションの情報は、電源をOFFにしたままでも、最低1週間は消えずに記憶されています。

外部メモリー：記憶させたレジストレーションの情報を、レジストレーションバックまたはカセットテープに移し、保存しておくことができます。(68～69ページ参照)



メモリーしたレジストレーションを再現させる操作

1 数字のボタンをひとつおす。



おしたボタンのランプが点灯し、メモリーしておいたレジストレーションがコントロールパネルに再現されます。

2 別の数字のボタンをおす。



別の数字のボタンをおすたびに、コントロールパネルのセッティングがかわります。瞬時にレジストレーションを変更することができますから、演奏中に音色やリズムをかえたいときなどに大変便利です。

キャンセル

キャンセル[C.]ボタンをおす。



数字のボタンをONする前のレジストレーションにもどしたいときは、キャンセルボタンをおしてください。このボタンには、数字のボタンをONする直前(つまり、キャンセルボタンがONになっていたとき)のレジストレーションが、つねに記憶されています。

より深い理解のために

〔メモリーさせたレジストレーションの変更〕

記憶させた情報の変更：新しいレジストレーションをコントロールパネルでセットし、メモリーさせる操作をやり直してください。それまでメモリーしていた情報が消え、新しいレジストレーションの情報がメモリーされます。

再現させたレジストレーションの変更：再現したレジストレーションを、コントロールパネルで部分的に変更することもできます。この場合、メモリーしている情報の内容はかわりません。

レジストレーションの順番の変更：数字のボタンがONになっているとき、メモリー[M.]ボタンをおしながらキャンセル[C.]ボタンをおせば、数字のボタンの情報をキャンセルボタンに移すことができます。順番をいれかえたいボタンの情報を、キャンセルボタンにいったん移すことで、簡単にレジストレーションの順番を変更することができます。

〔覚えておきましょう〕

●オートリズムのスタート、シンクロスタート、フィルイン、ブレイク、イントロ・エンディングの各スイッチ、マルチメニューのトランスポジション&ビッチ、コードシーケンスプログラマー、ミュージックプログラマー、カセット&テープとマスターボリューム、エクスプレッションペダルは、レジストレーションメモリーに記憶されません。

●コードシーケンスプログラマーまたはミュージックプログラマーを使うと、レジストレーションメモリーの情報がいかかわってしまいます。記憶させた情報を消したくない場合は、外部メモリーに情報を移してください。(27、28ページ参照)

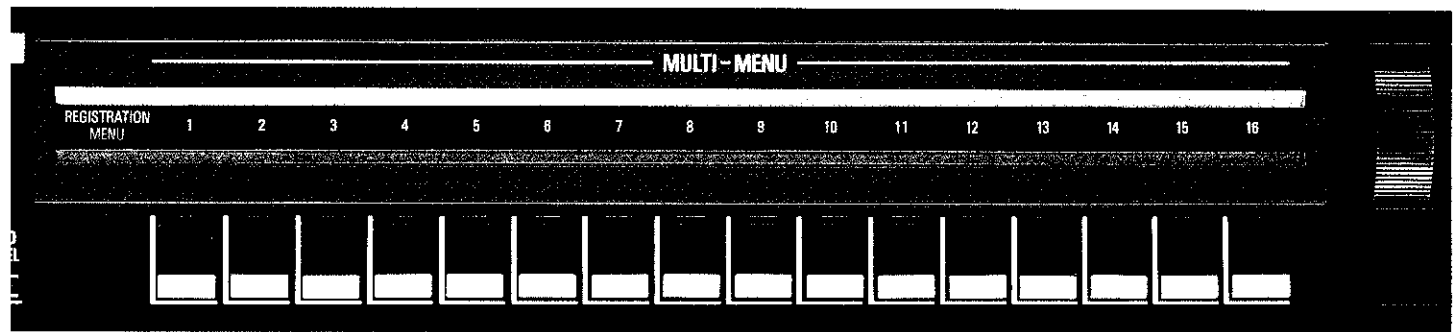
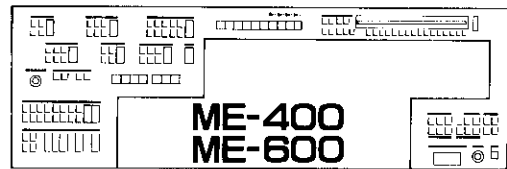
●1週間以上電源をOFFにしてバックアップの期間をすぎると、レジストレーションメモリーの情報は、レジストレーションメニューの1〜8の情報にいかかわります。(22ページ参照)

●電源をOFFにすると、そのときコントロールパネルでセットされているレジストレーションが自動的にメモリーされ、再び電源をONにすると、そのレジストレーションが再現されます。

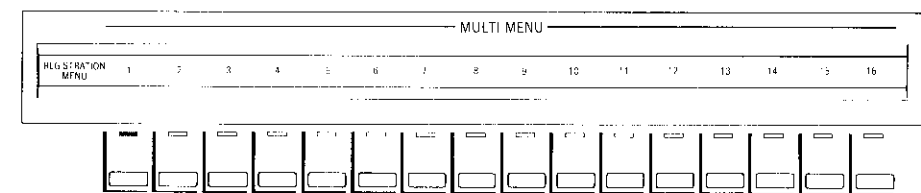
III. マルチメニューの楽しみ方

レジストレーションメニュー

さまざまな音楽ジャンルのレジストレーションがあらかじめ記憶されていて、ボタンをひとつおすだけでレジストレーションが瞬時にセットできます。



1 ボタンをひとつ選んでおす。



ONしたボタンに記憶されているレジストレーションが、コントロールパネルに再現されます。

【メモリーされているサウンドとリズムパターン】

	サウンドイメージ	リズムパターン
1	マーチ/ポルカ	マーチ
2	パイプオルガン	(8ビート1)
3	シアターオルガン	マーチ
4	ジャズオルガン	バラード
5	ジャズコンボ 1	スイング
6	ジャズコンボ 2	ボサノバ
7	ビッグバンド 1	スイング
8	ビッグバンド 2	バラード
9	カントリー	マーチ
10	ストリング アンサンブル	8ビート 1
11	ポップス アンサンブル 1	8ビート 1
12	ポップス アンサンブル 2	ラテンロック
13	ポップス アンサンブル 3	サンバ
14	フュージョン 1	16ビート
15	フュージョン 2	ディスコ
16	フュージョン 3	バウンス

2 リズムをスタートさせ、演奏してみましょう。

リズムのテンポは、演奏する曲にあわせてセットしてください。また、ほかのボタンのレジストレーションも使ってみましょう。(マルチメニュー早わかりカードを参考にしてください。)



より深い理解のために

【メモリーされているレジストレーションの範囲】

レジストレーションメニューに記憶されているレジストレーションの範囲は、レジストレーションメモリーに記憶することができる機能(20～21ページ参照)とほぼ同じです。記憶されている音色には、ボイスメニューの音色(55～59ページ参照)も含まれています。

なお、リズムのテンポは、演奏する曲にあわせてセットできるように、メモリーはされていません。

【再現させたレジストレーションの変更】

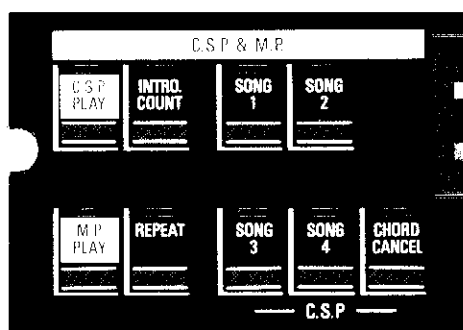
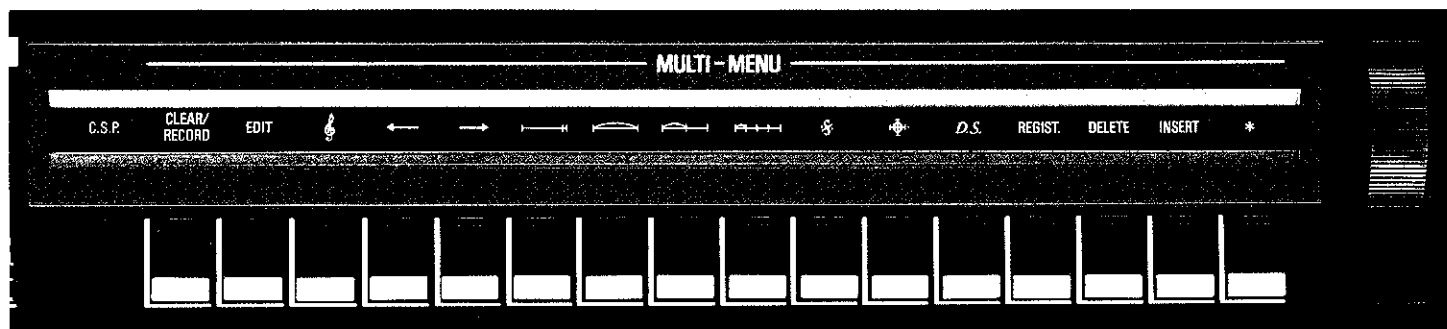
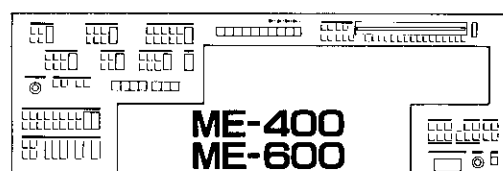
再現したレジストレーションを、コントロールパネルで部分的に変更して使うことができます。また、部分的に変更したレジストレーションを、レジストレーションメモリーを使って記憶させることもできます。(20ページ参照)

【覚えておきましょう】

- オートベースコードのセッティングは、すべてシングルフィンガーがメモリーされています。フィンガードコードやカスタムA.B.C.を使いたいときは、それらのボタンをおして変更してください。
- 1週間以上電源をOFFにしておくと、レジストレーションメニューの1～8の情報が、レジストレーションメモリーの1～8のボタンの情報に移ります。(21ページ参照)

コードシーケンスプログラマー(C.S.P.)

4曲分の伴奏(コード進行の順序)を、あらかじめプログラムしておける機能です。それぞれのレジストレーションも一緒にプログラムすることができます。



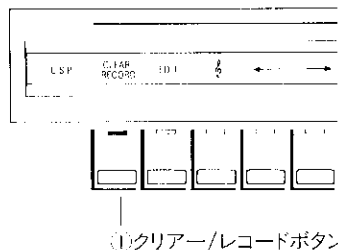
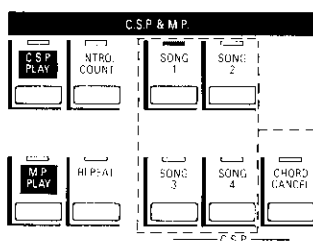
プログラムする操作(クリアー/レコード)

- 1 演奏に使う音色やリズムなどをセットし、レジストレーションメモリーに記憶させる。(20ページ参照)



の途中で音色やリズムなどをさりがたい場合は、そのレジストレーションを必要な分だけレジストレーションメモリーに記憶させてください。途中でレジストレーションを変更しない場合は、レジストレーションメモリーに記憶させる必要はありません。(変更しない場合はC.ボタンをONにしてください。)

- 2 クリアー/レコードボタン①をおし、ソングボタン②をひとつおす。



クリアー/レコードボタンをおすと、1つのソングボタンのランプが点滅をはじめます(4秒間)。ランプが点滅している間に、ソングボタンをひとつおしてください。おしたソングボタンのランプと、クリアー/レコードボタンのランプが点灯し、プログラムできる状態になったことを示します。(そのときコントロールパネルにセットされているレジストレーションが自動的にメモリーされます。)

より深い理解のために

〔レジストレーションメモリーとC.S.P.の関係〕

C.S.P.にプログラムするレジストレーションは、あらかじめレジストレーションメモリーに記憶させておく必要があります。クリアー/レコードをONにした時点で、そのときコントロールパネルでセットされているレジストレーションは自動的にメモリーされ、それと同時に、レジストレーションメモリーに記憶されているすべての情報も一緒にメモリーされます。ただし、リズムのテンポは、クリアー/レコードをONにした時点のテンポだけがメモリーされます。

レジストレーションメモリーの1~8、C.の情報(ボイスメニュー、プレイヤービブラート、サステインを含む)

↓メモリー(テンポを除く)

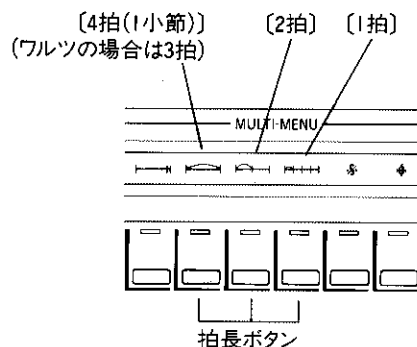
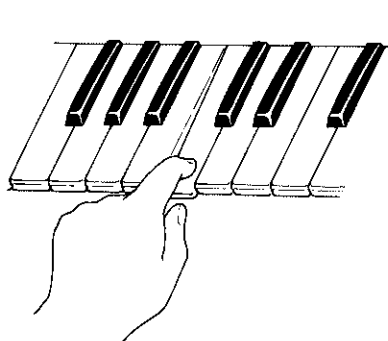
C.S.P.のレジストレーション情報(さらに、フィルインやイントロ・エンディングなどもプログラムできる)

〔プログラムできる小節数〕

C.S.P.のメモリー容量は、ステップ数(拍長ボタン、リピートボタン、レジストレーションボタンをおした数)で計算され、ソングボタンひとつにつき、162ステップまでプログラムすることができます。通常、1小節に2つ以上コードをプログラムしたり、レジストレーションをかえたりしますから、約70~100小節ぐらいのメモリー容量になります。なお、メモリー容量より長くプログラムしようとすると、信号音が3回鳴り、それ以上プログラムできないことを示します。

コードシーケンスプログラマー(C.S.P.)

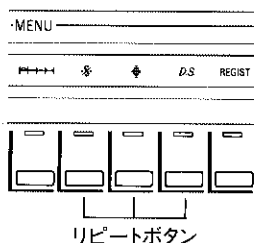
3 下鍵盤でコードをだしながら、拍長ボタンをおす。



オートベースコードのシングルフィンガーを使ってコードをだしてみましょう。もちろん、フィンガードコードやカスタムA.B.C.をONにして、下鍵盤でコードをおさえてもかまいません。コードをだしながら拍長ボタンのひとつをおすと、「ピッ」という信号音が鳴り、コードがプログラムされたことを示します。楽譜のコードネームを見ながら、順次コードをプログラムしていきましょう。(マルチメニュー早わかりカード、プレイブックを参考にしてください。)

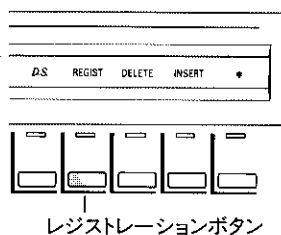
4 必要に応じて、リピートボタンをおす。

右の覧に示した[リピートボタンの使い方]を参考にして、必要に応じてプログラムしてください。

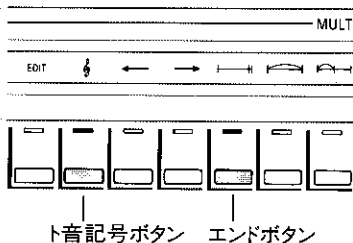


5 必要に応じて、レジストレーションをかえ、レジストレーションボタンをおす。

再生させたとき、レジストレーションボタンをおしたところで、レジストレーションがきりかわります。オートリズムのフィルインやイントロ・エンディングなどもプログラムすることができます。(右の覧の[リズムバリエーションのプログラム]参照)

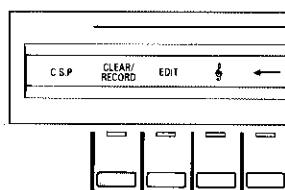


6 プログラムが終わったら、ト音記号ボタンをおしながらエンドボタンをおす。



7 クリアー/レコードボタンをおして、OFFにする。

ほかの3つのソングボタンにも、それぞれプログラムしてみましょう。

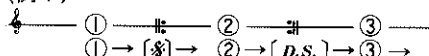


より深い理解のために

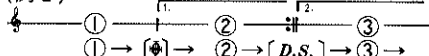
[リピートボタンの使い方]

(※) (セーニョ)	(※) または (※) のところでおしてください。曲の最初からくり返す場合は、おす必要はありません。
(Φ) (コード)	(F), (Fine), (Φ) のところでおしてください。2つ目の(Φ)のところは、おす必要はありません。
[D.S.] (ダルセーニョ)	(—※), (D.S.), (D.C.) のところでおしてください。(※) を使わなかった場合は、曲の最初までもとります。

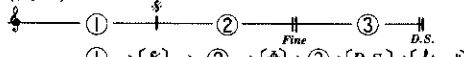
(例1)



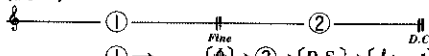
(例2)



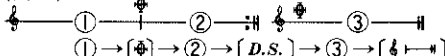
(例3)



(例4)



(例5)



[伴奏のない小節のプログラム]

下鍵盤でコードをださずに、拍長ボタンだけをおしてください。伴奏のない、リズムだけの部分(ノーコード)をプログラムすることができます。

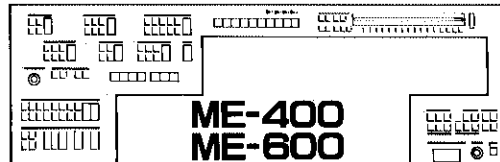
[リズムバリエーションのプログラム]

イントロ 曲の先頭で、イントロ・エンディングスイッチをONにし、レジストレーション(REGIST.)ボタンをおす。そのあと、(※)ボタンだけをおして、伴奏のない小節をプログラムする。

フィルイン 必要など、フィルインスイッチまたはブレークスイッチをONにし、レジストレーションボタンをおす。(フィルインまたはブレークだけの小節にしたいときは、そのあと(※)ボタンをおしてください。タセットのある曲では、ブレークと伴奏のない小節をプログラムすると、演奏がやりやすくなります。)

エンディング 曲の終わりから2小節目の頭で、イントロ・エンディングスイッチをONにし、レジストレーションボタンをおす。そのあと最後の2小節のコードをプログラムする。(エンディングだけで終わらせたいときは、最後にエンディングと伴奏のない小節を2小節目プログラムする。)

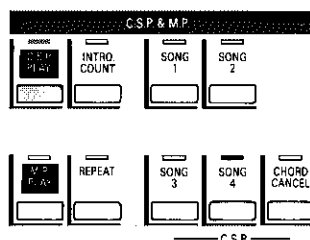
プログラムしたコード進行を再生させれば、上鍵盤でメロディーを弾くだけで、3つの鍵盤を弾いたときと同じ演奏が楽しめます。



再生させる操作(プレイ)

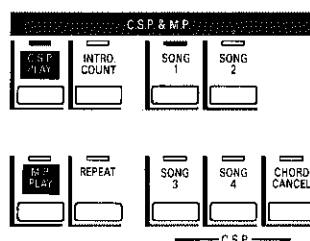
1 C.S.P.プレイボタンを入れる。

一番最後にプログラム(またはエディット)したソングのランプが点灯します。



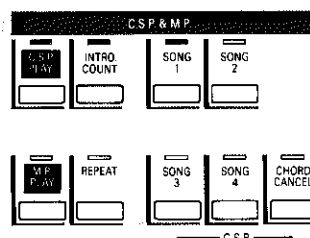
2 再生したいソングのボタンを選ぶ。

選んだソングの最初にメモリーされているレジストレーションが、コントロールパネルに再現されます。



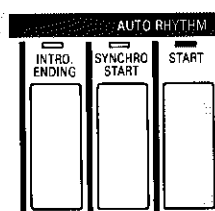
3 イントロカウントのボタンを入れる。

必要に応じて、イントロカウントをONにしてください。再生がスタートするまでに、1小節のイントロカウント(メトロノームの音)がでています。



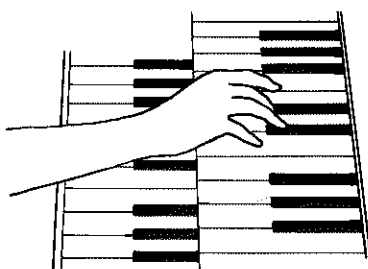
4 リズムをスタートさせる。

ペダルをセットし、オートリズムのスタートスイッチをONにしてください。イントロカウントについて、再生がスタートします。



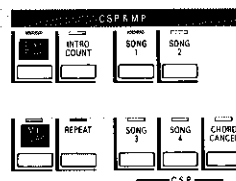
5 再生される伴奏にあわせて、メロディーを弾いてみましょう。

プログラムしたコード進行にしたがって、下鍵盤とペダル鍵盤の伴奏が自動的に再生されます。レジストレーションも記憶させた順序で自動的に再現されます。再生にあわせて、上鍵盤でメロディーを弾いてみましょう。再生が終わると、リズムも自動的にストップし、C.S.P.プレイボタンがOFFになります。ほかの3つのソングも再生させてみましょう。



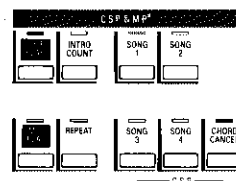
より深い理解のために

〔リピート〕



再生のとき、このボタンをONにしておくと、一度再生が終わっても自動的に曲の先頭までもどり、再生をくり返します。

〔コードキャンセル〕



このボタンをONにして再生をスタートさせると、下鍵盤とペダル鍵盤の伴奏がキャンセルされます。レジストレーションの変更やリズムバリエーションは、プログラムしたとおりに再現されますから、C.S.P.を“レジストレーション・シーケンス・プログラマー”として使うことができます。(コードキャンセルは、再生をスタートさせる前にONにしてください。)

〔覚えておきましょう〕

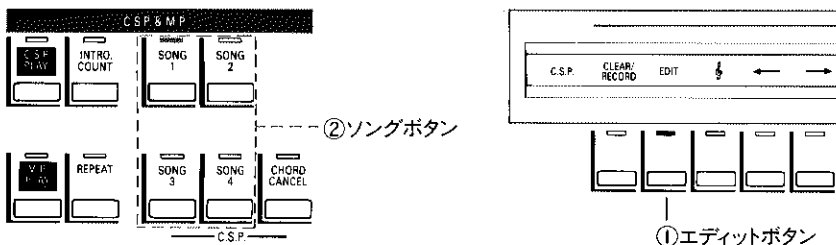
- C.S.P.プレイボタンは、マルチメニューがほかのパネル面になっているときでもONにすることができます。また、クリアー/レコードまたはエディットがONになっているときも、C.S.P.プレイをONにすることができます。
- C.S.P.プレイボタンがONになっていると、クリアー/レコードまたはエディットの操作を行うことができません。また、M.P.の録音も行うことができません。
- プログラムの最後に、[F1]をおし忘れても、クリアー/レコードをOFFにすると、終止記号の情報が自動的にプログラムされます。
- C.S.P.プレイとソングのボタンをONにすると、そのときレジストレーションメモリーに記憶されている情報は消え、それぞれのソングに記憶されているレジストレーションメモリーの情報にいかかわります。

コードシーケンスプログラマー(C.S.P.)

プログラムした情報をチェックし、コードやレジストレーションなどを訂正・変更することができます。

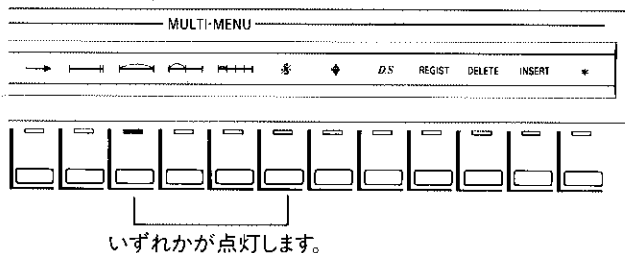
確認と訂正の操作(エディット)

1 エディットボタン①をおし、ソングボタン②をひとつおす。



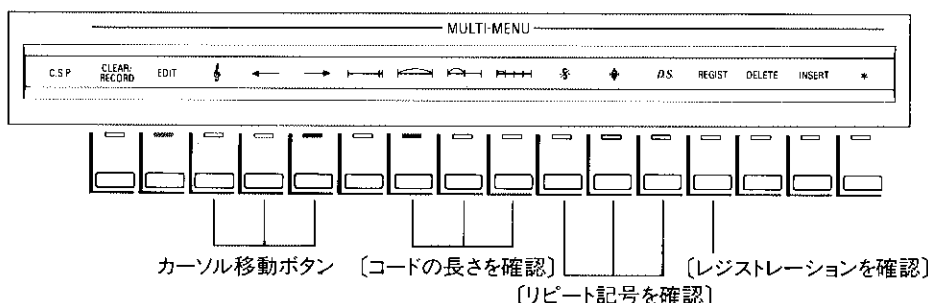
エディットボタンをおすと、4つのソングボタンのランプが点滅をはじめます(4秒間)。ランプが点滅している間に、確認・訂正をしたい曲をプログラムしたソングボタンをおしてください。おしたソングのランプと、エディットボタンが点灯し、確認と訂正ができる状態になったことを示します。

2 一番最初の情報を確認する。



曲の最初にメモリーされているレジストレーションはコントロールパネルに再現されます。それと同時に、1番目にプログラムしたコードが鳴り、拍長ボタンのランプが点灯します。(1番目にリピート記号をプログラムした場合は、リピートボタンのランプが点灯します。)

3 フォワード[→]ボタンをおして、情報をひとつずつ確認する。



フォワード[→]ボタンを1回おすたびに、カーソル(情報の位置を示す指針)がひとつずつ進みますから、順次情報をチェックしてください。

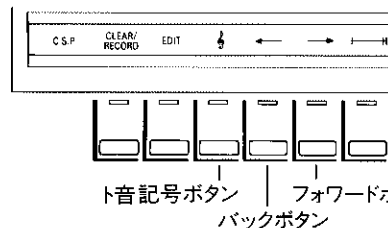
コードの確認: コードが鳴り、拍長ボタンのランプがひとつ点灯する。

リピート記号の確認: リピートボタンのランプがひとつ点灯する。

レジストレーションのきりかえとリズムバリエーションの確認: レジストレーションボタンのランプが点灯し、きりかえたレジストレーションが再現される。(または、フィルインなどのリズムバリエーションのスイッチがONになる。)

より深い理解のために

[カーソル(情報の位置を示す指針)移動ボタン]
フォワード[→]とバック[←]のボタンで、ひとつずつカーソルを移動させるほか、ト音記号[♩]ボタンを一緒におして、曲の最初または最後まで一度に移動する使い方ができます。



[→]	1回おすたびに、カーソルがひとつずつ進みます。
[←]	1回おすたびに、カーソルがひとつずつもどります。
[♩→]	一度に曲の最後までカーソルが移動します。
[♩←]	一度に曲の最初までカーソルが移動します。

なお、カーソル移動ボタンをおすことで、プログラムされている情報が消えるようなことはありません。

[リズムをスタートさせての確認]

エディットがONになっているとき、オートリズムをスタートさせることも、情報の確認ができます。この場合、再生させるときと同じように、プログラムしたコードが再生されます。(ただし、リピート記号によるくり返し、アルペジオコードとベース伴奏の音は再生されません。)確認の途中で情報を訂正したいところが見つかったら、リズムをストップさせ、[←]ボタンでカーソルをもどし、訂正(または、消去、追加)の操作を行ってください。

[クリアー/レコードがONのときの訂正]

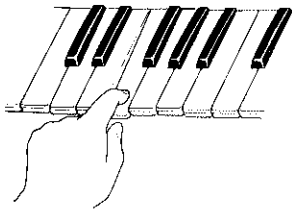
クリアー/レコードをONにして情報をプログラムしている途中でも、エディットのときと同じように情報を訂正することができます。この場合、まず訂正したい情報までカーソルを移動し([←]ボタンでもどすか、[♩←]のあと[→]で進める)、情報を訂正(または消去、追加)してください。

なお、クリアー/レコードをOFFにしたあとでの訂正は、必ずエディットをONに行ってください。クリアー/レコードを再びONにすると、プログラムした情報がすべて消えてしまいます。

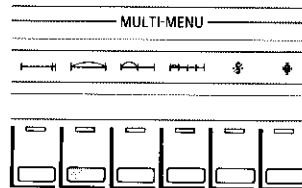
4 情報を訂正する。

〔まちがった情報を正しい情報に訂正したい場合〕

訂正・変更したい情報がみつかったら、カーソルをその位置にしたまま、新しい情報をプログラムしてください。



(例 ①)

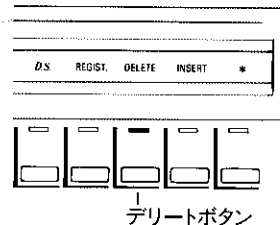


訂正する内容	操 作
[C・C・E・G]→[C・C・F・G]	カーソルをEの発音位置にして、Fをプログラムする。

コードの訂正だけでなく、コードの長さ(拍長)、リピート記号、レジストレーションメモリの番号、リズムバリエーションなども、同様の操作で訂正することができます。

〔余分な情報を消したい場合〕

必要のない情報がみつかったら、カーソルをその位置にしたまま、デリート(消去)ボタンをおしてください。

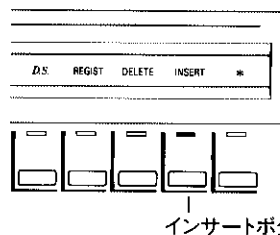


(例 ②)

訂正する内容	操 作
[C・C・E・F・G]→[C・C・F・G]	カーソルをEの発音位置にして、デリートボタンをおす。

〔情報を追加したい場合〕

新しい情報を追加したい場合は、追加したい位置の次の情報にカーソルを移動し、インサート(挿入)ボタンをおし、新しい情報をプログラムしてください。



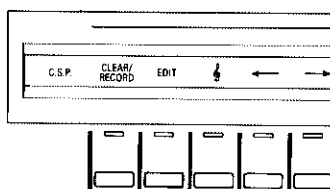
(例 ③)

訂正する内容	操 作
[C・C・G]→[C・C・F・G]	カーソルをGの発音位置にして、インサートボタンをおし、Fをプログラムする。

コードの情報だけでなく、リピート記号、レジストレーションメモリの番号やリズムバリエーションの情報も同様の操作で消去または追加ができます。

5 エディットボタンをおして、OFFにする。

確認と訂正が終わったら(曲の最後までカーソルが移動すると「—」が点灯します)、エディットをOFFにしてください。



より深い理解のために

〔プログラムしたレジストレーションメモリの記憶内容の訂正〕

- ①エディットがONになっていることを確認。
- ②訂正したいレジストレーションが記憶されているレジストレーションメモリのボタンをおす。
- ③コントロールパネルでレジストレーションを訂正する。
- ④[M.]ボタンをおしながら、②でおしたボタンをおして、メモリーをやり直す。

〔曲の先頭に記憶されているレジストレーションの内容の訂正〕

- ①エディットをONにして、カーソルを曲の先頭の位置にする。
- ②コントロールパネルでレジストレーションを訂正する。
- ③レジストレーション[REGIST.]ボタンをおす。

〔記憶させた情報の保護について〕

バックアップメモリー：エレクトーン本体に記憶させたC.S.P.の情報(4曲分)は、電源をOFFにしたままでも、最低1週間は消えずに記憶されています。

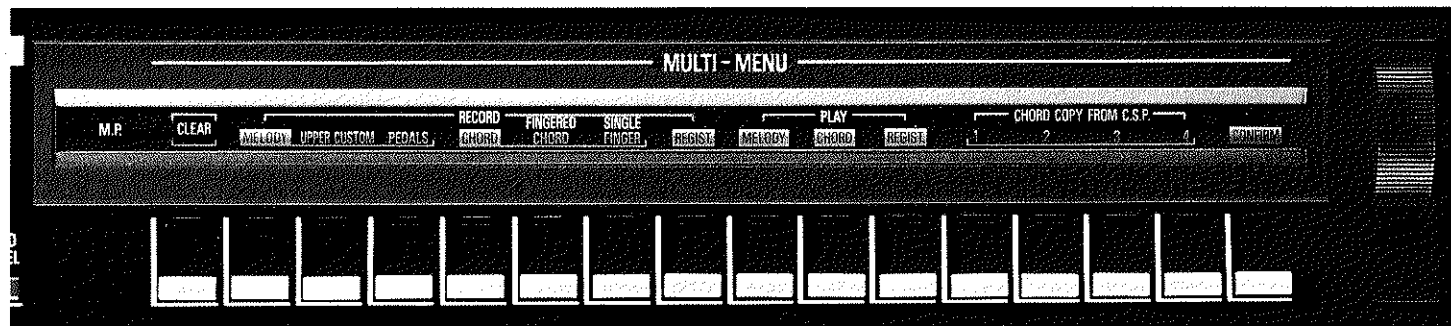
外部メモリー：記憶させたC.S.P.の情報(4曲分)を、レジストレーションバックまたはカセットテープに移し、保存しておくことができます。(●～●ページ参照)

〔覚えておきましょう〕

- エディットをONにした場合は、プログラムした情報が消えることはありませんが、誤ってクリアー/レコードをONにすると、プログラムした1曲分の情報がすべて消えてしまいますのでご注意ください。
- 異なったレジストレーションを連続してプログラムさせることはできません。したがって、エディットの操作で、レジストレーション(REGIST.)ボタンがONになっているときは、新しいレジストレーションやリズムバリエーションを追加することはできません。(訂正は可能です。)

ミュージックプログラマー(M.P.)

伴奏とメロディーをパートごとに録音することができる機能です。レジストレーションも一緒に記憶させることができます。



録音する操作(レコード)

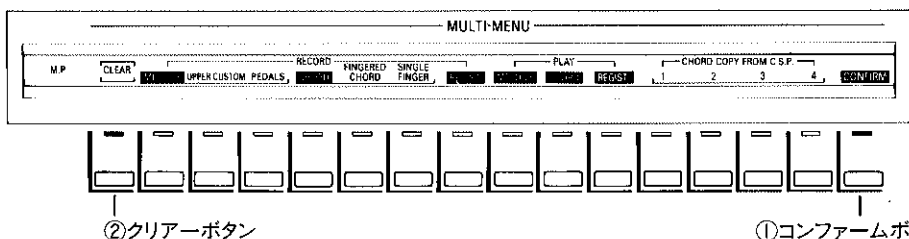
1 演奏に使うレジストレーションをセットする。



各鍵盤の音色やオートリズムなどをコントロールパネルでセットしてください。曲の途中で音色やリズムなどをきりかえたい場合は、必要な分だけレジストレーションメモリーに記憶させておくとう便利です。

なお、上鍵盤の音色として、カスタムボイスを必ずセットしてください。

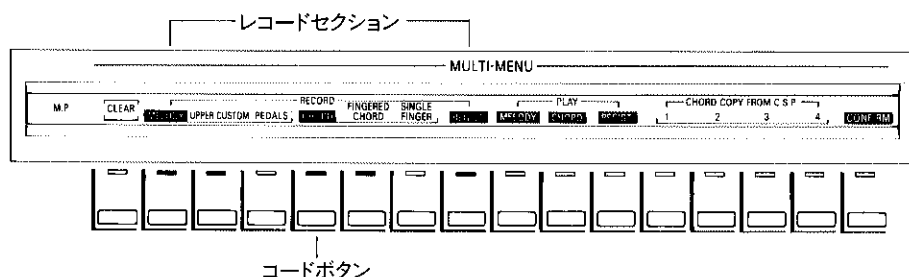
2 コンファームボタン①をおしながら、クリアーボタン②をおす。



信号音が鳴って、録音できる状態になったことを示します。(すでに演奏を録音している場合は、その情報が消去されます。)

(伴奏の録音)

3 レコードセクションのコードボタンがONになっていることを確認する。



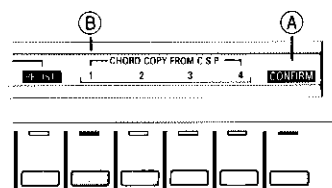
コンファームボタンとクリアーボタンをおすと、レコードセクションのいくつかのボタンが自動的にONになります。この状態で、上鍵盤と下鍵盤の演奏を同時に録音することもできますが、ここではまず、下鍵盤からコードをだして、伴奏だけを録音してみましょう。

より深い理解のために

(コードコピーフロムC.S.P.)

下鍵盤を弾いて伴奏を録音するかわりに、コードシーケンスプログラマーに記憶させたコード進行をミュージックプログラマーに移して使うことができます。

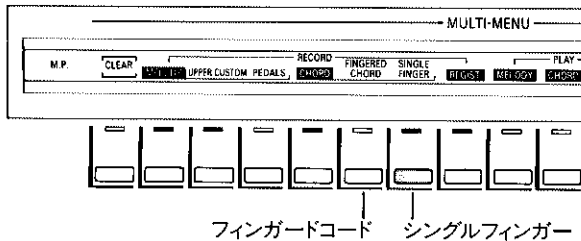
- ① C.S.P. にコード進行をプログラムする。(②～④ ページ参照)
- ② マルチメニューのパネルをM.P.にして、コンファームボタンをおしながらクリアーボタンをおす。
- ③ コンファームボタン ①をおしながら、コードコピーフロムC.S.P.のボタン ②をひとつおす。



コードコピーフロムC.S.P.の1～4は、それぞれC.S.P.のソング1～4に対応しています。①でプログラムしたソングと同じ番号のボタンをおしてください。信号音が鳴って、C.S.P.のコード進行がM.P.に移ったことを示します。(リピート記号のプログラムもそのままM.P.に移ります。ただし、レジストレーションの情報は移りません。)

- ④ プレイセクションのコードボタンと、レコードセクションのメロディーボタン、レジストレーションボタンをONにして、メロディーとレジストレーションをメモリーさせる。(⑩～⑪ ページ参照)
途中でレジストレーションを変更してもかまいませんが、リズムパターンは拍子のちがうものにはかえないでください。(たとえば、C.S.P.に4拍子のリズムパターンでプログラムして、M.P.で3拍子のリズムパターンにかえると、不都合がおこります。)

4 シングルフィンガーボタンをおす。

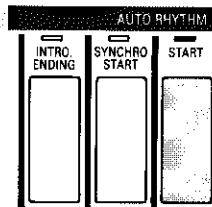


ミュージックプログラマーでは、オートベースコードのシングルフィンガー、またはフィンガードコードを使って伴奏を録音します。シングルフィンガーにするか、フィンガードコードにするかは、レコードセクションのボタンで選んでください。

ここでは、シングルフィンガーを使ってみましょう。(伴奏のつけ方は⑪ページ参照)

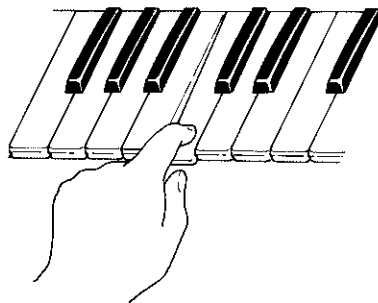
5 リズムをスタートさせる。

テンポをセットし、オートリズムのスタートスイッチをONにしてください。リズムがスタートするまえに、1小節のイントロカウント(メトロノームの音)が自動的にでてきますから、これでタイミングをとってください。



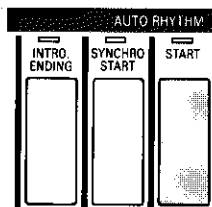
6 下鍵盤を弾いて、伴奏を録音する。

イントロカウントが終わるとリズムがスタートし、録音が始まります。楽譜をみながら、下鍵盤で伴奏(コードとベースの自動伴奏)を弾いてみましょう。



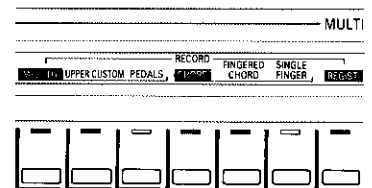
7 録音が終わったら、リズムをストップさせる。

曲の終わりまで伴奏を弾いたら、オートリズムのスタートスイッチをOFFにしてください。レコードセクションのランプがすべて消えます。これで、コードとベースの自動伴奏が録音されたことになります。



より深い理解のために

【伴奏とメロディーの同時録音】



上鍵盤と下鍵盤の演奏を一度に録音することもできます。レコードセクションのメロディーとコードのボタンがONになっていることを確認して、リズムをスタートさせ、伴奏とメロディーを一緒に弾いてください。

【コードを弾きまちがえた場合は】

録音中にまちがったコードを弾いてしまった場合は、レコードセクションのコードボタンをONにして、もう一度最初から伴奏の録音をやり直してください。

【覚えておきましょう】

- コンファームとクリアーボタンをおすと、そのときセットされているレジストレーション(レジストレーションメモリーに記憶されている情報も含む)が、自動的にメモリーされています。
- イントロカウントが鳴っている間は、鍵盤を弾いても録音されません。
- 曲の最初にタセット(メロディーだけを弾く部分)がある場合は、1小節目にオートリズムのブレイクまたはイントロを入れ、2小節目からコードを弾いてください。
- リズムのテンポは、再生のときにかえることができますから、録音するときは遅めにセットしてもかまいません。
- 新しい曲を録音するときは、必ずコンファームとクリアーのボタンをおしてください。この操作をしないと、まえに録音した演奏が最後に残っていることがあります。
- 伴奏のつけ方(シングルフィンガーまたはフィンガードコード)は、コントロールパネルのオートベースコードのボタンでは選ぶことはできません。また、再生させたときは、フィンガードコードに固定されます。

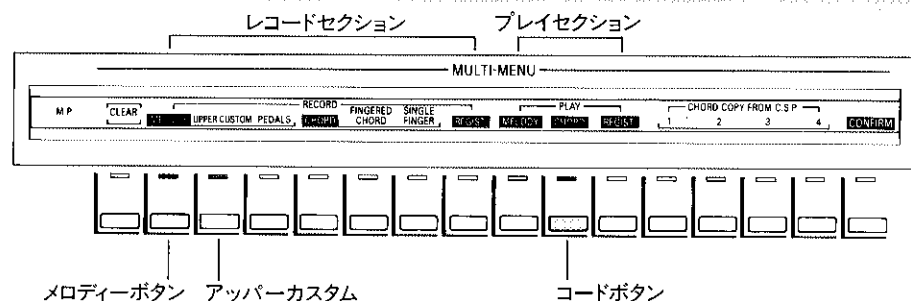
ミュージックプログラマー(M.P.)

(メロディーの録音)

8 カスタムボイスがセットされていることを確認する。

ミュージックプログラマーでは、カスタムボイスを使ってメロディーを録音します。上鍵盤の音色としてカスタムボイスがセットされていることを確認してください。

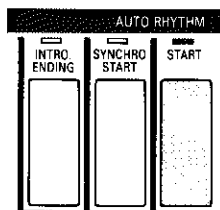
9 レコードセクションのメロディーボタンと、プレイセクションのコードボタンをおす。



メロディーボタンをおすと、アッパーカスタムボタンも一緒にONになります。プレイセクションのコードボタンをONにすることで、すでに録音した伴奏の再生を聴きながら、メロディーを録音することができます。

10 リズムをスタートさせる。

スタートスイッチをおすと、リズムがスタートするまえに、1小節のイントロカウント(メトロノームの音)が自動的にでてきます。録音を始めるまえにタイミングをとってください。



11 上鍵盤を弾いて、メロディーを録音する。

イントロカウントが終わると、リズムがスタートし、録音が始まります。再生される伴奏とリズムにあわせて、上鍵盤でメロディーを弾いてみましょう。(メロディーは単音で弾いてください。)



12 録音が終わったら、リズムをストップさせる。

メロディーを弾き終わったら、オートリズムのスタートスイッチをOFFにしてください。これで、伴奏に加えてメロディーが録音されたことになります。

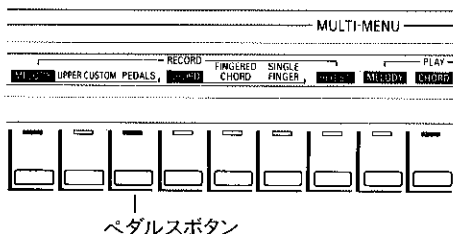
より深い理解のために

【ベース伴奏の録音】

上鍵盤でメロディーを録音するかわりに、ペダル鍵盤を弾いて、ベース伴奏を録音することができます。この場合、オートベースコードによるベース伴奏(下鍵盤でコード伴奏を録音したとき、ベース伴奏も自動的に録音されています)はキャンセルされ、ペダル鍵盤で弾いた通りの演奏が録音されます。

①ペダルカスタムボイスがセットされていることを確認する。

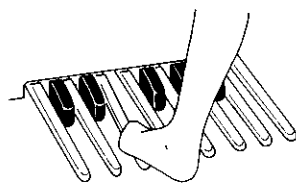
②レコードセクションのメロディーボタンとペダルスボタンをおし、プレイセクションのコードボタンをおす。



③リズムをスタートさせる。

イントロカウントにつづいて、録音させたコード伴奏の再生がスタートします。

④ペダル鍵盤を弾いて、ベース伴奏を録音する。



⑤録音が終わったら、リズムをストップさせる。

【メロディーを弾きまちがえた場合は】

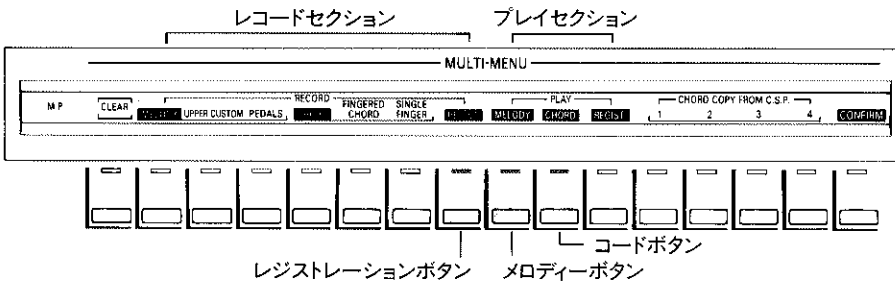
録音中にメロディーを弾きまちがえた場合は、レコードセクションのメロディーボタンをONにして、もう一度最初からメロディーの録音をやり直してください。(伴奏の録音をやり直す必要はありません。)

【覚えておきましょう】

●メロディーが録音できる音色はカスタムボイスですが、ボイスメニューの音色をカスタムボイスに移せば、メロディーの音色として録音させることができます。

(レジストレーションのメモリー)

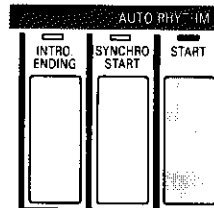
- 13** レコードセクションのレジストレーションボタンをおし、プレイセクションのメロディーとコードのボタンをおす。



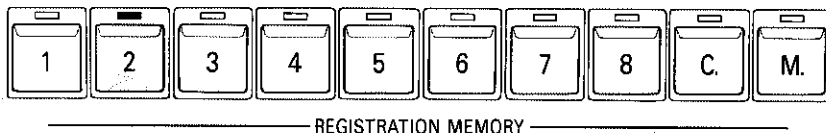
このようにセットすれば、レジストレーションのきりかえやリズムバリエーションなどのメモリーができるようになります。(伴奏またはメロディーを録音したときに、レコードセクションのレジストレーションボタンがONになっていると、すでに基本的なレジストレーションはメモリーされています。)

- 14** リズムをスタートさせる。

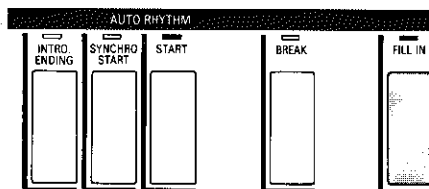
1小節のイントロカウントのあと、録音した伴奏とメロディーが、基本的なレジストレーションで再生されます。



- 15** 必要なところで、レジストレーションをきりかえる。(またはリズムバリエーションをONにする。)



レジストレーションをきりかえたいところで、レジストレーションメモリーのボタンをタイミングよくおしてください。また、コントロールパネルでレジストレーションをかえれば、そのきりかえも記憶されます。



フィルインなどのリズムバリエーションをメモリーさせたいときは、それぞれのスイッチをONにしてください。なお、1小節目にフィルインやイントロなどのリズムバリエーションをメモリーさせたいときは、リズムをスタートさせる前に、それぞれのスイッチをONにしておいてください。

- 16** 曲が終わったら、リズムをストップさせる。

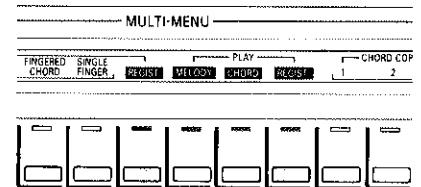
伴奏とメロディーの再生が終わったところで、タイミングよくオートリズムのスタートスイッチをOFFにしてください。これで、すべてのパートが記憶されたことになります。

より深い理解のために

(メモリーしたレジストレーションの訂正)

いったんメモリーさせたレジストレーションを訂正したい場合は、最初からメモリーをやり直さなくても、次の操作で部分的に訂正することができます。

- ①レコードセクションのレジストレーションボタンとプレイセクションのレジストレーションボタンを両方ともONにする。プレイセクションのメロディーとコードのボタンもONにする。



- ②リズムをスタートさせる。

イントロカウントにつづいて、録音させた演奏がメモリーさせたレジストレーションで再生されます。

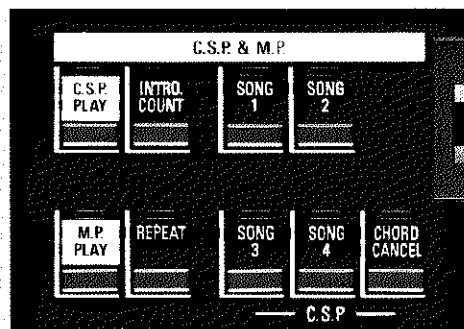
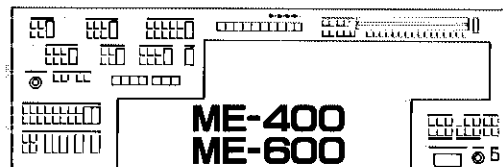
- ③訂正したいところで、新しいレジストレーションにきりかえる。

レジストレーションメモリーのボタン、またはコントロールパネルで、レジストレーションを訂正してください。リズムバリエーションのスイッチをONにすれば、それらも追加することができます。(訂正、追加しなかった部分のレジストレーションは、まえにメモリーさせておいたものがそのまま記憶されています。)

(ミュージックプログラマーのメモリー容量)

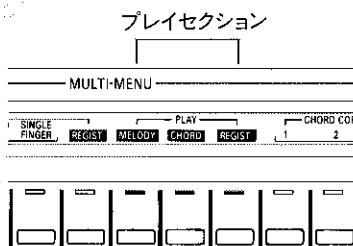
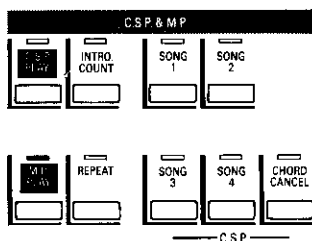
録音できる長さは、演奏の内容(コードをかえた回数、メロディーの音の数、レジストレーションをかえた回数など)によって異なりますが、通常の演奏で約3分間です。メロディー、コード、レジストレーションのいずれかが容量いっぱいまでメモリーされると、レコードセクションのそれぞれのボタンが点滅をはじめます。

ミュージックプログラマー(M.P.)



再生する操作(プレイ)

1 M.P.プレイボタンを入れる。



プレイセクションの3つのボタンが、自動的にONになります。

2 イントロカウントのボタンを入れる。

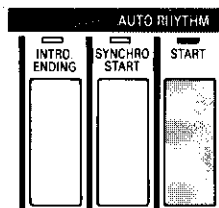
必要に応じて、イントロカウントをONにしてください。再生がスタートする前に1小節のイントロカウントがでます。



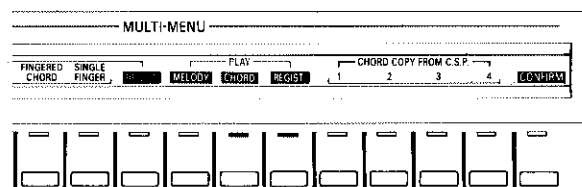
3 リズムをスタートさせる。

テンポをセットし、オートリズムのスタートスイッチをONにしてください。録音した伴奏とメロディーが、記憶させたレジストレーションで再生されます。

再生が終わると、リズムも自動的にストップし、M.P.プレイボタンがOFFになります。



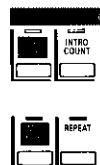
4 マイナスワンの再生もできます。



プレイセクションのメロディーボタンをOFFにしてリズムをスタートさせると、メロディーがキャンセルされた再生になります。再生にあわせて上鍵盤でメロディーを弾いてみましょう。また、コードボタンの方をOFFにすれば、伴奏がキャンセルされた再生になりますから、下鍵盤で伴奏を弾いてみましょう。

より深い理解のために

(リピート)



再生のとき、このボタンをONにしておくと、一度再生が終わっても自動的に曲の先頭までもどり、再生をくり返します。

(上乗せ演奏)

上鍵盤：カスタムボイス以外の音色をセットしておけば、同時に7音までの上乗せ演奏ができます。

下鍵盤：再生されるコードの音と合計して7音まで、上乗せ演奏ができます。

(記憶させた情報の保護について)

バックアップメモリー：エレクトーン本体に記憶させたM.P.の情報は、電源をOFFにしたままでも、最低1週間は消えずに保護されています。

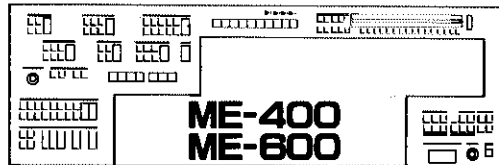
外部メモリー：記憶させたM.P.の情報は、カセットテープに移し、保存しておくことができます。(●ページ参照)

(覚えておきましょう)

●M.P.プレイボタンは、マルチメニューがほかのパネル面になっているときでもONにすることができます。

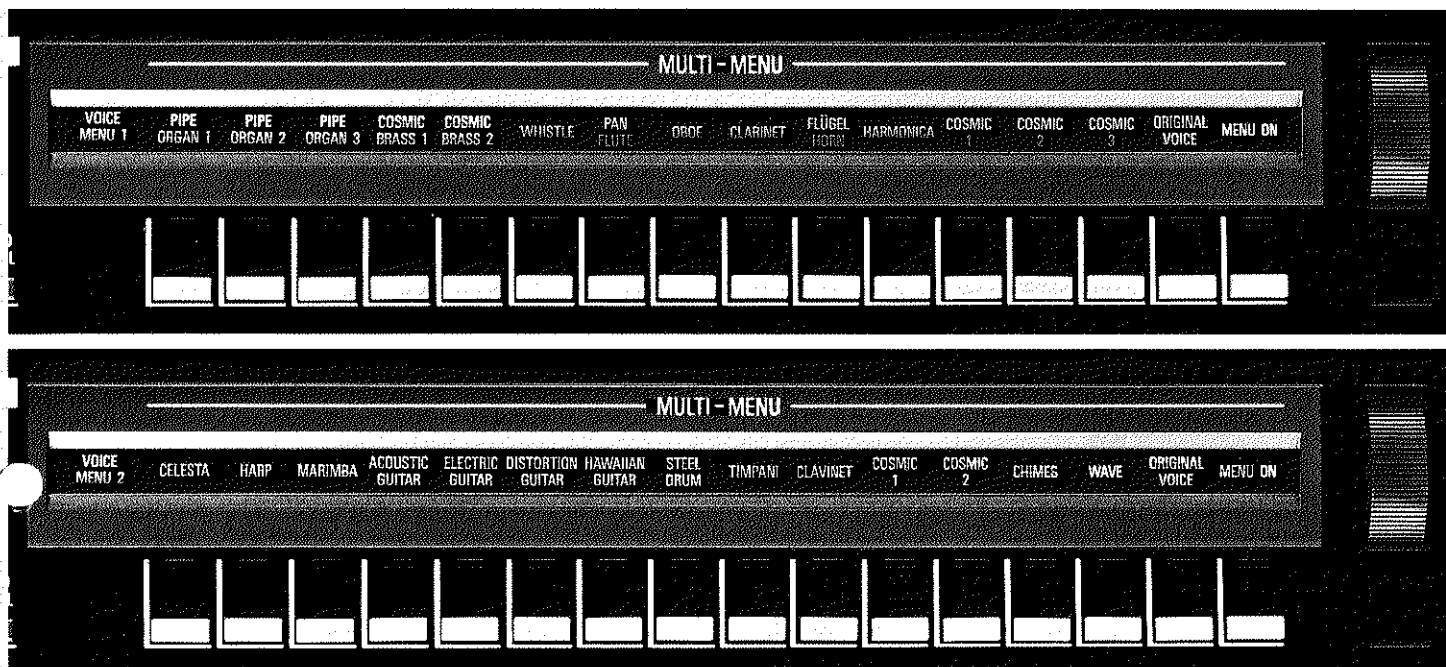
●M.P.プレイボタンをONにして再生しているときは、レコードセクションのメロディーボタン、コードボタンをONにすることはできません。また、C.S.P.のクリアー/レコードの操作も行えません。

●M.P.プレイボタンをONにすると、そのときレジストレーションメモリーに記憶されている情報は消え、M.P.に記憶されているレジストレーションメモリーの情報にいかわりします。



ボイスメニュー

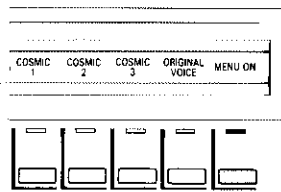
28の音色のなかから好きな音色を選び、コントロールパネルのグレーのボタンに移して使うことができます。



グレーのボタンに音色を移す操作

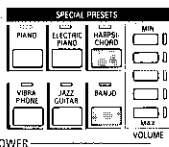
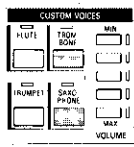
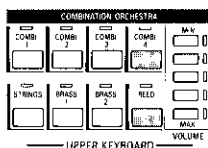
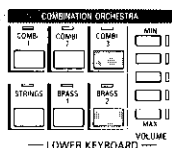
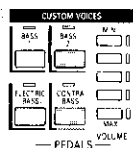
1 メニューオンボタンを入れる。

右端にあるメニューオンのボタンをONにしてください。このボタンは、ボイスメニューの1と2の両方のパネル面にあり、どちらか片方をONにすると、もう片方も自動的にONになります。



メニューオンボタン

どの音色をどこに移すかを決める。



(図はME-400)

より深い理解のために

【グレーのボタンに移した音色の確認】

メニューオンのボタンがONになっているとき、グレーのボタンをおすことで、それぞれのボタンにどんな音色が移されているかを確認することができます。

ボイスメニューの音色を移したボタン：グレーのボタンをおすと、そのボタンに移している音色のランプが点灯します。どのランプも点灯しない場合は、ボイスメニューのもうひとつのパネル面をだすと、ランプが点灯します。

音色を移していないボタン：グレーのボタンをおすと、右から2番目にあるオリジナルボイスのランプが点灯します。

グレーのボタンは、各音色グループ(ME-600のアンサンブルボイスを除く)の右側に2つずつあり、ボイスメニューの音色はこれらのボタンに移して使います。ボイスメニューの28の音色をどの音色グループに移すかは、自由に選ぶことができます。(下の図を参考にしてください。)

おもにコンビネーション/オーケストラに移すのに適した音色。

おもにカスタムボイスに移すのに適した音色。

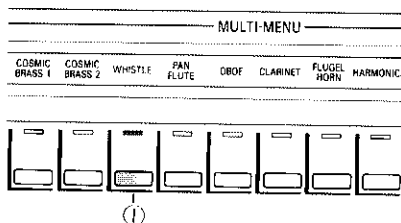
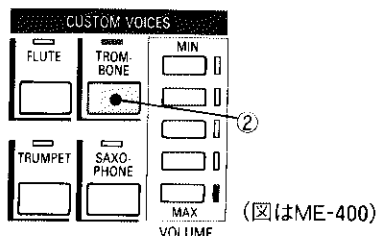


おもにスペシャルプリセットに移すのに適した音色。



ボイスメニュー

3 ボイスメニューの音色ボタン①をおしながら、グレーのボタン②のひとつをおす。



グレーのボタンのランプが点滅し、音色が移ったことを示します。ほかのグレーのボタンにも好みの音色を移してみましょう。

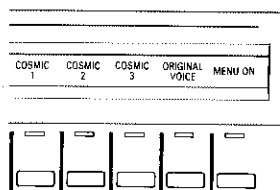
4 移した音色をだしてみましょう。

音色を移したグレーのボタンがONになっていることを確認し、ボリューム、アンサンブルのボタンをセットしたうえで、鍵盤を弾いてください。

移した音色のキャンセルと再現

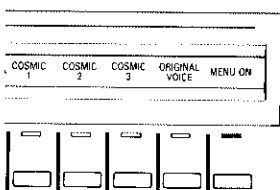
1 メニューオンのボタンをおしてOFFにする。

グレーのボタンに移した音色がすべてキャンセルされます。各音色グループのグレーのボタンでは、本来の音色(表示されているとおりの音色)が得られるようになります。



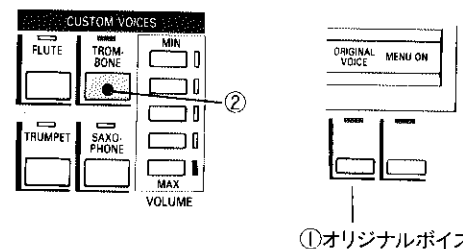
2 メニューオンのボタンを再びONにする。

メニューオンのボタンをOFFにする前の情報が再現され、音色を移しておいたグレーのボタンでは、ボイスメニューの音色が再び得られるようになります。



より深い理解のために

〔移した音色の部分的なキャンセル〕



オリジナルボイスのボタン①をおしながら、グレーのボタン②のひとつをおすことで、移した音色を部分的にキャンセルすることができます。

〔覚えておきましょう〕

●グレーのボタンに移している音色をほかの音色にかえたいときは、新しいマルチメニューの音色ボタンをおしながら、同じグレーのボタンをおしてください。

●2つ以上のグレーのボタンに、同じ音色を移して使うこともできます。

●グレーのボタンに音色を移している状態を、レジストレーションメモリーに記憶させることができます。また、その情報をC.S.P.やM.P.のレジストレーションの一部として記憶させることもできます。(20、23、31ページ参照)

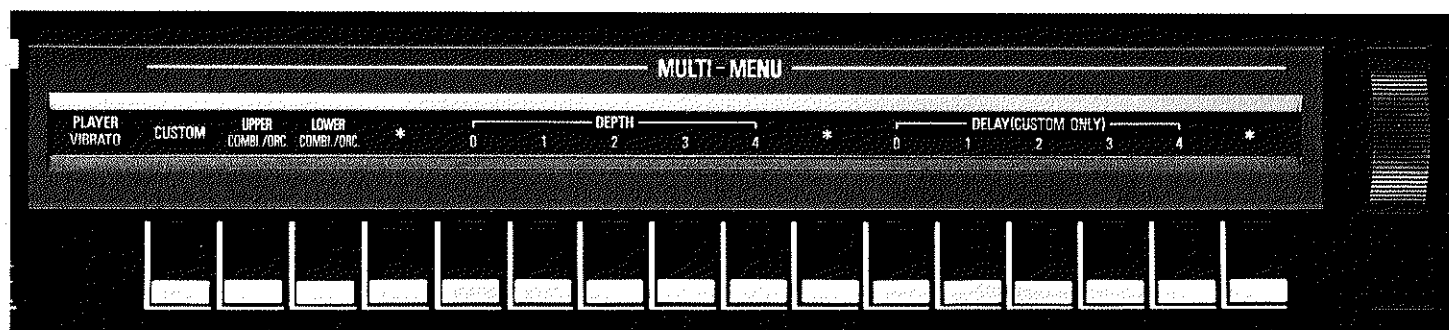
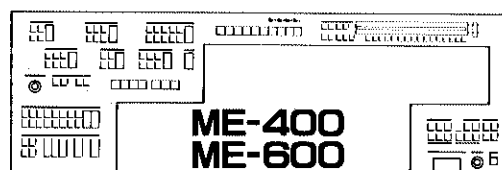
●カスタムボイスとペダルカスタムボイスのグレーのボタンに移した音色は、単音(モノフォニック)で得られます。

●ボイスメニューの音色には、あらかじめビブラート効果が組みこまれているものがあり、音色を移すと、そのビブラートのかかり方が変わる場合があります。(その場合、プレイヤービブラートでビブラートのかかり方をかえることができます。35ページ参照)

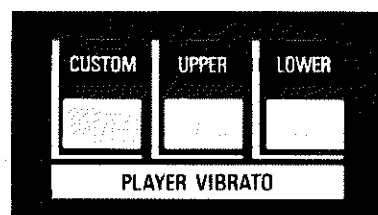
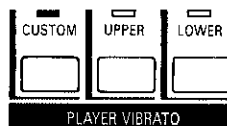
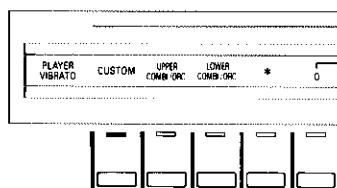
●グレーのボタンに移した情報は、電源をOFF(またはメニューオンをOFF)にしたままでも、最低1週間は消えずに記憶されています。

プレイヤービブラート

カスタムボイスとコンビネーション/オーケストラの音色には、あらかじめビブラート効果が組み込まれていますが、自分がかかり方をセットして記憶させることができます。

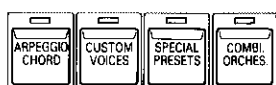
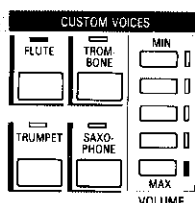


1 マルチメニューのカスタムボタンと、コントロールパネルのカスタムボタンを入れる。



プレイヤービブラートは、カスタムボイスとコンビネーション/オーケストラに対してセットすることができます。まず、カスタムボイスのプレイヤービブラートをセットし、記憶させてみましょう。

2 コントロールパネルでカスタムボイスをセット。

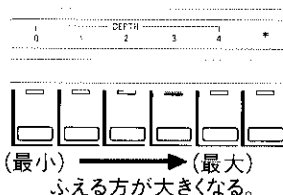


(図はME-400)

音色をひとつ選び、ボリュームとアンサンブルのカスタムボイスボタンをセットしてください。

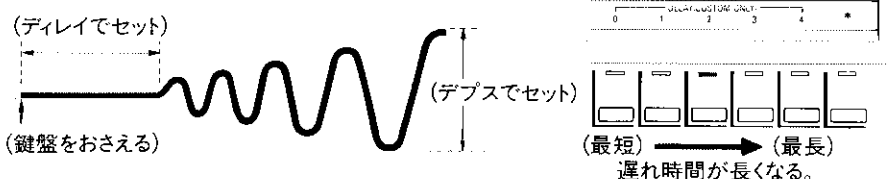
ビブラートのデプス(深さ)をセット。

鍵盤をおさえてカスタムボイスの音をだしながら、デプスの5つのボタンのうちひとつをONにしてください。おしたボタンのデプス(音のふるえ方の深さ)が記憶されます。



4 デイレイ(遅れ時間)をセット。(カスタムボイスの場合のみ)

デプスのセットと同様に、5つのボタンのうちひとつをONにして、デイレイ(鍵盤をおさえてからビブラートがかかりはじめるまでの遅れ時間)を記憶させてください。



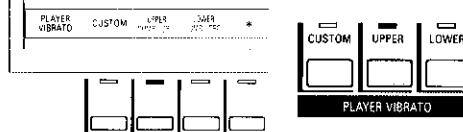
5 コントロールパネルのカスタムボタンを入れ、鍵盤を弾く。

セットしたプレイヤービブラートは記憶されていますから、コントロールパネルのカスタムボタンをONにすることで、いつでもプレイヤービブラートをかけることができます。



より深い理解のために

【コンビネーション/オーケストラのプレイヤービブラート】



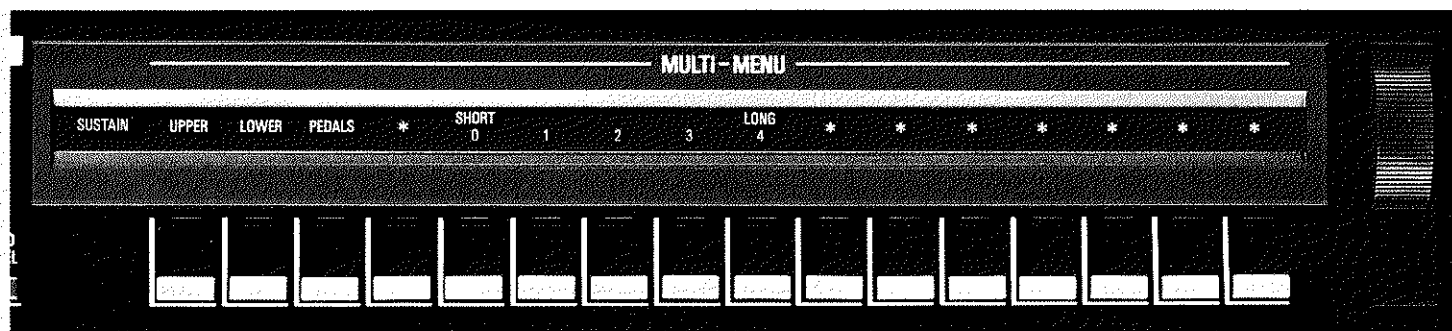
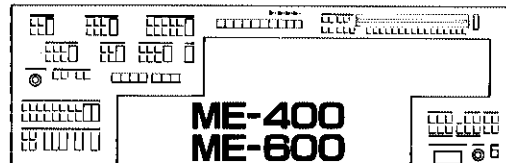
マルチメニューのアップパーコンビネーション/オーケストラボタンと、コントロールパネルのアップパーボタンをONにして、デプスをセットすれば、上鍵盤のコンビネーション/オーケストラのプレイヤービブラートを記憶させることができます。下鍵盤のコンビネーション/オーケストラの場合も同様に、ローパーコンビネーション/オーケストラボタンとローパーボタンをONにして、デプスをセットしてください。(デイレイはかけられません。)

【覚えておきましょう】

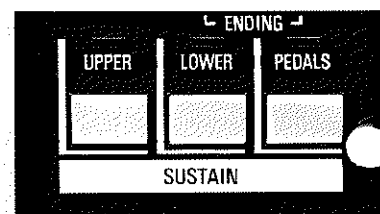
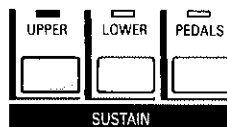
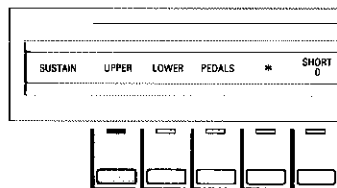
- プレイヤービブラートのセッティングは、レジストレーションメモリーに記憶させることができます。曲の途中でビブラートのかかり方をかえたいときなどに、あらかじめセッティングをかえたものをレジストレーションメモリーに記憶させておく便利です。また、その情報をさらにC.S.P.やM.P.のレジストレーションの一部として記憶させることもできます。(⑩、⑫、⑬ページ参照)
- スペシャルプリセット、アルペジオコード、ペダルカスタムボイスには、ビブラート効果はかかりません。
- プレイヤービブラートに記憶させた情報は、電源をOFF(またはコントロールパネルのプレイヤービブラートをOFF)にしたままでも、最低1週間は消えずに記憶されています。

サステイン

鍵盤から手や足をはなしたあと、音に余韻をつけるサステイン効果を、各鍵盤ごとにセットして記憶させることができます。



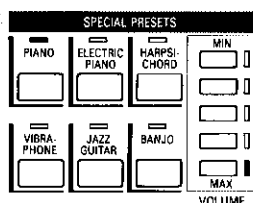
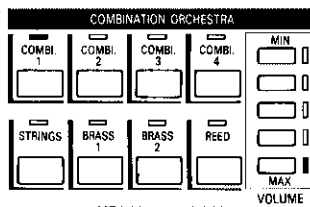
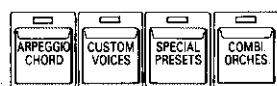
1 マルチメニューのアップパーボタンと、コントロールパネルのアップパーボタンを入れる。



サステインは、上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤の音に対してそれぞれセットすることができます。まず、上鍵盤のサステインをセットし、記憶させてみましょう。

2 上鍵盤の音色をセット。

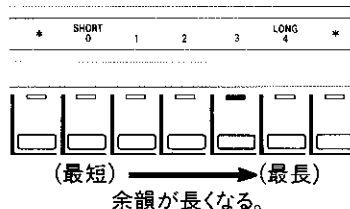
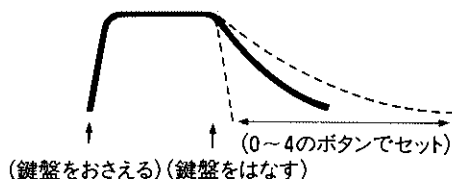
スペシャルプリセットまたはコンビネーション/オーケストラで音色を選び、ボリュームとアンサンブルのボタンをセットしてください。(ME-600では、アンサンブルボイスにもサステインをかけることができます。)



(図はME-400)

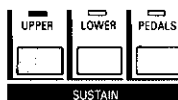
3 サステインの長さをセット。

余韻の長さは5段階にセットすることができます。上鍵盤を弾きながら(鍵盤をおさえて、すぐにはなす)、5つのボタンのうちひとつをONにしてください。おしたボタンの長さが記憶されます。



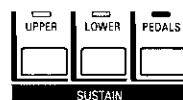
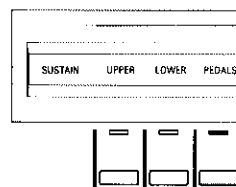
4 コントロールパネルのアップパーボタンを入れ、上鍵盤を弾く。

セットしたサステインは記憶されていますから、コントロールパネルのアップパーボタンをONにすることで、いつでもサステインをかけることができます。



より深い理解のために

【下鍵盤とペダル鍵盤のサステイン】



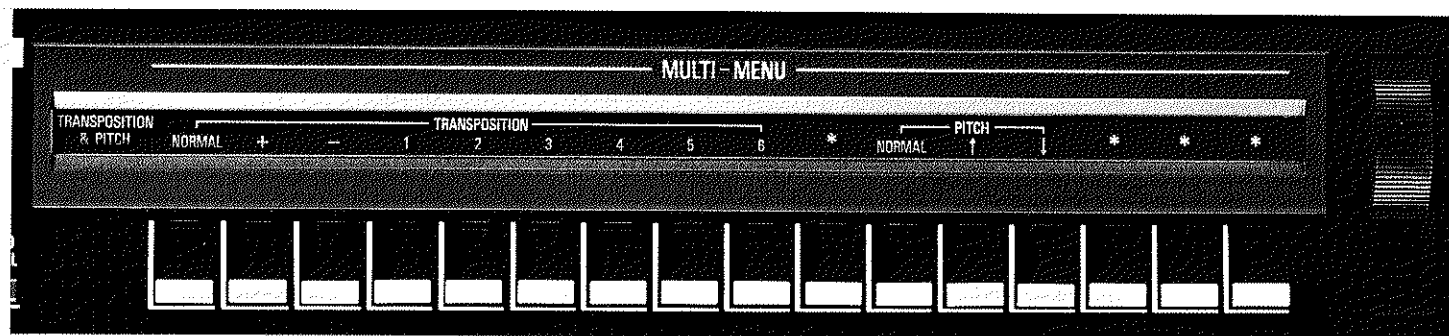
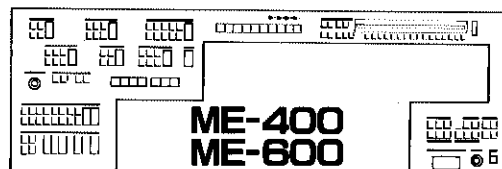
マルチメニューのペダルスボタンとコントロールパネルのペダルスボタンをONにして、0～4のボタンをひとつONにすれば、ペダル鍵盤のサステインを記憶させることができます。下鍵盤のサステインの場合も同様に、両方のボタンをONにして、0～4のボタンをひとつONにしてください。

【覚えておきましょう】

- サステインのセッティングは、レジストレーションメモリーに記憶させることができます。曲の途中でサステインのかかり方をかえたいときなどに、あらかじめセッティングをかえたものをレジストレーションメモリーに記憶させておくとう便利です。また、その情報をさらにC.S.P.やM.P.のレジストレーションの一部として記憶させることもできます。(①、②、③ページ参照)
- アップパー/ロウカustomボイスには、サステイン効果はかかりません。
- サステインに記憶させた情報は、電源をOFF(またはコントロールパネルのサステインをOFF)にしたままでも、最低1週間は消えずに記憶されています。

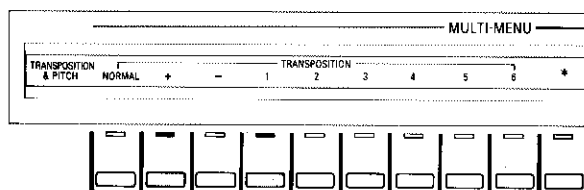
トランスポジション&ピッチ

トランスポジションでは、全体の音程を半音の単位でかえることができ、転調した演奏が簡単に楽しめます。ピッチでは、全体の音程を微妙に調節することができます。



トランスポジション

[+]ボタン(または[-]ボタン)をおしながら、数字のボタンをひとつおす。

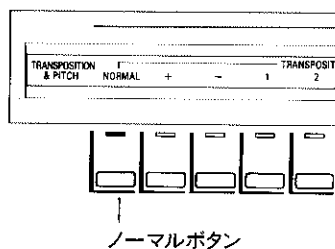


音程を上げる場合：[+]ボタンをおしながら、[1]～[6]のボタンをひとつおします。[1]が半音上、[2]が1音上というように、半音の単位で音程を選ぶことができます。

音程を下げる場合：[-]ボタンをおしながら、[1]～[6]のボタンをひとつおします。[1]が半音下、[2]が1音下というように、半音の単位で音程を選ぶことができます。

2 ノーマルボタンをおすと、本来の音程にもどる。

電源をいったんOFFにすることでも、ノーマル(本来の音)にもどります。



ノーマルボタン

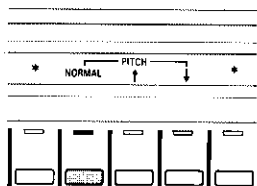
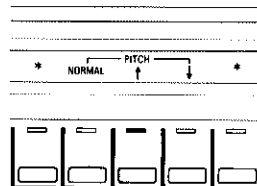
ピッチ

1 [↑]ボタン(または[↓]ボタン)を数回おす。

[↑]ボタンをおすたびに、全体の音程が少しずつ上がり、[↓]ボタンをおすたびに、全体の音程が少しずつ下がります。ほかの楽器との合奏で、ピッチをあわせたいときなどにお使いください。

2 ノーマルボタンをおすと、本来の音程にもどる。

電源をいったんOFFにすることでも、ノーマル(本来の音程)にもどります。



より深い理解のために

【トランスポジションでかわるキー(調子)】

トランスポジションでは、上下半オクターブの範囲で音程をかえることができ、全部で12のキー(調子)が得られます。ノーマルなキーをCとした場合、それぞれのセッティングで得られるキーは次のようになります。

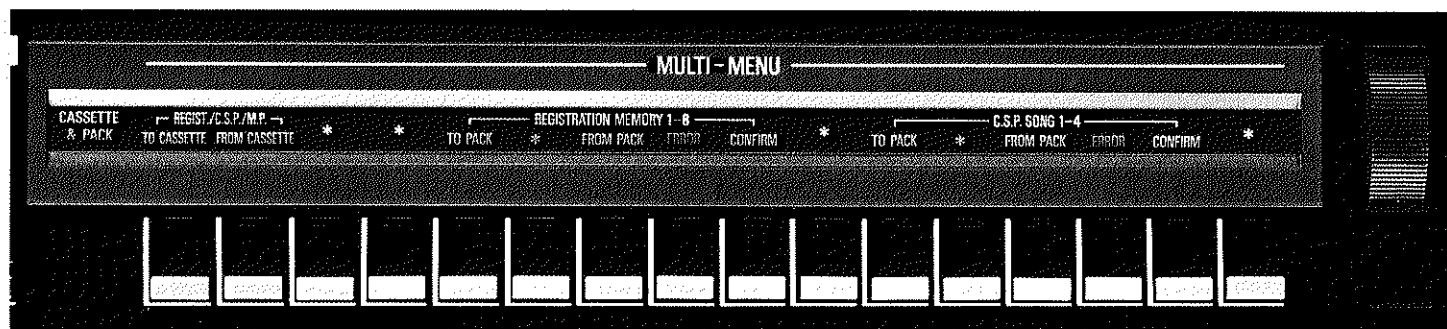
ノーマル	C	ノーマル	C
[+] [1]	C [♯] (D [♭])	[-] [1]	B
[+] [2]	D	[-] [2]	B [♭] (A [♯])
[+] [3]	E [♯] (D [♯])	[-] [3]	A
[+] [4]	E	[-] [4]	A [♯] (G [♯])
[+] [5]	F	[-] [5]	G
[+] [6]	F [♯] (G [♭])	[-] [6]	F [♯] (G [♭])

【覚えておきましょう】

- トランスポジションとピッチは、レジストレーションメモリー、C.S.P.、M.P.に記憶できないようになっています。
- ピッチのボタンを1回おすと、約1.56セントずつ音程が変わります。(100セントが半音にあたります。)
- ピッチを上げる場合は、ノーマルより16ステップ上(1ステップが約1.56セント)までセッティングことができ、ピッチを下げる場合は、ノーマルより4ステップ下までセッティングすることができます。また、[↑]ボタンと[↓]ボタンのランプは、そのときセッティングしているピッチがノーマルより上になっているか下になっているかを示します。

カセットEパック

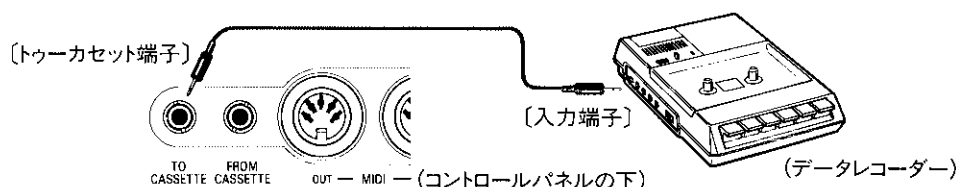
エレクトーンに記憶させたさまざまな情報を、カセットテープまたはレジストレーションパックに移して保存することができます。移した情報はいつでもエレクトーンにもどすことができます。



カセットテープに情報を移す操作(トゥーカセット)

1 エレクトーンにデータレコーダーを接続する。

ミニプラグの接続コードを使って、エレクトーンのとゥーカセット端子と、データレコーダーの入力端子を接続します。(データレコーダーのかわりに一般のカセットレコーダーを使うこともできますが、なるべくデータレコード専用のレコーダーをお使いください。)

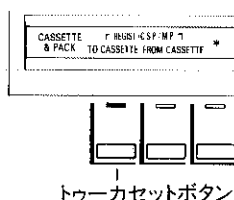


2 カセットテープをセットし、録音状態にする。

レコーダーにカウンターがあれば、録音を開始したときの数字をメモしておきましょう。

3 トゥーカセットボタンを入れる。

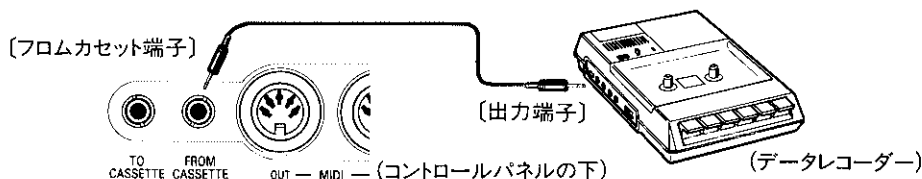
情報の録音が始まれば、録音されている間はトゥーカセットのランプが点灯しつづけます。録音が終わると信号音が鳴り、ランプが点滅してから消えます。ランプが消えたら、レコーダーをストップさせてください。



カセットテープから情報をもどす操作(フロムカセット)

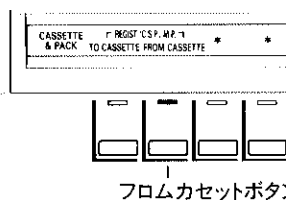
1 エレクトーンにデータレコーダーを接続する。

エレクトーンのとフロムカセット端子と、データレコーダーの出力端子を接続します。



2 フロムカセットボタンを入れる。

データレコーダーでは、カセットテープをセットし、録音を開始したところまで巻きもとておきます。レコーダーの再生ボリュームは、中央よりやや高めにセットしてください。



3 レコーダーを再生状態にする。

情報の再生(カセットテープからの読みとり)が始まれば、再生している間はフロムカセットのランプが点灯しつづけます。再生が終わると信号音が鳴り、ランプが点滅してから消えます。ランプが消えたら、レコーダーをストップさせてください。

より深い理解のために

【カセットテープに移せる情報】

レジストレーションメモリー、C.S.P.4曲分、M.P.1曲分の情報を、すべて一度に移して保存することができます。

【情報の録音や再生がうまくいかない場合は】

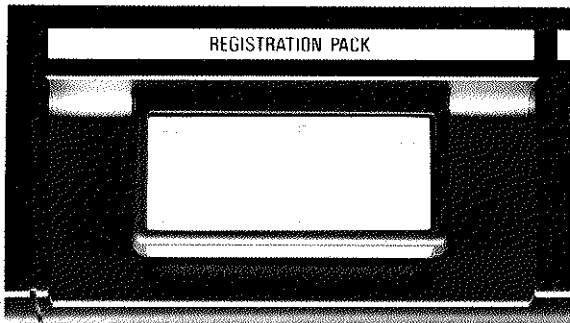
情報の録音がうまくいかなかった場合は、トゥーカセットボタンのランプが点灯したままになります。再生がうまくいかなかった場合は、信号音が3回鳴るか、フロムカセットボタンのランプが点灯したままになります。このような場合は、次のチェック項目にそって確認してください。

- ①接続コードがエレクトーンとレコーダーにしっかりと差し込まれていますか。
- ②接続する端子や操作手順はまちがっていませんか。(情報を録音したあと、接続コードをはずし、テープを巻きもとて再生状態にしてください。"ピー"という音がでた場合は情報が録音されています。)
- ③レコーダーの再生ボリュームは適切ですか。(10段階目盛りのボリュームつまみの場合、6〜8ぐらいにセットしてください。ボリュームが小さすぎたり、大きすぎたりすると、情報の再生ができません。)
- ④レコーダーのヘッドが汚れていませんか。
- ⑤カセットテープは適切ですか。

- コンピュータ専用テープ、またはノーマル、ローノイズタイプのオーディオ用テープ(30分テープまたは45分テープ)をお使いください。
- なるべく新品のテープをお使いください。
- テープに折り目、継ぎ目、シワなどがないことを確認してください。(テープの巻き始めを使う場合は、少し空送りしてください。)

⑥レコーダーは適切ですか。

一般のオーディオカセットレコーダーは、その特性によって使えないものや記録しにくいものがあります。なるべく専用のデータレコーダーをお使いください。(データレコーダーによってはマツチングの悪いものもあります。)

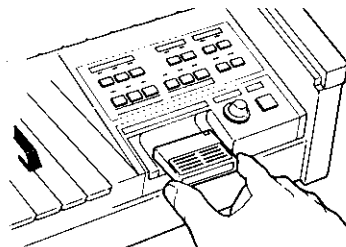


●付属のレジストレーションパックには、C.S.P.4曲分とレジストレーションメモリーの情報があらかじめメモリーされています。この情報を使って演奏したい場合は、レジストレーションパックに情報を移す操作(トゥーパック)は行わないでください。

パックにC.S.P.の情報を移す操作(トゥーパック)と もどす操作(フロムパック)

1 パックをエレクトーンに差し込む。

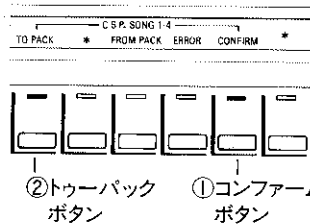
図に示したように、ラベルがはられている面を上にして、レジストレーションパックをしっかりと差しこんでください。



(パネル右側)

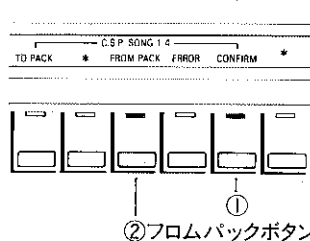
2 コンfirmボタン①をおしながら、トゥーパック ボタン②をおし、情報をパックに移す。

エレクトーンに記憶させたC.S.P.の情報が、レジストレーションパックに移り、メモリーされます。(情報を移したあとは、パックを抜きとってもかまいません。)



3 コンfirmボタン①をおしながら、フロムパック ボタン②をおし、パックから情報をもどす。

レジストレーションパックにメモリーされているC.S.P.の情報が、エレクトーンにもどります。(情報をエレクトーンにもどしたあとは、パックを抜きとってもかまいません。)

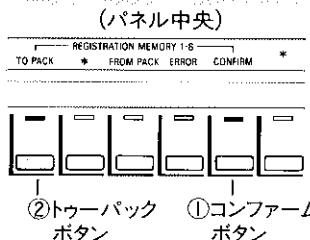


パックにレジストレーションメモリーの情報を 移す操作(トゥーパック)ともどす操作(フロムパック)

1 パックをエレクトーンに差し込む。

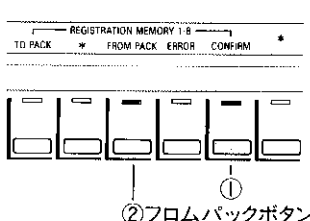
2 コンfirmボタン①をおしながら、トゥーパック ボタン②をおし、情報をパックに移す。

エレクトーンに記憶させたレジストレーションメモリーの情報が、レジストレーションパックに移り、メモリーされます。(情報を移したあとは、パックを抜きとってもかまいません。)



3 コンfirmボタン①をおしながら、フロムパック ボタン②をおし、パックから情報をもどす。

レジストレーションパックにメモリーされているレジストレーションメモリーの情報が、エレクトーンにもどります。(情報をもどしたあとは、パックを抜きとってもかまいません。)

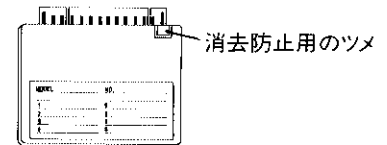


より深い理解のために

〔レジストレーションパックに移せる情報〕

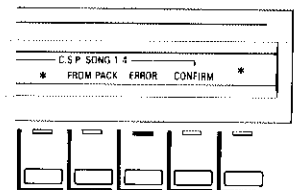
レジストレーションメモリーの情報と、C.S.P.4曲分の情報をひとつのパックに移して保存することができます。どちらか片方だけの情報を移してもかまいません。

〔移した情報の消去防止〕



レジストレーションパックに移した情報を消したくない場合は、消去防止用のツメを折ってください。このツメを折っておけば、トゥーパックボタンをおしても、パックの情報は消えずに保護されます。

〔エラー表示〕



パックの差しこみ方が不完全な場合や、エレクトーンまたはパックの情報が不完全な場合に、エラーのランプが点灯します。パックの差しこみ方などを確認し、操作をやり直してください。

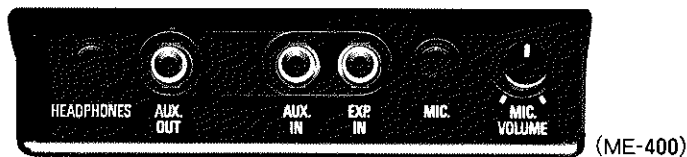
〔覚えておきましょう〕

- カセットテープを使った場合、情報の録音、再生に要する時間は、それぞれ約1分間です。
- カセットテープを使った場合、情報の録音、再生を行っている間は、コントロールパネルのランプがすべて消え、音をだすことができません。
- カセットテープの情報を再生すると、それまでエレクトーンに記憶されていた情報は消えてしまいます。
- パックに情報を移すと、それまでパックに記憶されていた情報は消えてしまいます。また、パックから情報をもどすと、それまでエレクトーンに記憶されていた情報は消えてしまいます。
- パックまたはカセットテープにメモリーした情報をエレクトーンにもどす場合、同一モデルのエレクトーンをお使いください。

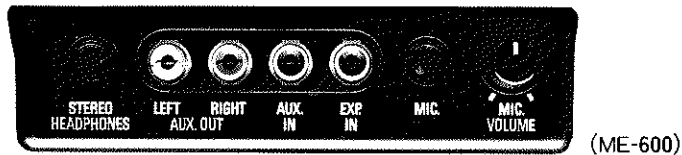
付属端子とオプション

付属端子

付属端子は、コントロールパネルの下(棚板下)の右側と左側にあります。これらを活用すれば、エレクトーンの楽しさはいっそうひろがります。



(ME-400)



(ME-600)

●HEADPHONES(ヘッドホン端子)(ME-400)

STEREO HEADPHONES(ステレオヘッドホン端子)(ME-600)
ヘッドホンを接続する端子で、ステレオ、モノラルどちらのタイプのヘッドホンでもご使用になれます(ME-400からでてくる音はモノラルです)。ヘッドホンを使えば、エレクトーン本体のスピーカーからは音がでなくなりますから、夜間でも周囲への迷惑を気にすることなく、心ゆくまで演奏をお楽しみいただけます。[出力インピーダンス300Ω]

●AUX. OUT(ライン出力端子)(ME-400)

AUX. OUT LEFT/RIGHT(ライン出力端子)(ME-600)
外部アンプ機器等と接続して、より迫力のあるサウンドをだしたいときに使う端子です。また、テープデッキの[LINE-IN]端子と接続すれば、エレクトーンの音を録音することができます。(ME-600では、[LEFT]と[RIGHT]の両方に接続してステレオで出力させることができます。モノラルで出力させるときは、[LEFT]に接続してください。)[出力インピーダンス100Ω]

●AUX. IN(ライン入力端子)

ステレオやテープの音をエレクトーンのスピーカーからだしたいときに使う端子です。レコードやテープなどの音にあわせて演奏することができます。[入力インピーダンス9KΩ]

●EXP. IN(エクスプレッション連動入力端子)

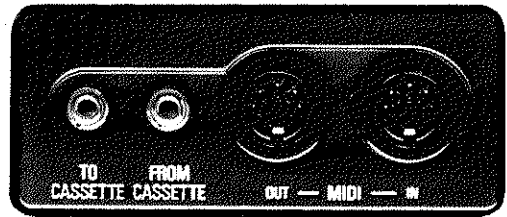
シンセサイザーやリズムマシーンなどと接続するときに使う端子です。接続した機器の音量は、エレクトーンのエクスプレッションペダルでコントロールすることができます。[入力インピーダンス18KΩ]

●MIC. (マイクロホン入力端子)

マイクロホンを接続して、ご自分の歌や司会者の声などをエレクトーンからだしたいときに使う端子です。

●MIC. VOLUME(マイクロホンボリューム)

マイクロホンの音量をコントロールするつまみです。右に回すほど音量が大きくなります。



●TO CASSETTE/FROM CASSETTE

(データレコーダー接続用端子)

エレクトーンに記憶させた情報をカセットテープに移すときや、カセットテープの情報をエレクトーンにもどすときに、データレコーダーなどと接続する端子です。(くわしい接続方法は48ページを参照してください。)

●MIDI OUT/IN(ミディ端子)

MIDI(ミュージカル・インストルメント・デジタル・インターフェイス)は、デジタル電子楽器などの世界統一規格です。MIDIケーブルを使って、MIDI対応のシンセサイザーやリズムマシーンなどと接続すれば、いろいろな楽しみ方ができます。(使用方法などについては、“MIDIの楽しみ方”を参照してください。)

オプション(別売)

●ステレオヘッドホン(YHE-50S) ¥5,300

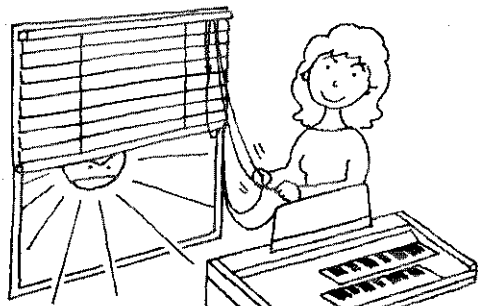
●レジストレーションパック(RP-1) ¥4,500

数多くの情報を保存しておきたい場合は、別売りのレジストレーションパックをお求めください。オリジナルのライブラリーをつくることができます。

末永く安全にお使いいただくために

設置場所について

- 直射日光はさけてください。
- 暖房器具の近くには設置しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所や、温度の特に低い場所もさけてください。
- 振動の少ない、平らな床面に設置してください。
- 壁から10cm以上離すようにしてください。壁が直接振動するのを防ぎます。



外装・鍵盤のお手入れは

- 外装や鍵盤のお手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。
- よごれがひどい場合は、水を少しふくませ、かたく絞った布で拭きとってください。
- シンナーやベンジンなどの溶剤は、鍵盤や外装をいためますので、絶対に使用しないでください。
- 外装の塗装は、ビニール製品と化学反応を起こすことがありますので、ビニール製のカバーなどはご使用にならないでください。



電源コードを大切に

- エレクトーン本体や椅子などで電源コードを踏みつけたり、足に引っかかりたりしないように注意してください。
- コンセントから抜くときは、電源コードを引っばらないでください。
- 電源コードの継ぎ足しは危険ですからさけてください。



無理な力を加えないでください

- ボタンやつまみ、スイッチ類に無理な力を加えることはさけてください。
- 椅子・譜面板などの取扱いは、キズをつけないように注意してください。

セットの移動時には

セットを移動する場合には、接続コードのショートや断線を防ぐため、他の機器との接続コードを取りはずしてから動かしてください。

他の機器との接続について

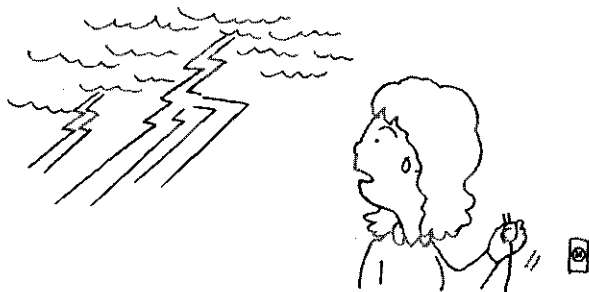
外部アンプ機器等を接続する場合、④ページを参照のうえ、正しく接続してください。また、スピーカー破損防止のため、機器接続の際はそれぞれの電源スイッチを切ってください。

他の電気機器への影響について

このエレクトーンはデジタル回路を多用しているため、ごく近くでラジオやテレビなどの電気機器を同時に使用すると、雑音や誤動作の原因になることがあります。他の電気機器から充分離してご使用ください。

落雷に対する注意を

落雷などのおそれがあるときは、早めに電源コードをコンセントから抜いてください。



万一異常があったら

使用中に音がでなくなったり、異常なおいや煙がでた場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、お求めの販売店もしくは電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。

本書と保証書の保管について

本書をお読みにになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

レジストレーションパックの保管について

レジストレーションパックの内部には、LSIなどの電子部品が入っていますので、その取り扱いや保管では、次の点に注意してください。

- 落としたり、強い力を加えたりしないでください。
- 差込口の金属部を、かたい物などでこすったりして、キズをつけないでください。
- 内部に水やホコリが入らないように、ご注意ください。
- 保管する場合は、過度な温度や湿気にご注意ください。また、必ず専用のケースに入れて保管してください。

★レジストレーションパックにメモリーした情報は、内蔵の電池によってバックアップされますが、長年使用している間に、この電池は消耗されます。電池が消耗してしまうと、メモリーした情報は消え、新しい記憶操作もできなくなります。電池が消耗した場合は、新しいレジストレーションパックをご購入のうえご使用ください。(電池の寿命は、通常の使用で約5年です。)

★レジストレーションパックを持ち運ぶときは、パックの情報が衣類などの静電気によって消えてしまうことがありますので、必ず専用のケースをお使いください。

ハーモニーパーク・エレクトーン教室のご案内



●ハーモニーパーク

パーティーをしたり、コンサートを開いたり、音楽とエレクトーンを楽しむたい16歳以上の方のメンバー制音楽サロン。レッスンは、好きな時に好きな曲のレパートリーをふやす、セミ・フリータイム方式です。

●メイトコース

中学生以上の、はじめて鍵盤にふれる方を対象とした週1回のグループレッスン。また、ピアノやエレクトーンの実験にあわせて、スタディコース、マスターコースも選べます。

●エレクトーンスクール

小学生を対象とした、エレクトーンを使ったグループレッスン。エレクトーン演奏を通して、楽しみながら正しい音楽能力が身につくコースです。

★エレクトーンハウス

エレクトーンのリッスンやご購入など、お客さまの様々なご要望にお応えするエレクトーンの専門店。気軽にエレクトーンを弾きたい、メイトコースなどの教室に通う前にエレクトーンを習ってみたいという方のために、チケット制フリータイムのイニシャルレッスン(個人レッスン)も実施しています。

エレクトーンの出出版物

ここに紹介した出版物のほかにも、さまざまな曲集が用意されています。くわしくはお買い上げになった販売店までお問い合わせください。

●エレクトーンポピュラーシリーズ

ジャズ、ボサノバ、ニューミュージックなど、ジャンル別にポピュラー音楽を選びました。

●エレクトーンミュージック・ボックス

ポピュラーミュージックのジャンル別曲集シリーズです。上級者のレパートリー集としてご活用ください。

●エレクトーンジャズタイム

プレイヤー、アレンジヤーの個性を生かした新しいタイプのジャズシリーズです。

●エレクトーンニューラブサウンズ

映画音楽、スタンダードナンバー、ニューミュージック、ポップスなどから愛をテーマにした曲を選びました。

●エレクトーン5セレクションズ

トップアレンジヤーや人気プレイヤーが自由に腕をふるってアレンジしたハイセンスな曲集です。

●エレクトーンクラシック・シリーズ

楽聖といわれた人たちの名曲から親しみやすいセミクラシックナンバーまで、バリエーションに富んだ選曲です。

●エレクトーンヒット50

ポケットサイズで1冊に50曲。メロディー譜にリズムパターン、ディスクメモをつけた曲集です。

●エレクトーンパーソナル・シリーズ

第一線で活躍するエレクトーンプレイヤーの魅力的な作品を集めた曲集です。

●エレクトーンプレイングノート

エレクトーンプレイヤーが日頃ステージで演奏しているレパートリーを演奏しやすいようにアレンジしました。

●エレクトーンファンファンファン

若手アレンジヤーがポップな感覚でエレクトーンの新しいイメージにチャレンジ。中級者向けの楽しい曲集です。

●エレクトーンサウンド・クリップ

エレクトーン機能を生かしたポピュラーミュージックのジャンル別曲集です。

●エレクトーンアーティスト・ベストコレクション

ポピュラーミュージック界のビッグアーティストをクローズアップし、その代表曲を紹介する曲集です。

●エレクトーンABCシリーズ

シングルフィンガープレイを中心に編集された曲集で、初心者でも手軽にエレクトーンプレイが楽しめます。

●エレクトーンABC for Fシリーズ

FS・FE型エレクトーン用のレジストチャートを掲載し、オートベースコードなどの機能をフルに生かした曲集です。

●レッツプレイエレクトーン

エレクトーンを始めたばかりの方に、弾く楽しさを早く知っていただくための、やさしくアレンジされた曲集です。

●エレクトーンレパートリー

グレードにあわせて、ポピュラーな曲、親しみのあるメロディーを中心に選曲しました。

●エレクトーンニューミュージック・コレクション

人気の高いニューミュージックアーティストの代表曲を集めた曲集です。

●エレクトーンアレンジ・コレクション

ソロ演奏、弾きうたい、アンサンブル等いろいろな楽しみ方ができる歌謡曲とニューミュージックのシリーズです。

●エレクトーン・アルバム

ジャンル別に編集されたエレクトーン曲集。スタディコース、マスターコースの副教材としてもご活用ください。

●エレクトーンメロディー・パレット

ニューミュージック、歌謡曲のヒットソングを集めた初心者向けのシンプルな隔月刊曲集です。

●エレクトーンメロディー・パレットスペシャル
人気歌手のヒットソングを弾きやすいようにアレンジした歌謡曲集です。

●エレクトーン名曲アルバム

クラシックの名曲を各グレード別にアレンジ編集した曲集です。

●エレクトーンアベニュー

FX・FS型エレクトーン用に編曲、構成された曲集です。

●こどものエレクトーンメイトフォリオ

演奏技術を数多く実践するための曲集です。

●エレクトーンメイトフォリオ

初心者向けレパートリー曲集です。

●こどものエレクトーン・レパートリー

こどもの親しみやすいポップな曲を中心に選曲し、編曲したグレード範例曲集です。

●エレクトーンリトルミュージシャン

楽しく親しみやすいこども用曲集で、マスターしてほしいテクニック等を考慮して編曲しています。

●エレクトーンラブリー・コレクション

こども、またはエレクトーン初級者を対象としたジャンル別の曲集です。

●よい子のエレクトーン

エレクトーン演奏をはじめとして、音楽の基礎知識を身につけるための子ども用学習書です。

●エレクトーンで弾く作曲家シリーズ

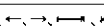
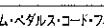
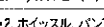
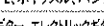
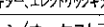
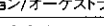
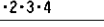
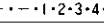
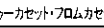
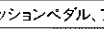
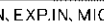
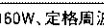
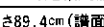
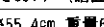
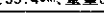
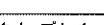
クラシックの名曲を作曲家別にまとめた曲集です。

●その他

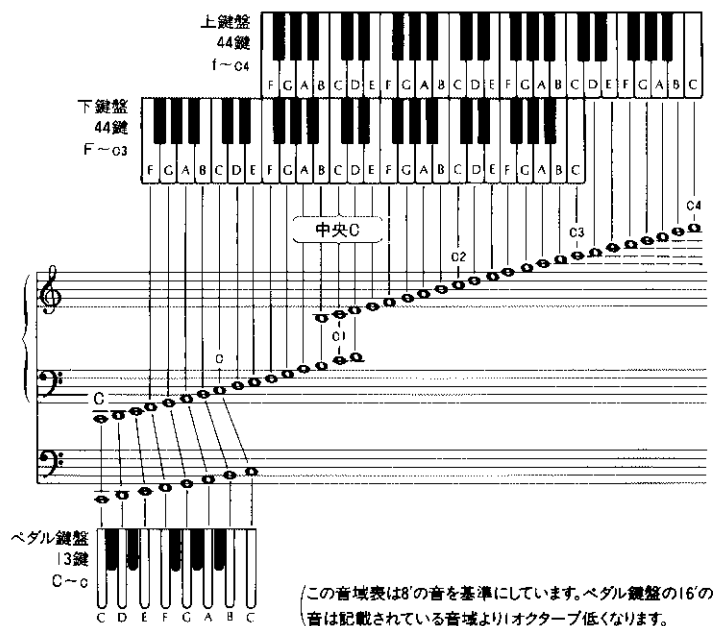
●エレクトーンでひくディズニー名曲集

●メロディー・ディクショナリー

仕機

		ME-400	ME-600
鍵盤		上鍵盤: 44鍵f~c4(3 $\frac{2}{3}$ オクターブ) 下鍵盤: 44鍵F~c3(3 $\frac{2}{3}$ オクターブ)	ベダル鍵盤: 13鍵C~c(1オクターブ)
コンビネーション/オーケストラ	上鍵盤	コンビネーション1・2・3・4、ストリングス、ブラス1・2、リード、コントロール:ポリウム	コンビネーション1・2・3・4・5、ストリングス、ブラス1・2、リード1・2、コントロール:ポリウム
	下鍵盤	コンビネーション1・2・3、ストリングス、ブラス1・2、コントロール:ポリウム	コンビネーション1・2・3、ストリングス、ブラス1・2、コントロール:ポリウム
アンサンブルボイス	上鍵盤		ストリングス、ボーカル、コントロール:ポリウム
	下鍵盤		ストリングス、ボーカル、コントロール:ポリウム
スペシャルプリセット	上鍵盤/下鍵盤	ピアノ、エレクトリックピアノ、ハーブシコード、ビブラフォン、ジャズギター、バンジョー、コントロール:ポリウム	ピアノ、エレクトリックピアノ、ハーブシコード、ビブラフォン、ジャズギター、ブラス、バンジョー、エフェクト:フェイザー、コントロール:ポリウム
カスタムボイス	上鍵盤/下鍵盤	フルート、トロンボーン、トランペット、サキソフォン、コントロール:ポリウム	フルート、トロンボーン、ゴズミック、トランペット、バイオリン、サキソフォン、コントロール:ポリウム
	ベダル鍵盤	バス1・2、エレクトリックベース、コントラバス、コントロール:ポリウム	バス1・2、コントラバス、エレクトリックベース1・2、チューバ、コントロール:ポリウム
アンサンブル	上鍵盤	コンビネーション/オーケストラ、スペシャルプリセット、カスタムボイス	コンビネーション/オーケストラ、アンサンブルボイス、スペシャルプリセット、カスタムボイス
	下鍵盤	コンビネーション/オーケストラ、スペシャルプリセット、カスタムボイス、アルペジオコード	コンビネーション/オーケストラ、アンサンブルボイス、スペシャルプリセット、カスタムボイス、アルペジオコード
エフェクト・コントロール	トレモロ・シンフォニック	トレモロ/シンフォニック=トレモロ・シンフォニック・アッパーコンビネーション/オーケストラ・ロワーコンビネーション/オーケストラ	トレモロ=コーラストレモロ・アッパーコンビネーション/オーケストラ、ロワーコンビネーション/オーケストラ シンフォニック=セレス・シンフォニック・アッパーコンビネーション/オーケストラ、ロワーコンビネーション/オーケストラ
	リバーブ		リバーブ
	プレイヤービブラート	カスタム、アッパー、ロワー	
	サステイン	アッパー、ロワー、ベダルス	
	マニユアルバランス	バランス(アッパー/ロワー)	
オートリズム	リズムパターン	マーチ、タンゴ、ワルツ1・2、バラード、スイング、ボサノバ、サンバ、ラテン、ラテンロック、スローロック、パウンズ、8ビート1・2、ディスコ、16ビート	
	コントロール	ポリウム、バランス、スタート、シンクロススタート、テンボ、テンポランプ	
	リズムバリエーション	フィルイン、フィルインモード、フィルインバリエーション、ブレイク、イントロ/エンディング、エンディングバリエーション、エキストラパーカッション	
	フットスイッチセクター	リズムストップ、リズムブレイク、リズムフィルイン、(エンディング)	
ベジコード		1・2・3・4・5・6、コントロール:ポリウム	1・2・3・4・5・6・7・8、コントロール:ポリウム
ベースコード		シングルフィンガー、フィンガードコード、カスタムA.B.C.、メモリー	
メロディーオンコード		1・2	
レジストレーションメモリー		1・2・3・4・5・6・7・8、キャンセル、メモリー	
C.S.P. & M.P.		C.S.P. プレイ、M.P. プレイ、イントロカウント、リピート、C.S.P.=ソング1・2・3・4・コードキャンセル	
マルチメニュー	レジストレーションメニュー	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・16	
	C.S.P.	クリアー/レコード、エディット、  、  、  、  、  、  、  、  、  、  、  、  、  、  、  、  、  、  、  、  、 、	

音域表



故障とお考えになる前に

次のような現象は故障ではありませんのでご注意ください。このような現象でサービスを依頼されますと、保証期間中であっても実費料金を申し受けますので、ご了承ください。

現 象	原 因 と 処 置
時々、ガリツとかポツンという雑音が入る。	近くで電気器具の電源をON/OFFしたり、故障したネオンサインや電気ドリルなどを使用している場合は、雑音の入ることがあります。原因と思われる機器から、なるべく離れたコンセントを使ってください。また、原因不明の場合は、お求めの楽器店あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ラジオやテレビ、無線などの電波が入る。	近くに大電力の放送局やアマチュアの無線局があるためです。どうしても気になる場合は、お求めの楽器店あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ラジオやテレビなどに雑音の入ることがある。	エレクトーンのすぐ近くにラジオやテレビを置いてあると雑音の入ることがあります。なるべく離してご使用ください。
音が周囲の物を共鳴させてビビる。	エレクトーンの音は持続音が多いため、周囲の戸棚や窓ガラスなどの器物を共鳴させることがあります。気になる場合は、共鳴物を取り除くか、音量を小さくしてください。
選んだ音色によって、鍵盤位置による音量のばらつきがある。	一般に電子楽器では、音色を変えるという本質的な要素をもつため、音色による各鍵盤の音量のばらつきをなくすることは非常に困難です。エレクトーンでは、どの音色でも演奏上問題のないように設計、調整されています。また、音量や音色は、エレクトーンの設置場所の状態や聞く位置などによって大きく異なることがあります。どうしても気になるときは、お求めの楽器店あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ペダル鍵盤ではピッチが高く、上・下鍵盤の高音部では低く感じる。	特にピアノと比較した場合に感じますが、ピアノでは倍音構成が複雑なため、高音、低音の調律は実音での調律ができず、倍音を聞いて調律しています。エレクトーンの場合は逆に実音で調律していますから、ピアノとエレクトーンでは本質的に違うわけです。
割れるような感じや、ノイズが入るような感じのする音色がある。	主に管楽器系の音色で感じるがありますが、これは実際の楽器音の特徴を再現するため、特に組み込まれた音色効果です。ブラスの振動やブレスノイズなど、よりリアルな特徴をそなえた楽音が得られます。
ペダル鍵盤を同時に2音おさえても1音しかでない。また、アッパー/ロワーカスタムボイス音色は、同時に2音以上おさえても1音しかでない。	演奏上、設計上の理由から、ペダル鍵盤およびアッパー/ロワーカスタムボイス音色では、それぞれ同時に1音しか発音しないようになっています。同時に2音以上おさえた場合は、高音が優先されます。(アッパー/ロワーカスタムボイスを単独で使っているときは、あとでおさえた音が優先。)(●・●・●ページ参照)
上鍵盤または下鍵盤を同時に8音おさえても7音しかでない。	上鍵盤または下鍵盤では、最大7音まで同時に発音するようになっています。また、C.S.P.やM.P.を再生しているときは、再生される音を含めて最大7音まで発音します。(●・●ページ参照)
ボリュームをセットしても上鍵盤の音色、または下鍵盤の音色がでてこない。	アンサンブルセクションのなかで必要なボタンが入っていないためです。上・下鍵盤では音色の組みあわせやキャンセルが素早く行えるよう、アンサンブルのボタンで集中的にコントロールするようになっています。必要な音色のボタンを入れてください。(●・●ページ参照)
コントロールパネルのサステインまたはプレイヤービブラートをONにしても効果がかわらない。	サステインとプレイヤービブラートは、あらかじめ効果のかかり方をマルチメニューのパネル面で記憶させておくようになっています。(●～●ページ参照)
ボリュームをセットしてもアルペジオコードの音がでてこない。	リズムをスタートさせていないか、アンサンブルのアルペジオコードボタンがOFFになっているためです。アルペジオコードはリズムに連動して働きますから、アンサンブルのボタンをONにしたうえで、必ずオートリズムと一緒に使ってください。(●ページ参照)
シングルフィンガーで下鍵盤の高い方をおさえても低い方をおさえても、音程がかわらない。	シングルフィンガーコードでは定められた1オクターブの中の音がでるようになっています。同じ音名であれば、下鍵盤のどの位置をおさえても同じ音程で和音がでできます。(●ページ参照)
上鍵盤と下鍵盤を同時に弾いても、メロディーオンコードによるハーモニーの音がでてこない。	ハーモニーの音色がセットされていないためです。アッパーコンビネーション/オーケストラまたはアッパーアンサンブルボイスの音色を選び、音量をセットしてください。また、上鍵盤の低音域でメロディーを弾くと、ハーモニーの音がでてこない場合があります。(●ページ参照)

現 象	原 因 と 処 置
レジストレーションメモリーに記憶できない機能がある。	オートリズムのスタート、シンクロススタート、フィルイン、ブレイク、イントロ/エンディングの各スイッチ、マルチメニューのトランスポジションなどの機能は記憶しないようになっています。(●ページ参照)
C.S.P.またはM.P.を再生させたら、レジストレーションメモリーに記憶させていた情報が消えてしまった。	C.S.P.またはM.P.を再生させると、その曲と一緒にメモリーされていたレジストレーションメモリーの情報が、そのとき記憶させているレジストレーションメモリーの情報と入れかわります。情報を消したくない場合は、レジストレーションパックまたはカセットテープに情報を移してください。(●・●～●ページ参照)
C.S.P.またはM.P.のレジストレーションとして記憶できない機能がある。	オートリズムのテンポ、スタート、シンクロススタートやオートベースコードは、記憶しないようになっています。(●・●ページ参照)
C.S.P.のクリアー/レコードがONにならない。M.P.のレコードセクションのボタンがONにならない。	C.S.P.プレイまたはM.P.プレイがONになっているためです。C.S.P.またはM.P.に情報を記憶させるときは、これらのボタンをOFFにしてください。(●・●ページ参照)
C.S.P.でコードが記憶されない。	下鍵盤から指をはなしたあと、拍長ボタンをおしているためです。コードをプログラムする場合は、下鍵盤をおさえずに拍長ボタンをおしてください。(●ページ参照)
C.S.P.のプログラムをしているとき、信号音が3回鳴る。	メモリー容量いっぱいまでプログラムしたときは、信号音が3回鳴って、それ以上プログラムできないことを示します。リピートボタンを使うなど、容量内でおさるように入力してください。(●ページ参照)
C.S.P.のエディットで情報を追加しているとき、追加したい位置より前に入ってしまう。	新しい情報を追加したい場合は、追加したい位置の次の情報にカーソルを移動してからインサートボタンをおしてください。(●ページ参照)
M.P.でメロディーが再生されない。または上鍵盤で弾いたとおりに再生されない。	M.P.のメロディーは、カスタムボイスで録音・再生するようになっています。カスタムボイスのボリュームとアンサンブルのボタンをセットしてください。また、カスタムボイスは単音ですから、複音でメロディーを弾いても再生は単音になります。(●ページ参照)
コードコピーフロムC.S.P.を使ったとき、C.S.P.で記憶させたレジストレーションがM.P.で再現されない。	コードコピーフロムC.S.P.では、コード進行(リピート記号によるくり返しも含む)の情報だけが移り、レジストレーションの情報は移らないようになっています。レジストレーションはM.P.でメモリーしなおしてください。(●ページ参照)
M.P.を録音または再生しているとき、オートベースコードのボタンがかえられない。	M.P.でコードを録音するとき、コントロールパネルのオートベースコードのボタンは、マルチメニューのパネルで選んだモード(フィンガードコードまたはシングルフィンガー)に固定されます。再生しているときは、フィンガードコードに固定されます。(●ページ参照)
M.P.を再生しているとき、伴奏とメロディーが合わずリズムが鳴りつづける。	M.P.のレジストレーションを記憶させているとき(レコードセクションのレジストレーションボタンがONになっているとき)、リズムをストップさせるのが遅れたためです。タイミングよくスタートスイッチをOFFにしてください。(●ページ参照)
M.P.を再生しているとき、メロディーや伴奏などが途中で終わってしまう。	録音のときメモリー容量をこえたためです。メモリー容量いっぱいまで録音したときは、レコードセクションのボタンが点滅しますので、録音をやり直してください。(●ページ参照)
グレイのボタンを選んだら、表示されている音色とはちがう音色がでる。	ボイスメニューの音色が移されているためです。ボイスメニューの音色を使わないときは、メニューオンのボタンをOFFにしてください。(●～●ページ参照)
プレイヤービブラート、またはサステインのセッティングが記憶されない。	プレイヤービブラートまたはサステインをセットして記憶させるときは、マルチメニューのパネル面にある左側のボタンと、コントロールパネルのボタンを両方ともONにしてから効果のかかり方をセットしてください。(●～●ページ参照)
フロムカセットの操作をしても、情報がエレクトーンに移らない。	コードの接続、操作方法、レコーダーの再生レベル、使用しているカセットテープやレコーダーなどをチェックして、操作をやり直してください。どうしてもエラーになってしまう場合は、レコーダーをほかのものにかえてください。(●ページ参照)
トウパックの操作をしてもエラーになり、パックに情報が移らない。	パックの差しこみ方や、消去防止用のツメが折られていないかどうかを再確認して、操作をやり直してください。なお、レジストレーションパックの電池は約5年間で消耗してしまいます。(●・●ページ参照)
コントロールパネルなどが正常に働かない。または、メモリーしていた情報がかわってしまう。	非常にまれなことでありますが、落雷などにより異常電圧が流れ、エレクトーンが正常に機能しなくなったり、メモリーしていた情報がかわったりすることがあります。このような場合には、いったん電源スイッチを切り、マルチメニューの一番左端のボタン(カセット&パックの面を除く)をおしながら、電源スイッチを入れてください。

アフターサービスと保証

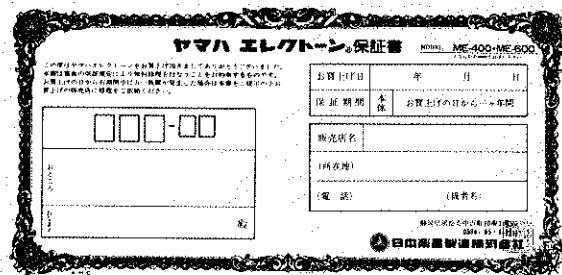
保証

エレクトーンへの保証は、保証書の裏面に記載の規定によりご購入から満1か年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。また保証は日本国内のみ有効といたします。

保証書

エレクトーン納入の際、保証書もお渡しいたしますので大切に保管くださるようお願いいたします。

また、納入調整サービスの際には納入調整者が保証書内に必要事項記入の上発行いたしますので記載事項をご確認ください。



保証書はよくお読みください。

保証書は大切にしましょう！

保証書は弊社がエレクトーンをご購入いただいたお客さまにご購入の日から向う1か年間の無償サービスをお約束申しあげるものですが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただくことになります。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように充分ご配慮の上で保管してください。(エレクトーンのイスの裏にあります保証書ホルダーをご利用ください)また、保証期間が切れましてもお捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種判別やサービス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

保証期間中のサービス

1. 保証期間中に万一故障が発生した場合にはヤマハ特約楽器店、小売楽器店にご連絡いただきますと販売店またはヤマハのエレクトーン技術者が直ちに調整修理にお伺いします。
2. 保証書は、サービスにお伺いしたときに今後の製品改良の貴重な資料とするため技術者がお預りさせていただきます。お預りした保証書は、弊社支店に送られ、記録した後に各支店から直接お客さまにご返送申しあげます。この間、約1週間～10日間程度を要しますがご心配なくお待ちくださるようお願い申しあげます。
3. 遠方に移転される場合は、事前にお買上げ楽器店あるいは弊社支店にご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介しますと同時に、引続き保証期間中のサービスを責任をもって行うよう手続きいたします。

保証期間後のサービス

満1か年の保証期間が切れますとサービスは有料となりますが、引続き責任をもってサービスをさせていただきます。また、修理可能期間は10年となっております。なお、補修用性能部品(製品本来の機能を維持する為に必要な部品)の最低保有期間は8年となっております。保証期間以後の移転の場合も保証期間中と同様にご連絡いただきましたら、移転先の楽器店をご紹介します。

サービスのご依頼

●ご依頼の前に

1. コンセントに電気が来ているかどうか、電気製品を接続してお確かめください。
2. 電話でのご依頼の際、再度、故障かどうかの確認をさせていただく場合がありますので、ぜひご協力をお願いします。
(44～45 ページの「故障とお考えになる前に」を参照)

●エレクトーンの様子は詳しくお知らせください。

1. できれば実際にエレクトーンをお弾きになっていらっしゃる方に様子を
お聞かせ願えれば、あらかじめ用意する部品などの見当が付き、スムーズにいきます。
2. 時々調子のおかしくなるような場合には、お手数でもその状態をできるだけ詳しくお知らせください。たとえば、●夜だけ音が小さい●ある時間だけ雑音ができる●エレクトーンの音をださなくても、スイッチを入れるだけで雑音ができるなどの場合です。
3. エレクトーンの種類など、サービスご依頼のエレクトーンに関する詳細は、保証書をご覧になってお知らせください。使用部品が製造時期やモデルによって異なる事もありますので、早く確実にサービスさせていただくためにぜひお願いいたします。

●これだけはお知らせください。

ご住所、お名前、ご連絡先、ご購入店、お買上げ年月日、機種名(モデル名)……保証書に記載されております。
症状……なるべく具体的に。

サービスのお約束について

1. お仕事の関係で、昼間ご不在のお客様や留守がちのお客様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させていただきます。
2. 万一お約束した日時がご都合の悪い時には、できるだけ早くサービスをご依頼されたお店にご連絡ください。
3. お店にサービスをご依頼されたにもかかわらず、日時が経過してもなおサービス員がお伺いしない場合は、お手数でも右記の電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。責任をもって処理させていただきます。

YAMAHA電気音響製品サービス拠点

全国のヤマハ特約店と下記電音サービスセンター、サービスステーションが責任をもってアフターサービスを行っております。

〔修理受付および修理品お預り窓口〕

東京電音サービスセンター

☎(044) 434-3100
〒211 川崎市中原区木月1184

新潟電音サービスステーション

☎(0252) 43-4321
〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F

大阪電音サービスセンター

☎(06) 877-5262
〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内

四国電音サービスステーション

☎(0878) 22-3045
〒760 高松市丸亀町8-7 日本楽器高松店内

名古屋電音サービスセンター

☎(052) 652-2230
〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 日本楽器名古屋流通センター

九州電音サービスセンター

☎(092) 472-2134
〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4

北海道電音サービスセンター

☎(011) 781-3621
〒065 札幌市東区本町1条9-3

仙台電音サービスセンター

☎(0222) 36-0249
〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F

広島電音サービスセンター

☎(082) 874-3787
〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39

浜松電音サービスセンター

☎(0534) 56-9211
〒432 浜松市東伊場2-13-12

〔本 社〕

電音サービス部 技術課

☎(0534) 65-1111
〒430 浜松市中沢町10-1

※住所及び電話番号は変更になる場合があります。

エレクトーン豆知識 ()内の数字は、本書で説明しているページ数です。

ア ●アップパー
「上」という意味です。エレクトーンではおもに上鍵盤関係のことをさします。

●アルペジオコード(11ページ)
下鍵盤をおさえつづけるだけで、リズムに運動したコード伴奏やアルペジオ(分散和音)伴奏が自動的にでてくる機能です。

●アンサンブル(11・12ページ)
上鍵盤と下鍵盤の音色グループ(アルペジオコードを含む)を呼びだす働きをするセクションで、各音色グループのON/OFFを集中的にコントロールすることができます。

●アンサンブルボイス(12～13ページ)
バイオリンアンサンブルや人間のコーラスの響きなどがプリセットされている音色グループで、ME-600の上・下鍵盤にあります。

●イントロ(11ページ)
前奏のことですが、エレクトーンでは、イントロ・エンディングスイッチをONにしてリズムをスタートさせれば、1小節のリズムのイントロが自動的に得られます。

●イントロカウント(12・13ページ)
C.S.P.またはM.P.を再生させるとき、このボタンをONにしておくと、再生がスタートするまえに1小節のイントロカウント(メトロノームの音)が得られます。

●インサート(12ページ)
C.S.P.にプログラムした情報を訂正しているとき、新しい情報を追加したい場合におすボタンです。

●ウェーブ(12ページ)
ボイスメニューの音色のひとつで、砂浜に打ちよせる波の音が得られる特殊な効果音です。

●8ビート(11ページ)
ロックの基本的なリズムで、2種類のパターンがリズムパターンとして用意されています。

●エキストラパーカッション(11ページ)
選んだリズムパターンに、打楽器音を追加する機能です。

●EXP.IN端子(11ページ)
シンセサイザーやリズムマシンなどを接続する端子です。

●エクスプレッションペダル(11ページ)
演奏しながら音量をコントロールし、音に強弱の表情をつけるペダルです。

●エディット(12～13ページ)
「編集する」という意味で、C.S.P.のエディットボタンをONにすると、プログラムした情報の確認と訂正ができるようになります。

●ABC(11～12ページ)
エレクトーンでは、オートベースコードの頭文字をとって、ABCと呼ぶことがあります。

●エフェクト(12～13ページ)
トレモロ、シンフォニック、ビブラート、サステインなどの「効果」のことです。

●FM音源方式
周波数変調によって複雑な倍音成分をとりだし、一瞬一瞬でデジタル演算処理をする音源方式です。ME-400・ME-600の音色は、すべてFM音源方式によって音づくりがされています。

●M.P.(12～13ページ)
ミュージックプログラマーを略して表記したものです。

●エラー(12ページ)
レジストレーションバックを使って情報の書きこみや読みだしの操作をしているとき、正常に機能しなかった場合にランプが点灯します。

●エンディング(11ページ)
曲の終わりなどで、イントロ・エンディングスイッチをONにすれば、2小節のリズムのエンディングパターンが得られ、自動的にリズムはストップします。

●エンディングバリエーション(11ページ)
リズムのエンディングパターンを変化させるボタンです。

●エンドボタン(→)(11ページ)
C.S.P.のプログラムで、一瞬最後に終止記号をプログラムするとき使うボタンで、ト音記号ボタンをおしながらこのボタンをおします。

●AUX.IN端子(11ページ)
レコードやテープなどの音をエレクトーンからだしたいときなどに接続する端子です。

●AUX.OUT端子(11ページ)
外部スピーカーを使ったり、テープに録音するときなどに接続する端子です。

●オクターブ
ある音に対して、8度の音程をもつ音をさします。したがって音名は同じです。

●オーケストラ(11・12ページ)
コンビネーション/オーケストラの音色グループのうち、ストリングス、ブラス、リードなどオーケストラで使われる楽器の音色をさします。

●オートベースコード(11～12ページ)
下鍵盤のコード伴奏とペダル鍵盤のベース伴奏が自動的にできる機能です。

●オートリズム(11～12ページ)
さまざまな打楽器音が自動的にリズムをきざむ機能で、16のパターンが用意されています。

●オリジナルボイス(11～12ページ)
グレーのボタンに移したボイスメニューの音色を部分的にキャンセルし、表示されているとおりの音色にもどしたいときに使います。

●音色(おんしょく)
ねいろのことです。エレクトーンではストリングス、ピアノ、フルートといった楽器名などが表示されていますが、これらを総称して音色と呼んでいます。

●音程
音と音との間隔のことで、同じ高さの音を1度音程、隣りの音を2度音程、オクターブ上の音は8度音程です。

●音量
音の強さ、大きさのことで、エレクトーンではボリュームと表示されているボタンやつまみで音量をセットします。

カ ●カスタムA.B.C.(11ページ)
オートベースコードの使い方を選ぶボタンのひとつで、このボタンをONにすると、下鍵盤とペダル鍵盤の自動伴奏がきりはなされます。

●カスタムボイス(11・12・13ページ)
いろいろな楽器音が単音で得られる音色グループで、上鍵盤または下鍵盤で使うアッパー/ローカustomボイスと、ペダル鍵盤用のペダルカスタムボイスがあります。

●カセット&バック(11～12ページ)
マルチメニューの機能のひとつで、エレクトーンに記憶させた情報をカセットテープやレジストレーションバックに移すことができます。

●カーソル移動ボタン(←・→)(12ページ)
カーソルとは、パソコンやワープロなどで、情報をインプットしようとする位置を示す指針のことです。C.S.P.では、エディットがON(またはクリア/レコードがON)のとき、これらのボタンでカーソルを移動させることができます。

●キャンセル(11ページ)
取り消しという意味です。レジストレーションメモリーのキャンセルボタンをおすと、1～8の数字のボタンをおすまえのレジストレーションにもどすことができます。

●クワイエット(11ページ)
ボイスメニューの音色のひとつで、16～18世紀ごろ使われた単純な構造の鍵盤楽器です。

●クリア(11ページ)
M.P.に新しい曲を録音するとき使うボタンです。コンファームボタンをおしながらこのボタンをおすと、それまで記憶していた情報がクリア(消去)されます。

●クリア/レコード(11ページ)
C.S.P.に新しい曲のコードをプログラムするときにおすボタンです。

●グレーのボタン(11～12ページ)
コントロールパネルの各音色グループには、右端に2つずつグレーのボタンがあり、ここにボイスメニューの音色を移すことができます。

●減衰音(11・12・13ページ)
鍵盤をおさえつづけても、途中で自然に消えていく音です。

●リズム(11・12ページ)
さまざまなイメージサウンド(おもにシンセサイザーでよく使う音)が得られる音色で、ボイスメニューの音色などに用意されています。

●コードマーク(→)(11ページ)
演奏をコード(とくにつけ加えられた終止部分)に導くための記号ですが、C.S.P.のプログラムでは、[C→]、[Fine]、[中]のところでコードマークのボタンを使います。

●コードキャンセル(11ページ)
C.S.P.を再生させるとき、このボタンをONにしておくと、下鍵盤とペダル鍵盤の伴奏の再生をキャンセルすることができます。(レジストレーションはプログラムしたとおりに再現されます。)

●コードコピー/フロムC.S.P.(11ページ)
C.S.P.でプログラムしたコード進行を、M.P.に移す機能で、下鍵盤でコードを弾かなくても、M.P.の伴奏として記憶させることができます。

●コードシークエンスプログラマー(11～12ページ)
4曲分の伴奏を、あらかじめプログラムしておくことができる機能です。それぞれのレジストレーションも一緒にプログラムすることができます。

●コードネーム(11～12ページ)
和音の略記法のひとつで、和音の根音をアルファベットで表わします。Cはシーメジャー、Amはエーマイナー、G7はジーセブンスという和音です。

●コーラス(12・13ページ)
ゆっくりと音がうねり、回転しているような響きにする効果で、コンビネーション/オーケストラの音色にかけることができます。

●根音(11ページ)
和音のもとになる音で、ドミソの和音ならドが根音です。

●コンビネーション(11・12ページ)
「組みあわせ」という意味で、エレクトーンでは、いろいろな音を組みあわせてつくったオルガン音色のことをいいます。

●コンファーム(11・12ページ)
「確認する」という意味で、M.P.のクリアボタンをおすときや、レジストレーションバックへの情報の書きこみ、エレクトーンへの読みだしの操作をするときにおすボタンです。

サ ●サステイン(12ページ)
鍵盤から手や足をはずしたあと、音に余韻をつける効果でマルチメニューのパネルを使ってあらかじめセットしておくことができます。

●C.S.P.(11～12ページ)
コードシークエンスプログラマーを略して表記したものです。

●持続音(11・12・13ページ)
鍵盤をおさえている間、ずっと持続してでてくる音です。

●16ビート(11ページ)
16分音符を基本としたリズムパターンで、ロックやフュージョン、ジャズなどの音楽で使います。

●シングルフィンガー(11ページ)
オートベースコードの使い方を選ぶボタンのひとつで、このボタンをONにすると、下鍵盤で和音の根音をおさえることでコードとベースの自動伴奏が得られます。

●シンクロスタート(11ページ)
シンクロとは「時を同じくする」という意味です。シンクロスタートをONにすれば、伴奏と同時にリズムをスタートさせることができます。

●シンフォニック(11・12ページ)
複数の楽器で合奏しているときのような、ひろがりのある響きにする効果で、コンビネーション/オーケストラの音色にかけることができます。

●スイング(11ページ)
ジャズの標準的なリズムパターンです。

●スティールドラム(11ページ)
ボイスメニューの音色のひとつで、カリブソなどの音楽でよく使われる素朴なメロディ・打楽器です。

●ステレオヘッドホン端子(11ページ)
ME-600の付属端子のひとつで、ヘッドホンを接続する端子です。

●ストリングス(11・12ページ)
弦楽器のことで、オーケストラやME-600のアンサンブルボイスの音色として用意されています。

●スペシャルリセット(11・12ページ)
ピアノやジャズギターの音など、おもに減衰音がプリセットされている音色グループで、上鍵盤または下鍵盤からだすことができます。

●セブンスコード(11～12ページ)
長三和音に短7度の音を加えた和音です。オートベースコードのシングルフィンガーでは、和音の根音とそれより左側の白鍵を同時におさえることで得られます。

●セーブ(11～12ページ)
情報を「書きこむ」ということをいいます。エレクトーンでは、カセットテープやレジストレーションバックに情報をセーブさせることができます。

●セーニョ(→)(11ページ)
[D.S.]からこのマークのところまでもどることを指示する記号ですが、C.S.P.のプログラムでは、[D.S.]、[中]のところでセーニョのボタンを使います。

●セレステ(11ページ)
シンフォニック効果よりもゆったりとしたかかり方で音がひろがる効果で、ME-600のコンビネーション/オーケストラの音色にかけることができます。

●ソング(11・12・13ページ)
C.S.P.には4つのソングボタンがあり、それぞれのボタンにコード進行をプログラムすることができます。記憶させるときや、確認・訂正をするとき、再生させるときは、4つのなかからひとつを選びます。

●ダ・カーボ(D.C.)(11ページ)
曲の最初までもどることを指示する記号で、C.S.P.のプログラムでは、[D.C.]のボタンをかわりに使います。

●ダルセーニョ(D.S.)(11ページ)
セーニョ(→)までもどることを指示する記号ですが、C.S.P.のプログラムでは、[D.S.]、[D.C.]のところで使います。

●チェレスタ(11ページ)
ボイスメニューの音色のひとつで、鉄琴のような音が得られる鍵盤機構つきの楽器です。

●ディスコ(10ページ)

ディスコダンス用のリズムパターンで、シンプルなビートと強めのアクセントが特徴です。

●ディストーションギター(10ページ)

ボイスメニューの音色のひとつで、ディストーション効果(歪み)のきいたエレクトリックギターです。

●ディレイ(10ページ)

「遅れ」という意味で、カスタムボイスのプレイヤービブラートでは、ディレイのボタンをセットすることで鍵盤をおさえてからビブラートがかかりはじめるまでの時間を遅らせることができます。

●ティンパニ(10ページ)

マルチメニューの音色のひとつで、オーケストラでよく使われる大型の打楽器です。

●デプス(10ページ)

「深さ」という意味で、プレイヤービブラートでは、音のふるえ方の深さをセットすることができます。

●デリート(10ページ)

「消去する」という意味で、C.S.P.にプログラムした情報を訂正しているとき、余分な情報を消したい場合におすボタンです。

●テンポ(10ページ)

速度のことで、オートリズムではリズムの速さをテンポのつまみでコントロールします。

●テンポランプ(10ページ)

リズムの速さを表示するランプで、リズムをスタートさせると、ランプの点滅が左から右に走行します。

●トゥーカセット(10ページ)

エレクトーンの情報をカセットテープに移すときに使うボタンです。コントロールパネルの下に、そのときレコーダーと接続するためのトゥーカセット端子があります。

●トゥーバック(10ページ)

エレクトーンの情報(レジストレーションメモリーとC.S.P.)をレジストレーションバックに移すときに使うボタンです。

●ト音記号ボタン(10・10ページ)

C.S.P.で終止記号(→)をプログラムするときや、カーソルを一度に曲の先頭または最後に移動するときに使うボタンです。

●トランスポジション(10ページ)

マルチメニューの機能のひとつで、エレクトーン全体の音程を半音の単位でかえることができます。

●トレモロ(10・10ページ)

音をうねらせ、豊かな響きをもたせる効果で、コンビネーション/オーケストラの音色にかけることができます。

ナ ●ノーコード(10ページ)

伴奏のないリズムだけの部分のことで、C.S.P.では、下鍵盤を弾かずには拍長ボタンだけをおすことでプログラムされます。

●ノーマル(10ページ)

「普通の」という意味で、トランスポジションとピッチでは、ノーマルボタンをおすことで、本来の音程にもどすことができます。

ノ ●バウンス(10ページ)

ジャズのリズムパターンのひとつで、ビッグバンドの曲などで使います。

●拍長ボタン(10・10・10・10)(10ページ)

C.S.P.のプログラムで、コードの長さを指定するボタンです。下鍵盤でコードをだしながら拍長ボタンをおすことで、コードがプログラムされます。

●バックボタン(10)(10ページ)

C.S.P.のエディットをしているとき(またはプログラムをしているとき)、このボタンをおせば、カーソルをまえにもどすことができます。

●ハーブシコード(10・10ページ)

スペシャルプリセットの音色のひとつで、チェンバロとも呼ばれる16〜18世紀ごろの鍵盤楽器です。

●バラード(10ページ)

スイングにアフタービートのかかったリズムパターンで、スローなボビュラーに通じます。

●バランス(10・10・10ページ)

上鍵盤の音量と下鍵盤の音量のバランスをコントロールするバランス(マニュアルバランス)と、リズムを構成している打楽器音の音量バランスをコントロールするバランス(リズムバランス)があります。

●パンフルート(10ページ)

マルチメニューの音色のひとつで、牧歌的な響きをもった素朴な管楽器です。

●ビブラート(10ページ)

音をふるわせ、うるおいをもたせる効果で、エレクトーンの音色には、それぞれの音色にふさわしいようにあらかじめビブラートが組みこまれています。

●ピッチ(10ページ)

マルチメニューの機能のひとつで、エレクトーン全体の音程を微妙にかえることができます。

●フィルイン(10ページ)

メロディーなどを装飾する助奏のことをいいますが、オートリズムのフィルインスイッチをONにすればリズムパターンを一時的に変化させるリズムフィルインが得られます。

●フィルインバリエーション(10ページ)

リズムのフィルインパターンを選ぶボタンのひとつで、フィルインモードのON/OFFに対して、それぞれ2通り(ON/OFF)のパターンを選ぶことができます。

●フィルインモード(10ページ)

リズムのフィルインパターンを選ぶボタンのひとつで、OFFだとすべての打楽器音のパターンが変化し、ONにすると基本的なパターンは変化しないフィルインになります。

●フィンガードコード(10ページ)

オートベースコードの使い方を学ぶボタンのひとつで、このボタンをONにすると、下鍵盤でコードをおさえることでコード伴奏とともにベース伴奏が自動的に得られます。

●フェイス(10ページ)

音に独特の回転感をもたせる効果で、ME-600のスペシャルプリセット音色にかけることができます。

●フォワードボタン(→)(10ページ)

C.S.P.のエディットをしているとき(またはプログラムをしているとき)、このボタンをおせば、カーソルを先に進めることができます。

●フットスイッチ(10ページ)

エクспRESSIONペダルの左横にあるスイッチで、左におすことでリズムのストップなど、いろいろなコントロールができます。

●フットスイッチセレクター(10ページ)

フットスイッチの働きを選ぶボタンで、リズムストップ、フィルイン、ブレーク、エンディングの4つの使い方が選べます。

●ブラス(10・10ページ)

金管楽器のことで、オーケストラやME-600のスペシャルプリセットの音色として用意されています。

●フリューゲルホルン(10ページ)

ボイスメニューの音色のひとつで、トランペットの音をソフトにした響きで得られる金管楽器です。

●FWM(フルウェーブメモリー)音源方式

実際の楽器の波形をデジタル録音によって収録し、メモリーした音源方式です。ME-400・ME-600のリズム音は、FWM音源方式によって音づくりがされています。

●プレイヤービブラート(10ページ)

マルチメニューの機能のひとつで、ビブラートのかかり方をプレイヤーが好きなようにセットすることができます。

●ブレーク(10ページ)

伴奏やリズムなどを一時的に停止させることをいいますが、オートリズムのブレークスイッチをONにすれば、リズムを一時的にストップさせることができます。

●フロムカセット(10ページ)

カセットテープに移した情報をエレクトーンにもどすときに使うボタンです。コントロールパネルの下に、そのときレコーダーと接続するためのフロムカセット端子があります。

●フロムバック(10ページ)

レジストレーションバックに移した情報(レジストレーションメモリーとC.S.P.)をエレクトーンにもどすときに使うボタンです。

●ペダル(10ページ)

エレクトーンでは、ペダル(足)鍵盤関係のことをさします。

●ヘッドホン端子(10ページ)

ME-400の付属端子のひとつで、ヘッドホンを接続する端子です。

●ホイッスル(10ページ)

ボイスメニューの音色のひとつで、口笛の音で得られます。

●ボイス

「声」という意味ですが、エレクトーンでは音色と同じような意味に使います。

●ボイスメニュー(10ページ)

マルチメニューの機能のひとつで、2面のパネルに用意されている28の音色を、コントロールパネルのグレーのボタンに移して使うことができます。

●マイクロホン(MIC)端子(10ページ)

マイクロホンを接続するための端子です。

●マイクロホンボリューム(10ページ)

接続したマイクロホンの音量をコントロールするつまみです。

●マイナーコード(10ページ)

短調の和音のことで、Am、Dmというように表わします。オートベースコードのシングルフィンガーでは、和音の根音とそれより左側の黒鍵を同時におさえることで得られます。

●マイナーセブンスコード(10ページ)

短三和音に短7度の音を加えた和音です。オートベースコードのシングルフィンガーでは、和音の根音とそれより左側の黒鍵と白鍵を同時におさえることで得られます。

●マスターボリューム(10ページ)

エレクトーン全体の音量をコントロールするつまみです。

●マルチメニュー(10・10ページ)

上鍵盤の右上にある回転パネルのことで、レジストレーションメニュー、C.S.P.、M.P.、ボイスメニューなど、いろいろな機能を使うことができます。

●MIDI(ミディ)端子(10ページ)

シンセサイザーやリズムマシーン、パソコンなどと接続してデータ交換をしたいときに使う端子です。送信するときは(MIDI OUT)、受信するときは(MIDI IN)に接続します。

●ミュージックプログラマー(10・10ページ)

伴奏パートとメロディーパートを別々に(または同時に)録音し再生させることができる機能です。レジストレーションと一緒に記憶させることができます。

●メジャーコード(10ページ)

長調の和音のことで、C、Fというように表わします。オートベースコードのシングルフィンガーでは、和音の根音とそれより右側の白鍵を同時におさえるだけで得られます。

●メニューオン(10・10ページ)

ボイスメニュー機能のスイッチの役割をするボタンで、ONにするとグレーのボタンに移したボイスメニューの音色が得られ(グレーのボタンに移すときONにします)、OFFにすると、グレーのボタンでは表示されているおりの音色が得られます。

●メモリー(10・10ページ)

オートベースコードのメモリーボタンは、下鍵盤(またはペダル鍵盤)から手や足をはずしたあと、リズムと一緒に伴奏の音を鳴らしつづけたときに使います。レジストレーションメモリーの(M)ボタンは、コントロールパネルのレジストレーションを記憶させるときに使います。

●メロディーオンコード(10ページ)

上鍵盤で弾くメロディーにハーモニーを自動的に重ねることができる機能です。

●RAM(ラム)

書きこみと読みだしの両方ができるメモリー媒体(ランダムアクセスメモリー)のことで、レジストレーションバックはRAMの一種です。

●リズムバリエーション(10・10ページ)

リズムに変化をつける機能で、フィルイン、ブレーク、イントロ、エンディングなどがあります。

●リード(10・10ページ)

木管楽器などリード(舌)をもつ楽器のことで、オーケストラの音色として用意されています。

●リバーブ(10ページ)

大きなホールで演奏しているような残響をつける効果で、ME-600に用意されています。

●リピート(10・10ページ)

「くり返し」のことで、このボタンをONにすると、C.S.P.やM.P.の再生が自動的にくり返されます。

●リピートボタン(10・10・10・10)(10ページ)

C.S.P.のプログラムで、リピートマーク(くり返し記号)を記憶させるときに使うボタンです。

●レジストレーション

曲想にあったサウンドをつくりだすために行った、音色、効果、リズムなどのセッティングのことをいいます。

●レジストレーションメニュー(10ページ)

マルチメニューの機能のひとつで、16種類のレジストレーションがあらかじめ記憶されていて、ボタンひとつで呼び出すことができます。

●レジストレーションメモリー(10・10ページ)

コントロールパネルでセットしたレジストレーションを記憶させることができる機能です。

●レジストレーションバック(10ページ)

エレクトーンに記憶させたレジストレーションメモリーとC.S.P.の情報を移し、保存しておくことができるメモリーバックです。

●ロード(10・10ページ)

情報を「読み出す」ことをいいます。エレクトーンでは、カセットテープやレジストレーションバックから情報をロードすることができます。

●ローワー

「下」という意味です。エレクトーンではおもに下鍵盤関係のことをさします。

本社／〒130 浜松市中沢町10-1
TEL.0534(65)1111
東京支店／〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル
TEL.03(572)3111
大阪支店／〒512 大阪市南区南船場3-12-9/心斎橋プラザビル東館
TEL.06(251)1111
名古屋支店／〒166 名古屋市中区錦1-18-28
TEL.052(201)5111
九州支店／〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL.092(472)2151
北海道支店／〒061 札幌市中央区南十条西1-4/ヤマハセンター
TEL.011(512)6113
仙台支店／〒980 仙台市大町2-2-10/住友生命仙台青葉通ビル
TEL.0222(22)6111
広島支店／〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
TEL.082(244)3711
浜松支店／〒130 浜松市鍛冶町321-6
TEL.0534(54)4116

エレクトーン®は当社の登録商標です。

 **YAMAHA**
日本楽器製造株式会社